（様式第 10）

名 大 医 総 第６１号
令和 元年 ９月３０日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　国立大学法人名古屋大学
総長　松尾　清一　（印）

名古屋大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒464-8601　名古屋市千種区不老町
氏　　名	国立大学法人　名古屋大学

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

名古屋大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒466-8560
名古屋市昭和区鶴舞町65番地　　電話(052)741－2111

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有　・　無
内科と組み合わせた診療科名等 1呼吸器内科　2消化器内科　3循環器内科　4腎臓内科 5神経内科　6血液内科　7内分泌内科　8代謝内科 9感染症内科　10アレルギー疾患内科またはアレルギー科　11リウマチ科	
診療実績 神経内科：脳神経内科にて医療を提供している 内分泌内科、代謝内科：糖尿病・内分泌内科にて医療を提供している。 感染症内科：内科全般にて医療を提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科：内科全般と小児科にて医療を提供している。	

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	有　・　無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　6心臓血管外科　7内分泌外科　8小児外科	
診療実績 乳腺外科、内分泌外科：乳腺・内分泌外科にて医療を提供している。 心臓血管外科：心臓外科、血管外科にて医療を提供している。	

(注) 1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科　2小児科　3整形外科　4脳神経外科　5皮膚科　6泌尿器科　7産婦人科 8産科　9婦人科　10眼科　11耳鼻咽喉科　12放射線科　13放射線診断科 14放射線治療科　15麻酔科　16救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	有　・　無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 児童精神科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4 糖尿病・内分泌内科
5 老年内科	6 移植外科	7 形成外科	8 乳腺･内分泌内科
9 脳神経内科			

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
50床	床	床	床	1030床	1080床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　　種	常　勤	非常勤	合　計	職　　種	員　数	職　　種		員　数
医　　師	385人	351人	665.4人	看護補助者	58 人	診療エックス線技師		0 人
歯科医師	9人	26人	31.8人	理学療法士	35 人	臨床検査	臨床検査技師	83 人
薬　剤　師	85 人	11 人	96 人	作業療法士	8 人		衛生検査技師	0 人
保　健　師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	13 人		そ　の　他	0 人
助　産　師	33 人	0 人	33 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師		2.3人
看　護　師	1113 人	40　人	1145.5人	臨床工学士	40　人	医療社会事業従事者		12人
准看護師	1 人	0 人	1 人	栄　養　士	0 人	その他の技術員		61.1人
歯科衛生士	7 人	0 人	7 人	歯科技工士	1 人	事　務　職　員		368.3人
管理栄養士	8 人	0 人	8 人	診療放射線技師	74 人	その他の職員		8 人

（注）1　報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	79 人	眼科専門医	10 人
外科専門医	103 人	耳鼻咽喉科専門医	15 人
精神科専門医	13 人	放射線科専門医	26 人
小児科専門医	32 人	脳神経外科専門医	22 人
皮膚科専門医	7 人	整形外科専門医	40 人
泌尿器科専門医	12 人	麻酔科専門医	18 人
産婦人科専門医	25 人	救急科専門医	11 人
		合　計	413 人

（注）1　報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下１位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　小寺　泰弘　）　任命年月日　平成３１年　４月　１日

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで、名古屋大学医学部附属病院材料部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで、名古屋大学医学部附属病院医療機器総合管理部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	780.0人	10.6人	790.7人
1日当たり平均外来患者数	2.173.6人	82.0人	2.255.7人
1日当たり平均調剤数	757.1　剤		
必要医師数	207人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	27人		
必要（准）看護師数	472人		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	2,113m^2	鉄筋コンクリート	病床数	52 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積　291　m^2　病床数　27　床 ［移動式の場合］　台　数　台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床　積　54 m^2 ［共用室の場合］　共用する室名　薬歴管理室、高度医療薬剤支援室					
化学検査室	559　m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）生化学自動分析装置、免疫自動分析装置			
細菌検査室	128　m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）バクテアラート３Ｄ、マイクロスキャン			
病理検査室	341　m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）検体検査装置クリオスタット、自動脱水包埋装置			
病理解剖室	66　m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）解剖台、クリーンベンチ、臓器撮影台			
研究室	142　m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）次世代シーケンサー、質量分析装置			
講義室	55　m^2	鉄筋コンクリート	室数　1　室		収容定員　35人	
図書室	41　m^2	鉄筋コンクリート	室数　1　室		蔵書数　8,400　冊程度	

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹　介　率	63.4　%	逆　紹　介　率	54.4　%
算出根拠	A：紹　介　患　者　の　数		15,482 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,578 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		333 人
	D：初　診　の　患　者　の　数		24,918人

（注）1　「紹介率」欄は、Ａ、Ｃの和をＤで除した数に 100 を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、ＢをＤで除した数に 100 を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。
3　Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
柵木　充明	愛知県医師会会長	○	愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・(無)	1
三島　信彦	AOI 名古屋病院病院長		AOI 名古屋病院病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・(無)	1
長谷川　ふき子	成田・長谷川法律事務所　弁護士		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	有・(無)	1
芦田　豊	全国健康保険協会　愛知支部　支部長		全国健康保険協会愛知支部長を務めており，医療を受ける者として，医療に係る高い見識を有しているため。	有・(無)	2
中東 正文	名古屋大学副総長		総長が指名する理事・副総長	(有)・無	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 本院ホームページ上に公表。	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	1人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	7人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法　腹膜播種を伴う初発の胃がん	15人
骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	2人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	1人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 特になし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	89	56	ベーチェット病	69
2	筋萎縮性側索硬化症	74	57	特発性拡張型心筋症	71
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	15
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	42
6	パーキンソン病	295	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	69
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	102	66	IgA 腎症	36
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	20
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	88	68	黄色靭帯骨化症	14
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	66	69	後縦靭帯骨化症	63
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	88
17	多系統萎縮症	39	72	下垂体性ADH分泌異常症	31
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	86	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	70	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	61
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	89
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	1
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	18	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	101
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	29
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	52
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	78
34	神経線維腫症	68	89	リンパ脈管筋腫症	14
35	天疱瘡	16	90	網膜色素変性症	46
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	8
37	膿疱性乾癬（汎発型）	1	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	17
40	高安動脈炎	34	95	自己免疫性肝炎	26
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	328
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	390
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	15	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	206	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	76	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	96	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	11	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	32	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	6
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	4
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	4
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	5	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	3	210	単心室症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	2	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	2
222	一次性ネフローゼ症候群	51	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	4	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	6
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	10
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
一般病棟 7対1入院基本料	・ 入退院支援加算2
精神病棟10対1入院基本料	・ 入退院支援加算3
・ 超急性期脳卒中加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 特定集中治療室管理料1
・ 看護職員夜間配置加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 療養環境加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 無菌治療室管理加算1	・ 小児入院医療管理料4
・ 無菌治療室管理加算2	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 緩和ケア診療加算	・ 歯科外来診療環境体制加算2
・ 精神科身体合併症管理加算	
・ 精神科リエゾンチーム加算	
・ 摂食障害入院医療管理加算	
・ 医療安全対策加算1	
・ 感染防止対策加算1	
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ ハイリスク妊娠管理加算	
・ ハイリスク分娩管理加算	
・ 総合評価加算	
・ 呼吸ケアチーム加算	
・ 病棟薬剤業務実施加算1	
・ 病棟薬剤業務実施加算2	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料 （人工内耳埋込術の届出により可）	・ 遺伝学的検査
・ 糖尿病合併症管理料	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
・ がん患者指導管理料イ	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
・ がん患者指導管理料ロ	・ 検体検査管理加算（Ⅰ）
・ がん患者指導管理料ハ	・ 検体検査管理加算（Ⅳ）
・ 外来緩和ケア管理料	・ 国際標準検査管理加算
・ 移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 胎児心エコー法
・ 院内トリアージ実施料	・ ヘッドアップティルト試験
・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・ 人工膵臓検査、人工膵臓療法
・ 外来放射線照射診療料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ ニコチン依存症指導管理料	・ 長期脳波ビデオ同時記録検査1
・ 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・ 脳波検査判断料1
・ がん治療連携計画策定料	・ 神経学的検査
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 補聴器適合検査
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 内服・点滴誘発試験
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 画像診断管理加算3
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料1	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 医療機器安全管理料（歯科）	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	・ 心臓MRI撮影加算
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 乳房MRI撮影加算
・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 小児鎮静下MRI撮影加算

・ 頭部MRI撮影加算	・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（過活動膀胱）
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・ 外来化学療法加算1	・ 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・ 無菌製剤処理料	・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）	・ 網膜再建術
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）	・ 人工中耳植込術
・ 運動器リハビリテーション料（Ｉ）	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）	・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
・ がん患者リハビリテーション	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
・ 歯科口腔リハビリテーション2	・ 乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 児童思春期精神科専門管理加算	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・ 精神作業療法	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・ 認知療法・認知行動療法1	・ 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・ 認知療法・認知行動療法2	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）

・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 医療保護入院管理等診療料	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・ CAD／CAM冠	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・ 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等
・ センチネルリンパ節生検（片側）	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 骨移植術（軟骨移植術含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））	・ 胸腔鏡下弁置換術
・ 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・ ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術及びﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術
・ 後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）	・ ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術及びﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術（ﾘｰﾄﾞﾚｽﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ）
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術及び両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術
・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・ 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術	・ 両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器移植術及び両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器交換術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 大動脈ﾊﾞﾙｰﾝﾊﾟﾝﾋﾟﾝｸﾞ法（IABP法）
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）	・ 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・ 補助人工心臓	・ 会陰形成手術（筋層に及ばないもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）

・ 植込型補助人工心臓（非拍動流型）	・ 造膣術、膣閉鎖症術（遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 同種心移植術	・ 子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 骨格筋由来細胞シート心表面移植術	・ 腹腔鏡下膣式子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・ 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
・ 体外衝撃波胆石破砕術	・ 子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・ 生体部分肝移植術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・ 同種死体肝移植術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・ 輸血管理料Ｉ
・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・ コーディネート体制充実加算
・ 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・ 麻酔管理料（Ｉ）

・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・ 麻酔管理料（Ⅱ）
・ 同種死体腎移植術	・ 放射線治療専任加算
・ 生体腎移植術	・ 外来放射線治療加算
・ 膀胱水圧拡張術	・ 高ｴﾈﾙｷﾞｰ放射線治療
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・ 1回線量増加加算
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・ 強度変調放射線治療（IMRT）
・ 尿道形成手術（前部尿道）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・ 画像誘導放射線治療加算 （IGRT）
・ 尿道下裂形成手術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 陰茎形成術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・ 定位放射線治療
・ 人工尿道括約筋植込・置換術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 陰茎全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・ 病理診断管理加算2
・ 精巣摘出術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）	・ デジタル病理画像による病理診断
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・ クラウン・ブリッジ維持管理料

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画（頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を伴う疾患に係るものに限る。）	・
・ 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・ 腹腔鏡下前立腺摘除術	・
・ 膀胱水圧拡張術（間質性膀胱炎に係るものに限る。）	・
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ インプラント義歯	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査（HDRA法又はCD－DST法）	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	解剖・病理部　月1回
剖　検　の　状　況	剖検症例数　17例　／　剖検率　4.4 %

（注）「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ベトナムにおける妊産婦管理および婦人科rare tumorの学際的研究	吉川 史隆	産婦人科	8,580,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症多発家系の大規模エクソーム解析に基づく疾患脆弱性因子の同定	木村 大樹	精神医学(精神医療学寄附講座)	2,600,000	補委	日本学術振興会
神経節細胞の質的診断を目指したAI病理診断システムの構築	千馬 耕亮	小児外科	2,860,000	補委	日本学術振興会
情動行動の基盤となる神経機序の解明	永井 拓	薬剤部	5,200,000	補委	日本学術振興会
新生児消化器疾患発症機序の分子生物学的解明に向けた解析ワークフローの確立	田中 裕次郎	小児外科	5,590,000	補委	日本学術振興会
FGFR3シグナルの活性化による骨軟骨機能の検討	鬼頭 浩史	整形外科	7,020,000	補委	日本学術振興会
グルカゴン関連蛋白と毛細血管機能にフォーカスした糖尿病性心筋症の病態に関する研究	室原 豊明	循環器内科学	5,590,000	補委	日本学術振興会
感情認識における心理・神経基盤解明:脳神経外科学・認知神経科学の融合	若林 俊彦	脳神経外科学	10,010,000	補委	日本学術振興会
AI遠隔医療プラットホームを活用した小児外科医療資源最適化への挑戦	城田 千代栄	小児外科	4,160,000	補委	日本学術振興会
臨床応用へ向けた温熱刺激による新規骨形成法	大田 剛広	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた誘導心筋細胞による心筋再生療法の開発	近藤 和久	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
血管内皮障害を呈する腎疾患におけるSulf2の機能解析と新たな治療戦略の探求	増田 智広	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
血液メタボローム解析を用いた食道癌術前化学療法の効果予測バイオマーカーの探索	丹羽 由紀子	医療の質安全管理	1,690,000	補委	日本学術振興会
機能連絡解析を駆使したてんかん外科コネクトームマップと定位的脳波記録による実証	前澤 聡	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
多様なmodalityによる振戦の病態解明とFUSやDBSによる病態修飾	中坪 大輔	脳神経外科	910,000	補委	日本学術振興会
R-spondin2を通じた変形性関節症の分子機構の解明とその治療薬の応用開発	竹上 靖彦	整形外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
胎児発育不全における生活習慣病に対する細胞療法の開発	北瀬 悠磨	総合周産期母子医療センター(新生児)	1,560,000	補委	日本学術振興会
MELTFを標的とした胃癌の新規診断法および治療法の開発	澤木 康一	消化器外科二	2,210,000	補委	日本学術振興会
心肺停止後症候群の早期神経学的予後予測: CAST scoreの確立に向けて	錦見 満暁	救急・集中治療医学	2,080,000	補委	日本学術振興会
TUG1を標的とした口腔癌新規エピゲノム治療法の開発	市村 典久	歯科口腔外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
MCIが運転能力に与える影響に関する追跡調査:神経認知課題の危険運転予測力の検証	荒川 直子(河野直子)	精神科	910,000	補委	日本学術振興会
スタチンエスケープが及ぼす冠動脈病変への影響	鈴木 進	循環器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
MEF2D融合遺伝子陽性急性リンパ性白血病における研究基盤の構築	鈴木 喬悟	小児科	2,080,000	補委	日本学術振興会
常在性腸内細菌叢由来生理活性代謝産物の探索	藤城 光弘	消化器内科学	3,250,000	補委	日本学術振興会
内耳老廃物排泄機構に着目した新機軸脳神経臨床画像診断の確立	長縄 慎二	放射線科	4,420,000	補委	日本学術振興会
競技種目特性に応じた呼吸筋トレーニングの明示:効果最大化計画	北田 友治	老年科	1,560,000	補委	日本学術振興会

計26件
累計26件

アジア太平洋地域における膜性腎症の診断・治療・疫学に関する調査研究	丸山　彰一	腎臓内科	4,290,000	補委	日本学術振興会
グリオーマの体液循環エクソソーム捕捉ナノデバイスを用いた低侵襲・高感度核酸診断	山道　茜	脳神経外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
乳歯歯髄幹細胞由来培養上清を用いた誤嚥性肺炎の治療法の開発	椙村　有紀子	口腔外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と認知症制御	祖父江　元	新学術	29,510,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と神経回路破綻の可視化	祖父江　元	新学術	44,200,000	補委	日本学術振興会
心不全における心筋配向変化の多元計算解剖学解析ーマイクロCTと組織標本の比較検討	秋田　利明	心臓外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
超高精細胸壁並行断面CTと人工知能によるびまん性肺疾患のコンピュータ支援診	岩野　信吾	放射線科	1,560,000	補委	日本学術振興会
分子トレーシングを基盤としたがんと神経の細胞標的分子の創製	夏目　敦至	脳神経外科	19,500,000	補委	日本学術振興会
デスモイド型線維腫症の病態に基づく診断、新規治療開発への学際的・国際的共同研究	西田　佳弘	整形外科	9,620,000	補委	日本学術振興会
精神障害の神経・グリアネットワーク病態解明：病態に基づく診断体系構築を目指して	尾崎　紀夫	精神医学	27,430,000	補委	日本学術振興会
分散型制御による麻痺治療を実現するサイバネティクス技術開発	平田　仁	手の外科学	22,880,000	補委	日本学術振興会
カテプシンK-Notch signal 経路 とサルコペニアに関する研究	葛谷　雅文	老年科	1,950,000	補委	日本学術振興会
幹細胞由来ペプチドを用いた革新的大動脈瘤治療法の開発	碓氷　章彦	心臓外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
体内で分解し残存異物とならない新規マグネシウムデバイス開発と各種疾患治療への応用	内田　広夫	小児外科	5,200,000	補委	日本学術振興会
重症心不全における心筋配向変化が心機能増悪をもたらす機序の解明	秋田　利明	心臓外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
スーパーエンハンサーによる脳腫瘍の発生と悪性化のクロマチンダイナミクスの解明	夏目　敦至	脳神経外科	5,980,000	補委	日本学術振興会
Drug repositioning 戦略による整形外科領域の新規医療開発	石黒　直樹	整形外科	5,590,000	補委	日本学術振興会
婦人科がんの個別化腫瘍免疫療法を目指した腫瘍浸潤リンパ球の基礎的研究	吉川　史隆	産婦	5,590,000	補委	日本学術振興会
過酷な培養環境に応答した細胞由来因子群による骨再生法	日比　英晴	口腔外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
トランスレータブル視覚弁別試験の基盤研究と創薬への応用	山田　清文	薬剤部	5,200,000	補委	日本学術振興会
骨格筋由来分泌蛋白を標的とした心血管病の病態解明と治療法の開発	大内　乗有	分子心血管病寄附	5,200,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞特異的マーカーを利用した糸球体腎炎の病態解明と新規細胞治療法の開発	丸山　彰一	腎臓内科	5,070,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患における神経コミュニケーション異常の分子病態解明と治療法開発	勝野　雅央	神経内科	4,810,000	補委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種特異的関連分子を標的とした新規腹腔内治療法の開発	小寺　泰弘	消化器外科2	7,280,000	補委	日本学術振興会
EDHFをターゲットとした新しい血管病の探索研究ー血管内膜肥厚とEDHFの関連ー	古森　公浩	血管外科	3,640,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌関連腹膜中皮に新機軸をおいた腹腔内細胞クロストークに関する学際的機能研究	梶山　広明	産婦人科	6,370,000	補委	日本学術振興会
ループス腎炎の炎症特異的診断バイオマーカー開発とその実用化に関する国際調査研究	坪井　直毅	腎臓内科	5,850,000	補委	日本学術振興会
進行期神経芽腫に対するKIRリガンド不一致臍帯血移植における分子学的基盤の解析	高橋　義行	小児科学	5,980,000	補委	日本学術振興会
表皮脂質の異常による魚鱗癬発症メカニズムの解明と新規治療薬開発への展開	秋山　真志	皮膚科学	6,500,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計55件

胆管癌融合遺伝子を標的にした新規核酸医薬の開発	椰野　正人	腫瘍外科学	8,840,000	補委	日本学術振興会
双極性障害のゲノムコピー数変異解析に基づく分子病態解明	久島　周	精神科	8,320,000	補委	日本学術振興会
正電荷ナノワイヤと高感度SNP検出装置による脳腫瘍リキッドバイオプシー遺伝子診断	栗本　路弘	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
心血管病におけるリンパ管新生療法の展開研究	清水　優樹	循環器内科（卒キャリ）	1,300,000	補委	日本学術振興会
胆道癌における包括的遺伝子配列解析による悪性化メカニズムの解明と臨床応用	尾上　俊介	消化器外科一	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経軸索再生における受容体型チロシンキナーゼALKの機能解析	町野　正明	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
腹腔内細胞コミュニケーションに基づくp53変異卵巣癌における腹膜進展機序の新展開	芳川　修久	産科婦人科（卒キャリ）	1,300,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症と将来の心血管障害発症との関連性～エピジェネティクスの観点より	牛田　貴文	産科婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興会
歯髄幹細胞由来エクソソームを用いたビスホスホネート関連顎骨壊死の治療法の開発	岡部　一登	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
幹細胞が分泌するエクソソームを用いた新たな骨再生治療法の開発	坂口　晃平	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ミクログリア制御による新規疼痛制御治療薬の開発	加納　史也	歯科口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
大腿骨頭形成による大腿骨頭壊死への新規治療法の開発	大澤　郁介	整形外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の再発予測・予後予測・治療標的としてのN6-メチルアデノシトシン修飾	園原　史訓	消化器外科二	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞とオプトジェネティクスによる運動機能再建と横隔膜ペーシングへの応用	佐伯　将臣	手の外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
難治性腹膜播種の完全除去を目指す大気圧プラズマを応用した革新的腹腔内治療の開発	池田　芳紀	産婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
神経筋ネットワーク変性における分子シグナル異常を標的とした治療法開発	飯田　円	神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液の流出入に伴う老廃物の排出機構に着目した周産期脳障害の病態解明	小野田　淳人	小児科（総合周産期（新生児））	1,560,000	補委	日本学術振興会
ノンターゲット定量プロテオミクスにおける試料調製法の開発	瀧 健太朗	分析・物質技術支援室生命情報解析技術グループ　分析機器部門	530,000	補委	日本学術振興会
がん疼痛患者におけるオピオイドスイッチング時の体内動態と薬理遺伝学的解析	宮崎 雅之	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
ADAMTS-3をターゲットとした統合失調症の発症メカニズムの解明	常浦 祐未	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
がん疼痛患者におけるフェンタニル舌下錠の使用中止に影響する因子の探索	加藤 博史	薬剤部	130,000	補委	日本学術振興会
凝固波形解析を用いた新規フィブリノゲン異常症検出法の有用性評価	鈴木 敦夫	臨床検査部門	530,000	補委	日本学術振興会
肺動脈造影検査の血管描出能を向上させる自動処理技術の開発	水口 貴詞	医療技術部放射線部門	520,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と認知症制御に関する国際共同研究を加速するための国際活動支援	祖父江　元	新学術	10,920,000	補委	日本学術振興会
大規模3次元CT画像データベースを利用した胸部疾患コンピュータ支援診断の開発	岩野　信吾	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
クローン病術後抗TNFα抗体維持療法の有効性と安全性に関する検討	中山　吾郎	消化器外科2	520,000	補委	日本学術振興会
医療現場の倫理問題への制度的関与の検討	飯島　祥彦	倫理審査	260,000	補委	日本学術振興会
Instructional designに基づく新しい内視鏡手術教育システム	藤原　道隆	クリニカルシュミレーション	1,560,000	補委	日本学術振興会
診療の質評価と共感への認識探索を通した医師の共感に関する自己評価再検討	高橋　徳幸	地域医療教育学寄附講座	1,040,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計84件

がん薬物療法における血管新生阻害作用に関連した臨床薬理研究	満間　綾子	ガンプロ	1,170,000	補委	日本学術振興会
高齢者の運動器疾患と酸化ストレス・栄養摂取に関する疫学的研究	関　泰輔	整形外科	260,000	補委	日本学術振興会
高齢者総合評価(CGA)の地域展開と地域在住高齢者の療養状況に関する研究	大西　丈二	老年科	1,170,000	補委	日本学術振興会
生薬成分・腸内細菌代謝産物によるサイトカイン・ケモカイン産生制御と抗炎症療法	石黒　和博	消化器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒト内視鏡生検検体を用いた腸炎上皮傷害に関わるバイオマーカーの探索的研究	中村　正直	消化器内科	650,000	補委	日本学術振興会
心筋疾患におけるKlotho-FGF系の病態生理学的意義の解明	奥村　貴裕	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
心臓線維化における老化制御因子WRNタンパクの役割	坂東　泰子(暮石泰子)	循環器内科	1,066,000	補委	日本学術振興会
新規脂肪由来分泌因子による血管リモデリング制御機構	大橋　浩二	分子心血管学寄附(循内)	1,560,000	補委	日本学術振興会
MKおよび血管拡張因子EETsを介した腎・血圧調節機構の解明と新規降圧療法の開発	加藤　佐和子	腎臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
ExosomesとマイクロRNAを用いた、安全性の高いオーダーメイド治療の開発	加藤　規利	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
白血球接着因子とその調節分子の糸球体腎炎における機能解析と細胞移入治療への応用	坪井　直毅	腎臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
免疫介在性ニューロパチーにおける傍ランビエ絞輪部に着目した軸索障害機序の解明	飯島　正博	神経内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
唾液メラトニン測定によるパーキンソン病における睡眠障害のバイオマーカー開発	中村　友彦	神経内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
クラスリン依存性エンドサイトーシス関連分子CALMを標的とした白血病治療の可能性	石川　裕一	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
カルバペネム耐性E. cloacaeの薬剤耐性機序と分子疫学に関する研究	八木　哲也	臨床感染制御	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳波－機能的MRI同時記録によるウエスト症候群のてんかん焦点の解明と予後予測	夏目　淳	障害児医療寄附(小児科)	1,300,000	補委	日本学術振興会
病的やせを伴う摂食障害の病態解明と新規治療法に関する研究	田中　聡	精神科	650,000	補委	日本学術振興会
社会的刺激への反射的応答に着目した自閉スペクトラム症の生物学的病態解明	岡田　俊	精神科	650,000	補委	日本学術振興会
Dual Source CTを用いた進行直腸癌の術前マネージメントシステムの確立	石垣　聡子	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳老廃物排泄機構の時空間的低侵襲画像評価法の開発	川井　恒	放射線科	910,000	補委	日本学術振興会
小児から老人まで、機能的脳MRIと生理学的指標とから見た発達・加齢	中根　俊樹	放射線科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Hybrid EMTの見地からみた胸管内微小腫瘍細胞の同定による新たな食道癌治療	小池　聖彦	消化器外科2	1,560,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞に対する新規治療戦略	角田　伸行	乳腺内分泌外科1	1,300,000	補委	日本学術振興会
TLR7を標的にした新規癌治療法における作用機序の解明	上原　圭介	消化器外科1	1,430,000	補委	日本学術振興会
システインの肝障害抑制に関する作用機序の解明	横山　幸浩	消化器外科1	1,300,000	補委	日本学術振興会
Pre-metastatic nicheを制御する新規転移抑制治療法の開発	水野　隆史	消化器外科1	1,170,000	補委	日本学術振興会
血中エクソソームを利用した膵癌タイプ別分類に基づくテーラーメード治療の確立	山田　豪	消化器外科2	1,430,000	補委	日本学術振興会
ビサボロール誘導体の作用機序の解明と臨床応用	國料　俊男	腫瘍外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞に対するエクソソーム投与による心筋再生誘導の検討	寺澤　幸枝	心臓外科	1,040,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計113件

大動脈形態の3D画像解析によるステントグラフト長期予後規定因子の分析	杉本　昌之	血管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経筋接合部保持が神経機能再生にもたらす効果とその利用法の確立	大西　哲朗	手の外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる骨折・骨欠損新規治療法の開発	三島　健一	整形外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸レセプターCD44の断片化阻害による、軟骨細胞の脱分化抑制効果	高橋　伸典	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
薬物生体相互作用の多次元行列を用いた解析による、新薬力学モデルの開発	足立　裕史	麻酔・蘇生医学	1,040,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬は可逆的なヒストン脱メチル化に関与しているか	小西　裕子	麻酔科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来再生細胞による尿失禁再生治療の作用機序と前立腺癌細胞に対する影響の検討	後藤　百万	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
先天性難聴を誘発する新規分子の特定と予防・治療法の開発	曽根　三千彦	耳鼻科	1,560,000	補委	日本学術振興会
超高解像度眼底撮影装置・黄斑部局所網膜電図を用いた網膜血管と視機能の関係の検討	伊藤　逸毅	眼科	1,040,000	補委	日本学術振興会
網膜色素変性における網膜内層の機能と形態	上野　真治	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
2光子励起顕微鏡を用いたケロイド内膠原線維のライブイメージングとその解析	高成　啓介	形成外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
活性化大網培養上清を用いた難治性創傷治癒に与える影響に関する基礎的研究	亀井　譲	形成外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
アカデミックナースによる病院と大学のパートナーシップモデルの構築	寺田　八重子	卒後キャリア（看護）	1,820,000	補委	日本学術振興会
看護記録の質的点検を自動化する内容監査プログラムの研究開発	菅野　亜紀	メディカルITセンター	910,000	補委	日本学術振興会
介入による消化器癌周術期高齢者機能の改善と機能低下に影響するバイオマーカー探索	田中　千恵	消化器外科2	1,430,000	補委	日本学術振興会
本邦・アジア造血細胞移植レジストリの国際データ標準化に関する研究	鍬塚　八千代	先端医療	1,300,000	補委	日本学術振興会
抗がん薬による下痢・腸炎の病態解明と新治療法の開発	安藤　雄一	化学療法部	1,170,000	補委	日本学術振興会
地域連携クリティカルパスを用いた標準的癌診療工程プロセスとその最適化	白鳥　義宗	メディカルIT	1,560,000	補委	日本学術振興会
非B非C型肝癌における腸内細菌叢と治療介入	本多　隆	消化器内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
運動療法による冠動脈・頸動脈プラーク退縮と安定化、メカニズムの検討	石井　秀樹	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧症病状進行での血管新生抑制型アイソフォームVEGF-A165b役割解明	近藤　隆久	肺高血圧寄附講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
新規心臓特異的プロテインキナーゼが修飾する生理機能の解明	竹藤　幹人	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
オメンチンを標的とした心血管病の治療開発	柴田　玲	先端循環器寄附講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
心筋細胞の最終分化における核内受容体の役割　－心筋再生医療を目指した基盤研究－	海野　一雅	循環器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
IL-7を基軸とした重症呼吸器感染症に対する新規免疫療法の開発	進藤　有一郎	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞性を有する肺癌循環腫瘍細胞解析による分子標的薬耐性克服治療の開発	長谷　哲成	呼吸器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
CD147による細胞内輸送・代謝機構の解明と糖鎖修飾調整を介した新規治療法の開発	小杉　智規	腎臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞に着目した腎間質線維化の機序解明と新規治療法の開発	齋藤　尚二	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経特異的polysome解析によるALS/FTLD病態解明と分子標的療法の開発	井口　洋平	神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計142件

家族性アミロイドポリニューロパチーにおける末梢神経障害の機序解明と新規治療法開発	小池　春樹	神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症の進行、予後に関連する因子を基にした治療法開発	熱田　直樹	神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
多能性幹細胞から視床下部と下垂体の機能的ユニットを作る	須賀　英隆	糖尿病内分泌内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
BOECを用いたvon Willebrand病の細胞科学的的解析と治療への応用	松下　正	輸血部	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規FLT3阻害剤の有用性と選択根拠となる分子病態の解明	清井　仁	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫の臓器指向性に関わる腫瘍細胞と微小環境の相互作用の解明と新規治療開発	島田　和之	血液内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳波の紡錘波状速波に着目した早産児神経ネットワーク変容過程の解明とその臨床制御	城所　博之	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーを応用した小児重症ウイルス感染症の診断	川田　潤一	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周産期低酸素性虚血性脳症に対する新規二段階細胞療法の開発	佐藤　義朗	周産母子（小児科））	1,430,000	補委	日本学術振興会
中鎖脂肪酸トリグリセリド食を基盤とした先天性魚鱗癬の治療法開発	小川　靖	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬の使用による自己抗体と抗腫瘍抗体産生の解明	室　慶直	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
モデルマウスと抗体アレイによる網状肢端色素沈着症の包括的病態解明と治療薬開発	河野　通浩	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
双極性障害の運転適性を判断する臨床指標の探索	岩本　邦弘	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢期における精神病性症状の神経病理学的基盤の解明	入谷　修司	精神医療寄附講座	910,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の発症リスクとなるゲノムコピー数変異が脳内ネットワークに与える影響	山本　真江里	精神科	1,690,000	補委	日本学術振興会
SNRIの疼痛緩和メカニズム探索に関する基礎および臨床の連携研究	木村　宏之	精神科	650,000	補委	日本学術振興会
脳神経変性疾患検出を目的としたグルタミン酸トランスポーターイメージング剤の開発	山口　博司	新学術	1,430,000	補委	日本学術振興会
拡散画像によるヒト脳内グリンパティック系の非侵襲的評価とアルツハイマー病への応用	田岡　俊昭	放射線科	1,430,000	補委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後の諸問題解決を目指すMRIの新戦略	竹原　康雄	量子医学（新規低侵襲～寄附講座）	780,000	補委	日本学術振興会
小児肝移植後持続性高EBウイルス血症の病態及びグラフト肝における線維化機序の解明	亀井　秀弥	移植外科	650,000	補委	日本学術振興会
胃癌に対する胃切除術後の持続血糖測定を用いたダンピング症候群の定量的評価	小林　大介	消化器外科二	2,860,000	補委	日本学術振興会
国際共同研究による新規胃癌血清腫瘍マーカーの開発と血中移行機序の検討	神田　光郎	消化器外科二	1,430,000	補委	日本学術振興会
TFF1の膵癌抑制効果の検証と膵癌治療に対する有用性の検討	山口　淳平	消化器外科一	1,300,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞後リモデリングを抑制するクラリスロマイシン徐放性生体吸収性シートの開発	大島　英揮	心臓外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞分泌分子による心臓移植後の新しい免疫寛容誘導の開発	藤本　和朗	心臓外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
骨親和性ペプチドを付与した、生体適合性骨髄止血材料の開発	伊藤　英樹	心臓外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
活性型ビタミンD投与による大動脈瘤形成抑制効果の検討	新美　清章	血管外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
胸部稀少悪性腫瘍の細胞株樹立と遺伝子異常の解明	福井　高幸	呼吸器外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
包括的ゲノムプロファイリングに基づくIDH野生型神経膠腫の新規予後因子の機能解明	本村　和也	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計171件

進行期骨軟部肉腫に対する細胞外マトリックス制御による新規腫瘍免疫療法の開発	浦川　浩	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬はWntを介して一部の癌細胞を悪性化するか	林　智子	麻酔科	1,430,000	補委	日本学術振興会
アディポサイトカインと下部尿路機能障害	松川　宜久	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
膀胱虚血におけるNrf2の役割の解明;過活動膀胱の新規治療標的としての可能性	舟橋　康人	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
排尿筋低活動におけるウイルスベクターを用いたニューロトロピン遺伝子治療の検討	馬嶋　剛	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
バイオ3Dプリンターを用いた脂肪幹細胞含有自己組織化尿道の作成	山本　徳則	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
胎内炎症曝露が及ぼすエピジェネティック変化とその制御	小谷　友美	産婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
正常眼データベースとの比較による網膜疾患の眼血流動態の解明	岩瀬　剛	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
放射線治療後の皮膚線維化・瘢痕化障害に対する治療法の開発	菱田　雅之	形成外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
オッセオインテグレーションを構成するコンドロイチン4硫酸の機能解析	土屋　周平	口腔外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
エキスパートナースの認知行動のフレーム意味論的解析の看護支援システムへの統合	舩田　千秋	メディカルIT	1,560,000	補委	日本学術振興会
アート×医療:演劇を必修科目とする卒前看護教育プログラムの開発と効果の検証	岡崎　研太郎	地域医療寄附講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
看護業務量推計モデルを基にした病棟マネジメント基盤開発	佐藤　菊枝	メディカルIT	1,300,000	補委	日本学術振興会
在宅高齢者夫婦世帯における行動変容をもたらす継続可能な転倒予防プログラムの開発	三浦　昌子	キャリア看護	1,430,000	補委	日本学術振興会
地域連携における医療介護情報の信頼性および情報に基づいたサービス選択に関する研究	大西　丈二	老年科	1,300,000	補委	日本学術振興会
スコットランドと日本における糖尿病、認知症とソーシャルキャピタルとの関連性	末松　三奈	地域医療教育学寄附講座	2,600,000	補委	日本学術振興会
MECP2を起点とした精神神経疾患の共通分子病態の解明	辻村　啓太	精神医学	2,470,000	補委	日本学術振興会
ALS/FTLDおよびタウオパチーに共通する病態基盤の解明	石垣　診祐	神経内科学(難治性神経寄附講座)	1,560,000	補委	日本学術振興会
高齢者がん治療におけるQOL情報の有用性に関する研究	安藤　昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症に対する骨格筋トランスポーターを標的とした治療法開発	土方　靖浩	神経内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症に対するリュープリロレリン酢酸塩長期投与時の有効性評価	橋詰　淳	神経内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳血管奇形に対するフレームレス光子線高精度照射法の精度向上と低侵襲化の検討	大宝　和博	量子医学(量子介入治療学)	2,730,000	補委	日本学術振興会
胸部放射線治療の内臓脂肪組織への影響:アディポサイトカインとがん幹細胞の役割	岡田　徹	放射線科(放射線部)	2,210,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた若年性骨髄単球性白血病のメチル化解析法の開発	村松　秀城	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
急性肝不全モデル動物におけるMCP-1,s Siglec9の有用性	石上　雅敏	消化器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
好塩基球の慢性気道炎症難治化因子およびバイオマーカーとしての可能性	若原　恵子	呼吸器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
腹膜組織解析による腹膜硬化症から被嚢性腹膜硬化症への進展機序とリスク因子の検討	鈴木　康弘	腎不全システム治療学寄附講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
腹膜透析による補体系への影響と、腹膜傷害進展への機序の解明及びその制御	水野　正司	腎不全システム治療学寄附講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病における2つのフルクトース代謝酵素の役割の解明とその治療応用	石本　卓嗣	腎臓内科	1,690,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計200件

日本の一次性膜性腎症における責任抗原ごとの病態理解と新規診断法の確立	秋山　真一	腎臓内科学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	2,860,000	補委	日本学術振興会
移植前にGVHD関連T細胞を推定するヒト急性GVHDにおけるT細胞応答の解析	村田　誠	血液・腫瘍内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
T細胞レセプター遺伝子導入T細胞における細胞内シグナルの増強	寺倉　精太郎	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
不適合HLA抗原を標的とした移植後再発に対するTCR導入T細胞療法の開発	赤塚　美樹	分子細胞免疫学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	1,820,000	補委	日本学術振興会
膵神経内分泌腫瘍自然発生マウスモデルを用いた腫瘍免疫療法の研究開発	菊森　豊根	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
局所切除可能な十二指腸乳頭部癌の新規診断方法の開発	川嶋　啓揮	消化器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肝切除のためのリアルタイムナビゲーションシステムの開発	伊神　剛	消化器外科一	2,080,000	補委	日本学術振興会
深紫外線による新規癌治療法の開発	宮田　一志	消化器外科一	2,210,000	補委	日本学術振興会
Trefoil Factorを軸としたBarrett食道発癌機序の解明	深谷　昌秀	消化器外科一	1,820,000	補委	日本学術振興会
Xa阻害剤をターゲットとした新しい血管病治療の探索研究	坂野　比呂志	血管外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
補体活性化制御によるSTEC-HUSの治療を目指した基盤研究	尾崎　将之	救急科（救急・内科系集中治療部）	1,430,000	補委	日本学術振興会
パスウェイ異常の同定によるもやもや病発症メカニズムの解明	荒木　芳生	脳神経外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
新規自己集合体ペプチドゲルを足場とした骨再生	安藤　圭	整形外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
神経筋接合部の機能改善を標的としたサルコペニア治療薬の探索	石井　久雄	手の外科（四肢外傷学寄附講座）	1,690,000	補委	日本学術振興会
高齢者運動器疾患の全身網羅的長期縦断解析と健康寿命延伸のための介入プログラム策定	今釜　史郎	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
炎症性サイトカインからみた内耳性難聴の病態解明と個別化医療への応用	寺西　正明	耳鼻咽喉科学	1,950,000	補委	日本学術振興会
メカノトランスダクションと幹細胞体内移動メカニズムを応用した組織再生法の開発	藤尾　正人	顎顔面外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
神経損傷後の加齢に伴う機能回復阻害因子を克服する薬理学的アプローチ	栗本　秀	手の外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
超音波内視鏡下エラストグラフィによる組織硬度測定による膵癌の臨床病理学的病態解析	大野　栄三郎	消化器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
小児漢方医学の歴史的経緯と現代小児科学への応用	川島　希	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
循環腫瘍DNAを応用した膵癌術前治療の新規効果判定法とサーベイランス法の開発	末永　雅也	消化器外科二	1,690,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患における神経回路障害の分子メカニズムの解明	飯田　円	神経内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
ALS発症に関与する新たなシナプス蛋白質の病態機序解明研究	横井　聡	神経内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
ANCA関連血管炎の病態評価に寄与する臨床検査法開発研究	菊地　良介	医学部附属病院医療技術部臨床検査部門	2,600,000	補委	日本学術振興会
心臓サルコイドーシスにおける18FDG-PETガイド下バイオマーカー解明研究	森本　竜太	循環器内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
フレイルおよびサルコペニア予防のための骨格筋リモデリングと再生機構解明	井上　愛子	老年科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ウェアラブルデバイスを用いたパーキンソン病早期診断マーカーの検討	鈴木　将史	神経内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
Genotype-to-phenotypeによる精神障害の新たな病態解明	石塚　佳奈子	親と子どもの心療科	2,600,000	補委	日本学術振興会
CCL2を抑制する間葉系幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療法の開発	鈴木　俊彦	小児科（総合周産期（新生児））	2,340,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計229件

新生児慢性肺疾患に伴う神経学的障害の病態解明と細胞を用いた新規治療法開発	村松　友佳子	小児科	1,950,000	補委	日本学術振興会
光を用いた肺がん征圧の試み：局所抗腫瘍免疫トリプルエンハンスメント	佐藤　和秀	呼吸器内科	2,600,000	補委	日本学術振興会
老化関連長鎖ノンコーディングRNAの制御による肺線維症難治性の克服	阪本　考司	呼吸器内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
LKB1が不活化した肺癌における腫瘍進展のメカニズムの解明	田中　一大	呼吸器内科	2,600,000	補委	日本学術振興会
自己炎症性角化症の多角的な病因解析	武市　拓也	皮膚科	2,210,000	補委	日本学術振興会
プロトロンビン変異体による血友病治療の可能性	鈴木　伸明	輸血部（検査部）	1,560,000	補委	日本学術振興会
新規急性リンパ性白血病におけるステロイド抵抗性機序の解明	奥野　友介	先端医療・臨床研究支援センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンスによる小児急性脳症の血液及び髄液エクソソームマイクロRNA解析	鳥居　ゆか	小児科	2,080,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食摂取による報酬系の炎症に着目した過食と肥満の機序解明	恒川　卓	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
レプチンシグナルを介する新たなメカニズムを持つインスリン依存性糖尿病治療薬の開発	伊藤　禎浩	循環器・腎臓・糖尿病（CKD）先進医療	1,170,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌と発生母地に着目したゲノムワイドなcircRNA探索	高見　秀樹	消化器外科二	2,340,000	補委	日本学術振興会
胃癌肝転移関連分子HOXC10のゲノム編集技術を応用した機能解析	宇野　泰朗	消化器外科二	2,340,000	補委	日本学術振興会
M1マクロファージからM2マクロファージへの形質転換を介した大動脈瘤治療の試み	緒方　藍歌	心臓外科学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	1,300,000	補委	日本学術振興会
クラリスロマイシンの多面的効果による、大動脈解離の分子病態是正を介した治療研究	内田　亘	心臓外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
鎮痛・抗炎症薬「コルヒチン」を用いた大動脈瘤治療の基礎的検討	宗像　寿祥	心臓外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻と下垂体ホルモンとの因果関係に関する研究	西堀　正洋	脳神経外科	650,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸による腱由来間葉系幹細胞の分化制御の解明と腱変性予防への応用	浅井　秀司	整形外科学(先端医療・臨床研究センター)	1,300,000	補委	日本学術振興会
3D積層プリント技術と整復シミュレーションの融合による上肢骨折個別化治療の実現	米田　英正	手の外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
健診システムを利用した疾患特異的cohort作成による手指変形性関節症の病態解明	中川　泰伸	手の外科（救急診療等運営本部）	1,690,000	補委	日本学術振興会
術後麻痺予防に向けた術中脊髄モニタリング波形解析と新規アラームポイントの策定	小林　和克	整形外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸合成酵素の遺伝子導入による新たな変形性膝関節の治療にむけて	石塚　真哉	整形外科（救急診療等運営本部）	1,950,000	補委	日本学術振興会
RUNX2を活性化するランソプラゾールに着目した新規骨再生製剤開発の基盤研究	岡部　由香	先端医療・臨床研究支援センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
新規標的蛋白LAMP-2による絨毛癌転移機構の解明	西野　公博	産科婦人科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒト生体内分子状水素濃度が妊娠に与える影響に関する研究	今井　健史	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
難治子宮頸癌におけるストレス顆粒に基づくメタジェニックストレス誘導EMTの新展開	内海　史	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
卵胞発育におけるFSHR発現制御機構の解明	中村　智子	産科婦人科	1,950,000	補委	日本学術振興会
分子状水素の母獣投与による早産児の後遺症低減への取り組み	中野　知子	産科婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
小児網膜疾患における網膜形態異常に対する多角的解析	野々部　典枝	眼科（総合周産期母子医療センター）	1,040,000	補委	日本学術振興会
加齢黄斑変性における病的新生血管の成熟と血管安定化の病態の統合的解析	片岡　恵子	眼科	1,690,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計258件

マクロファージ由来のエクソソームを用いた末梢神経再生研究	内堀　貴文	形成外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
CD109含有Exosomeの口腔扁平上皮癌マーカーへの応用	坂倉　寛紀	顎顔面外科学	650,000	補委	日本学術振興会
半導体レーザーを用いた新たな癌治療法開発とアブスコパル効果の検討	山口　聡	歯科口腔外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
質量分析法を用いた睡眠呼吸障害における脂質代謝異常のメカニズムの検討	宮田　聖子	精神医学(特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ)	1,560,000	補委	日本学術振興会
心房細動アブレーション治療の予後改善をめざした積極的生活習慣改善プログラムの導入	柳澤　哲	先端循環器寄附(循内)	1,170,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤の副作用として発症する下垂体炎の病態解明と診断法の開発	岩間　信太郎	糖尿病内分泌内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療法の開発	齊藤　明子	周産母子(小児科)	1,040,000	補委	日本学術振興会
統合失調症死後脳におけるオリゴデンドロサイト/ミエリンの神経病理学的研究	鳥居　洋太	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
22q11.2欠失細胞から捉える統合失調症の病態解明	有岡　祐子	先端医療	1,300,000	補委	日本学術振興会
MYH9異常症モデルマウスを用いた難聴発症メカニズムの検討	吉田　忠雄	耳鼻科	1,040,000	補委	日本学術振興会
転写因子複合体による新たな歯原性上皮幹細胞分化制御機構の解明	酒井　陽	口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
せん妄の薬物療法を開拓する:髄液分析および介入研究	中嶋　宏貴	老年科	780,000	補委	日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法における中性子ビームの患者個別最適化に関する研究	加茂前　健	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
運動療法を併用した慢性疲労症候群の集学的治療法の確立	佐藤　元紀	総合診療科	650,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧症の病態における血管新生因子(VEGF)の役割の解明研究	足立　史郎	肺高血圧寄附	650,000	補委	日本学術振興会
孤発性ALSにおける高次機能障害に影響する遺伝要因の同定	中村　亮一	神経内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
多系統萎縮症の認知機能における神経ネットワーク基盤の解明	原　一洋	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患におけるオートファジー関連分子の病態への関与	藤内　玄規	神経内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
Ph+ALLにおけるBCR遺伝子切断点の意義	西脇　聡史	先端医療	1,300,000	補委	日本学術振興会
小児再生不良性貧血におけるクローン性造血の網羅的遺伝子解析	成田　敦	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳磁図によるウェスト症候群のてんかん焦点の解明と予後予測	山本　啓之	小児科	910,000	補委	日本学術振興会
胎児発育不全に対する新規細胞療法の開発	伊藤　美春	周産母子(小児科)	1,430,000	補委	日本学術振興会
母親の精神的健康と児の発達や行動の関係、及びこれらに影響する心理社会的要因の検討	森川　真子	障害児寄附講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
3Dプリンタによる腹部内臓動脈瘤の血管モデル開発～最適な塞栓術を目指して～	駒田　智大	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
GNG4 およびASGR2 を標的とした胃癌肝転移特異的な治療・診断法の開発	田中　晴祥	消化器外科二	1,950,000	補委	日本学術振興会
髄膜腫の進展を制御するがん関連線維芽細胞への分化を司る足場メカノセンサー機構	棚橋　邦明	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
神経膠腫に対する術中迅速遺伝子診断技術の確立と、分子標的薬の前臨床的開発	青木　恒介	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷および脊髄傷害に対する、細胞死抑制効果を示す既認可薬の網羅的探求	都島　幹人	整形外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
胎児環境によるエピジェネティック変化を標的としたPCOS新規治療法の開発	大須賀　智子	周産母子(産婦人科)	1,300,000	補委	日本学術振興会

計29件
累計287件

がん微小環境の免疫因子解明に基づく難治性絨毛癌の新規治療戦略	新美　薫	産婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病モデルマウスを用いた糖尿病性聴覚障害、前庭機能障害の横断的検討	杉本　賢文	耳鼻科	780,000	補委	日本学術振興会
難治性網膜疾患の進行防止と、VEGFに依存しない追加治療法の充実	兼子　裕規	眼科	2,080,000	補委	日本学術振興会
腸管の免疫細胞応答における腹腔鏡手術の低侵襲性の評価	大島　一夫	小児外科	455,000	補委	日本学術振興会
線毛運動障害による髄液ダイナミクス異常とダイニンの分子生物学的解析	竹内　和人	脳神経外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
塩分過剰摂取が視床下部炎症を介して肥満を助長する機序の解明	高木　博史	糖尿病内分泌内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新規薬物の依存性や報酬効果の予測が可能なin vivo評価系の構築	永井　拓	薬剤部	2,600,000	補委	日本学術振興会
深紫外線LEDによる横断的加齢性疾患治療の基盤構築	西田　佳弘	整形外科学	3,120,000	補委	日本学術振興会
超高齢化社会の医療人材不足を克服する次世代医療用ウエアラブルセンサーの新規開発	内田　広夫	小児外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性肺疾患児の複数臓器障害に対する包括的細胞療法の開発	早川　昌弘	周産母子（小児科）	1,040,000	補委	日本学術振興会
開心術後癒着を防止するとともに心膜再生を誘導する新たな手術支援材料創出の試み	成田　裕司	心臓外科	650,000	補委	日本学術振興会
進行卵巣癌に対する新しい戦略的腫瘍溶解性ウイルス療法の開発	那波　明宏	ﾍﾞﾙﾘｻｰﾁ	910,000	補委	日本学術振興会
薬剤誘発リンパ管-静脈吻合によるリンパ浮腫に対する新しい治療法の開発	中村　優	形成外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
血液脳関門透過性の再定義に向けて	長縄　慎二	量子医学	2,080,000	補委	日本学術振興会
22q11.2欠失を起点とするiPS細胞を用いた統合失調症の脳・心臓病態解明	尾崎　紀夫	精神医学	4,290,000	補委	日本学術振興会
ナンセンス変異に対する内因性修復機構の解明と、その治療への応用研究	佐橋　健太郎	神経内科	2,990,000	補委	日本学術振興会
新たな細胞医薬戦略を目指した体細胞復帰変異発生機序の解析と制御法の開発	秋山　真志	皮膚科学	4,940,000	補委	日本学術振興会
新規骨格筋由来分泌因子の同定と心血管病における役割の解明	大内　乗有	循環器内科学（分子心血管寄附講座）	3,120,000	補委	日本学術振興会
敗血症患者の脾臓マクロファージをターゲットとした、新規核酸医薬開発	安田　宜成	循環器・腎臓・糖尿病（CKD）先進医療	3,770,000	補委	日本学術振興会
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	8,320,000	補委	厚生労働省
希少癌診療ガイドラインの作成を通した医療提供体制の質向上	小寺　泰弘	消化器外科学	14,428,000	補委	厚生労働省
地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	八木　哲也	臨床感染統御学	2,941,000	補委	厚生労働省
病理モデル開発と解析	石垣　診祐	新学術領域	5,200,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
細胞外微粒子による疾患の発症メカニズムと治療法の開発	長谷川　好規	呼吸器内科	11,050,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者における新興・再興感染症、インフルエンザ等に関する研究	八木　哲也	臨床感染統御学	800,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
多施設共同研究におけるがん患者に対する適切なQOL評価法確立のための研究	安藤　昌彦	先端医療開発部	800,000	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
心臓血管外科学分野に関する学術研究動向-新規術式による治療戦略の変遷と臨床成績の推移-	碓氷　章彦	心臓外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代プリンテッドエレクトロニクス材料・プロセス基盤技術開発／⑥フレキシブル複合機能デバイス技術の開発	内田　広夫	小児外科学	2,499,000	補委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
フレイル高齢者における下部尿路機能障害に対するガイドラインの作成に関する研究	後藤　百万	泌尿器科	1,000,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

計29件
累計316件

高齢者における排尿障害とフレイル・サルコペニアとの関係についての研究	松川　宜久	泌尿器科	700,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点	杉下　明隆	先端医療開発部	4,000,100	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
日本多施設共同コーホート研究(J-MICC study)におけるゲノム情報の解析への利活用と解析	中杤　昌弘	先端医療開発部	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
神経疾患における免疫病態の解明と治療法開発に関する研究	小池　春樹	神経内科学	500,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	中杤　昌弘	先端医療開発部	3,000,400	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者の運動器疾患と固有感覚受容との関連および固有感覚受容低下に対する治療法の開発	今釜　史郎	整形外科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の運動器疾患と固有感覚受容との関連および固有感覚受容低下に対する治療法の開発	関　泰輔	整形外科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の血栓性疾患、血液疾患におけるサルコペニアの実態に関する研究	松下　正	輸血部	500,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
骨格筋量と脊柱バランスの縦断的評価－脊椎変性疾患の自然経過と治療に及ぼす影響－	両角　正義	整形外科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
視機能が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法の標準化に関する研究	寺﨑　浩子	眼科	400,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ゾニサミドによるレビー小体型認知症におけるBPSD軽減効果の検証	勝野　雅央	神経内科学	855,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病におけるpreclinical/prodromal期からの自然歴解明とバイオマーカー開発	勝野　雅央	神経内科学	4,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
在宅医療や多職種協働の有益性に関するエビデンスの集積と在宅医療推進上の課題解決に向けての指針作成について	葛谷　雅文	地域在宅医療学・老年科学	800,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の認知機能低下に対する、心機能への修飾を介した、新規の予防法と治療法の開発(高齢者に普遍的に合併する左室拡張障害が脳循環へ与える影響に着目して)	因田　恭也	循環器内科学	800,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者における下部尿路機能障害に対するガイドラインの作成に関する研究	葛谷　雅文	地域在宅医療学・老年科学	2,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の認知機能低下に配慮した至適血圧域の解明:老年期にある健常者と軽度認知機能低下患者を対象とした、認知機能保持ないしその改善を最終目的とした、適切な血圧管理法に関する研究	梅垣　宏行	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ニンテダニブ治療中の特発性肺線維症に対する呼吸リハビリテーションの長期効果の検討	阪本　考司	呼吸器内科	54,000	補 委	特定非営利活動法人　中日本呼吸器臨床研究機構
SPP-004のミトコンドリア病を対象とした多施設共同長期投与試験	夏目　淳	小児科学(障害児(者)寄附講座)	500,000	補 委	埼玉医科大学病院
難治性軟部肉腫に対するNY-ESO-1抗原を標的としたワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験	西田　佳弘	整形外科	1,000,000	補 委	国立大学法人三重大学
SUN4936cⅡ相試験ヨード造影剤投与予定の腎機能障害患者を対象としたSUN4936cの安全性及び造影剤腎症予防効果の探索的臨床試験	室原　豊明	循環器内科学	324,000	補 委	公立大学法人奈良県立医科大学
生物学的製剤抵抗性クローン病を対象とした多施設共同二重盲検アドレノメデュリンphaseⅡ医師主導治験	中村　正直	消化器内科	600,000	補 委	国立大学法人宮崎大学
標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞(TLP0-001)の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験	山田　豪	消化器外科学	802,648	補 委	公立大学法人和歌山県立医科大学
厚生労働行政推進調査事業「薬害C型肝炎患者救済のための調査研究」	石上　雅敏	消化器内科	1,000,000	補 委	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
EGFRエクソン20挿入遺伝子変異を有する非小細胞肺癌患者におけるAZD9291の有効性評価	森瀬　昌宏	呼吸器内科	420,264	補 委	学校法人慶應義塾
骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法の評価と臨床展開	土屋　周平	歯科口腔外科	63,070,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
男性腹圧性尿失禁に対する低侵襲再生治療のための、自己ヒト皮下脂肪組織由来再生(幹)細胞分離用医療機器の開発研究	後藤　百万	泌尿器科	60,415,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究	松下　正	輸血部	8,640,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
脂質による体表面バリア形成の分子機構の解明	秋山　真志	皮膚科学	9,750,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
両心室ペーシング付きテイラーメイド心臓サポートネットシステム開発	秋田　利明	心臓外科	23,020,657	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構

計29件
累計345件

疾患モデル高度化による視床下部・下垂体難病研究	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	33,860,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
医薬品服用による自動車運転に与える影響の評価方法に関する研究	岩本　邦弘	精神医学	6,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
前頭側頭葉変性症/筋萎縮性側索硬化症の神経回路破綻解明に基づく革新的治療開発	祖父江　元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	40,547,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症の神経筋システム変性を標的とした革新的治療法開発	勝野　雅央	神経内科学	27,690,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
On the job training回避を目的とした小児内視鏡手術統合的術前トレーニングシステム・認定プログラムの確立に関する研究	内田　広夫	小児外科	13,756,860	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
(疾患)精神疾患に関わる稀な遺伝子変異の探索による病態関連神経回路の解明	尾崎　紀夫	精神医学	53,620,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
(総括)精神疾患に関わる稀な遺伝子変異の探索による病態関連神経回路の解明	尾崎　紀夫	精神医学	2,380,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
新規精神・発達障害治療薬の探索	辻村　啓太	精神医学	14,312,639	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
急性骨髄性白血病におけるPDXモデルで意義づけられた分子層別化システムの確立と臨床的実効性と有用性の検証	清井　仁	血液・腫瘍内科学	27,080,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
G-CSF前処置法の開発	寺倉　精太郎	血液内科	2,002,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
小児急性リンパ性白血病に対する非ウイルスベクターを用いたキメラ抗原受容体T細胞療法の実用化	髙橋　義行	小児科	106,050,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
大規模臨床、ゲノム、不死化細胞リソースを基盤としたオミックス解析による孤発性ALS治療法開発研究	祖父江　元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	71,110,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
腹膜播種に特化した新たな胃癌分子標的医薬の探索	神田　光郎	消化器外科二	14,996,300	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
妊産婦前向きコホート研究の成果を用いた要介入群の同定法と支援策の開発	尾崎　紀夫	精神医学	8,800,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松　秀城	小児科	19,500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
前頭側頭型認知症の分子標的治療薬・バイオマーカー開発によるdisease-modifyingtherapyへの展開	祖父江　元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	56,676,510	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
筋萎縮性側策硬化症患者の疾患登録システムの研究開発	祖父江　元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	96,820,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
統合失調症と自閉スペクトラム症のゲノム解析結果を活かした診断法・治療法開発	尾崎　紀夫	精神医学	90,786,960	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
主題:金属製骨折治療デバイスの課題克服を目指した次世代新素材骨折治療デバイスの開発・事業化 副題:上腕用ガンマ型ネイルの開発・事業化	平田　仁	手の外科学	3,469,054	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の有効性・安全性の検討とオキシトシン反応性を予測する診断法開発	岡田　俊	親と子どもの心療科	11,866,140	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
名古屋地区の精神疾患拠点の構築	入谷　修司	精神医学	7,750,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
ネフローゼ症候群の新規診断法の確立	丸山　彰一	腎臓内科学	15,600,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
大規模コホートを活かした前頭側頭葉変性症の簡易鑑別診断支援ツールの開発	渡邉　宏久	神経内科学(脳とこころ)	15,600,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
IgG4自己抗体陽性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)患者を対象としたリツキシマブの有効性と安全性評価に関する多施設共同臨床試験	飯島　正博	神経内科学(難治性神経寄附講座)	55,500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症の適正治療に関するエビデンス構築のための臨床研究	勝野　雅央	神経内科学	12,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
新生児CMV診断の中央検査体制	伊藤　嘉規	小児科学	2,132,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	葛谷　雅文	老年内科	2,200,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
道閉鎖症の最適な葛西手術に関する研究	内田　広夫	小児外科学	910,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
運動機能関連解析・高齢者糖尿病患者の登録・介入・評価	梅垣　宏行	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構

計29件
累計374件

IoT活用による糖尿病重症化予防法の開発を目指した研究(臨床研究フィールド)	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	7,579,884	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
乳児アトピー性皮膚炎への早期介入と経口免疫寛容誘導によるアレルギーマーチへの影響を探索する前向きコホート研究	秋山　真志	皮膚科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
IL-36受容体拮抗因子欠損症としての膿疱性乾癬の患者レジストリ構築	秋山　真志	皮膚科学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究[ペランパネル]	勝野　雅央	神経内科学	500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究[ザルトプロフェン]	西田　佳弘	整形外科	498,160	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究[WT1ペプチドワクチン]	髙橋　義行	小児科学	400,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
レジストリの構築(第3層:カタログ情報)	尾崎　紀夫	精神医学	3,380,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
骨片と併用する骨再生補助能力を持つ自己集合性ペプチドゲル骨補填材の開発・事業化	今釜　史郎	整形外科	25,963,339	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
レビー型認知症患者を中心とした非アルツハイマー型認知症登録を目指した基盤整備に関する研究	勝野　雅央	神経内科学	7,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
前臨床期を含めた認知症レジストリシステム構築における倫理支援体制の構築	飯島　祥彦	医学部附属病院医学研究・臨床倫理推進室	500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	祖父江　元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	1,200,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
超高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
QOLデータの収集と解析	安藤　昌彦	先端医療開発部	3,900,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	小寺　泰弘	消化器外科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
評価法の整備、評価の実施及びデータ解析	岡田　俊	親と子どもの心療科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
ガイドライン治療計画およびエビデンスの集積	尾崎　紀夫	精神医学	600,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	西田　佳弘	整形外科	200,001	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
小児外科分野における小児外科ドライボックスを用いた熟練技術トレーニングシステムの評価	内田　広夫	小児外科学	650,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
難治性肉腫に対するワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験(治験プロトコルと治験届、治験の実施)	西田　佳弘	整形外科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
嚥下造影検査による舌骨・喉頭挙上訓練法の評価	藤本　保志	耳鼻咽喉科学	260,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
遠位型ミオパチーにおける承認申請に向けたアセノイラミン酸の長期投与試験	勝野　雅央	神経内科学	2,145,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究	碓氷　章彦	心臓外科学	208,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
進行性骨化性線維異形成症に対する新規治療薬の開発	鬼頭　浩史	整形外科	7,800,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
神経内科・老年内科・精神科領域のデータ収集と解析	梅垣　宏行	地域在宅医療学・老年科学	399,740	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
耳鼻咽喉科領域のデータ収集と解析	曾根　三千彦	耳鼻咽喉科学	399,880	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
小児ウイルス性肝炎の病態の解明	伊藤　嘉規	小児科学	310,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究	加藤　太一	小児科学	260,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
IIPsにおけるクラウド型統合データベースを用いたインタラクティブなMDD診断システムの開発	長谷川　好規	呼吸器内科学	250,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構

計29件
累計403件

RET肺がんに対するアレクチニブの医師主導治験ALL-RETの治療完遂	長谷川　好規	呼吸器内科学	650,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
動物モデル、患者サンプルの提供と解析	勝野　雅央	神経内科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
早産児核黄疸の予防ガイドラインの作成	早川　昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	728,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
希少未診断疾患に対する診断プログラム提供のための東海地区拠点病院の体制整備に関する研究	髙橋　義行	小児科学	5,200,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
精神疾患横断的な血漿を用いたバイオマーカー開発	尾崎　紀夫	精神医学	1,100,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
肝移植後ソホスブビル+レジパスビル治療	小倉　靖弘	移植外科	200,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
骨髄バンクおよび臍帯血バンクの最適なドナープールサイズの最適化に関する検討	西脇　聡史	先端医療開発部	526,240	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
QOL研究事務局とQOL評価の推進	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
多系統萎縮症の第II相試験の治験実施	勝野　雅央	神経内科学	916,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
網膜疾患に関するデータ収集・解析案の作成	寺﨑　浩子	眼科学	390,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	梶山　広明	産婦人科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
成人骨髄性腫瘍のクリニカルシーケンス体制の確立とデータ共有	清井　仁	血液・腫瘍内科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	早川　昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	1,560,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
FROM-J長期観察研究担当、地区医師会との連絡調整	丸山　彰一	腎臓内科学	169,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
治験の実施	熱田　直樹	脳神経内科	2,140,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	室原　豊明	循環器内科学	260,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
臨床情報・ゲノム情報の集積と検証による、診療に直結するエビデンス創出	曾根　三千彦	耳鼻咽喉科学	650,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
医師主導多施設Phase IIa治験の準備・分担実施・統括	岡田　俊	親と子どもの心療科	1,105,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
手術治療の中長期成績調査	今釜　史郎	整形外科	1,040,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
(1)全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および活用、(2)教育資材作成、(3)Hubの強化:医師、CRCのOJT	長谷川　好規	呼吸器内科学	2,000,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
医師主導治験の実施、遺伝子スクリーニング	長谷川　好規	呼吸器内科学	650,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
医師主導治験、付随研究の実施	長谷川　好規	呼吸器内科学	500,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
造血細胞移植後日和見感染症に対する複数ウイルス特異的T細胞の臨床試験	髙橋　義行	小児科学	325,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
先天性横隔膜ヘルニアにおける最適な人工換気法・手術時期・手術方法に関する研究	早川　昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	520,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
依存性薬物の中枢効果を迅速に予測するためのin vivoスクリーニング法の開発	山田　清文	薬剤部	1,300,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
TFRと遺伝子異常の関係についての解析	清井　仁	血液・腫瘍内科学	1,950,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
データの品質管理と保証体制の構築	鍬塚　八千代	先端医療開発部	325,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
心筋症における心筋病理細胞核評価による臨床病態層別化指標の開発	室原　豊明	循環器内科学	650,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
日本頭頸部癌学会全国登録からのデータ集積および解析	藤本　保志	耳鼻咽喉科学	400,000	補 委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構

計29件
累計432件

ネガティブ試験等の結果を用いた効率的な試験デザイン等の検討に関する研究	清水　忍	先端医療開発部	200,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施（治験の実施）	中村　正直	消化器内科	650,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
症例の診断・探索	澤村　昭典	循環器内科	150,003	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
新生児生体信号の非侵襲モニタリング	佐藤　義朗	小児科（総合周産期（新生児））	2,600,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
急性及び慢性神経障害における神経回路網とその代償機構の解明	渡邉　宏久	神経内科学（脳とこころ）	568,620	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
自家骨採取量の削減を可能にする生体吸収性アドヒーシブゲルの臨床応用	日比　英晴	顎顔面外科学	3,250,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
産業利用可能な胎児附属物の採取	梶山　広明	産婦人科学	1,625,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
次世代シークエンサーによる網羅的がん関連遺伝子パネル解析を用いたHER2遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	森瀬　昌宏	呼吸器内科	3,900,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
次世代AI技術を用いたリアルタイム音声障害診断システムに関する研究開発	天野　学	先端医療開発部	195,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
ヒト多能性幹細胞を用いた下垂体機能低下症に対する再生医療の技術開発	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	36,400,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
高齢者(75歳以上)非小細胞肺がん患者に対する免疫チェックポイント阻害剤の有効性と安全性の検討	安藤　雄一	化学療法部	390,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
1)臨床研究実施、2)Unfit populationに対する臨床研究の基盤整備	長谷　哲成	呼吸器内科	1,300,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
ROS1融合遺伝子変異陽性の進行固形がん患者を対象としたブリガチニブの多施設共同バスケット試験（医師主導治験）。遺伝子スクリーニング、コンパニオン診断薬の開発および臨床ゲノムデータベースの構築。	長谷川　好規	呼吸器内科学	650,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
標準リポジトリ導入・インターフェース開発・電子パス改修	白鳥　義宗	メディカルITセンター	1,934,790	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
名古屋大学病院における利活用基盤への接続に関する研究	白鳥　義宗	メディカルITセンター	130,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
病的バリアントデータの収集作業	村松　秀城	小児科	1,300,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
ヒルシュスプルング病類縁疾患診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究	内田　広夫	小児外科学	260,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
産学共同活用ニーズを踏まえた筋萎縮性側策硬化症レジストリの改修及び活用に関する研究	祖父江　元	神経内科学（特任プロ・新学術領域）	45,400,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
間葉系幹細胞を利用する新しいGVHD予防法の開発と次世代シークエンサーによる遺伝子情報に基づく新しいドナー選択法の開発に関する研究	村田　誠	血液・腫瘍内科学	70,070,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
自立可能な好循環型先端医療開発拠点の創成を目指した研究	石黒　直樹	医学部附属病院	193,985,860	㊥補委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
Muse細胞を用いた周産期脳障害の新規治療開発	佐藤　義朗	小児科（総合周産期（新生児））	64,300,000	補 ㊥委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構

計21件
累計453件

（注）　1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Matsukawa Y, Takai S, Majima T,他	泌尿器科	Comparison in the efficacy of fesoterodine or mirabegron add-on therapy to silodosin for patients with benign prostatic hyperplasia complicated by overactive bladder: A randomized, prospective trial using urodynamic studies.	Neurourol Urodyn. 2019 Mar;38(3):941-949	Original Article
2	Gotoh M, Yamamoto T, Shimizu S, 他	泌尿器科	Treatment of male stress urinary incontinence using autologous adipose-derived regenerative cells: Long-term efficacy and safety.	Int J Urol. 2019 Mar;26(3):400-405	Original Article
3	Majima T, Mori K, Kadekawa K, 他	泌尿器科	The effect of herpes simplex virus vector-mediated gene therapy of protein phosphatase 1 α on bladder overactivity and nociception.	Neurourol Urodyn. 2019 Feb;38(2):582-590	Original Article
4	Kato M, Hirakawa A, Kobayashi Y, 他	泌尿器科	Integrating tertiary Gleason pattern 5 into the ISUP grading system improves prediction of biochemical recurrence in radical prostatectomy patients.	Mod Pathol. 2019 Jan;32(1):122-127	Original Article

5	Matsukawa Y, Takai S, Majima T, 他	泌尿器科	Two-year follow up of silodosin on lower urinary tract functions and symptoms in patients with benign prostatic hyperplasia based on prostate size: a prospective investigation using urodynamics.	Ther Adv Urol. 2018 Jun 26;10(9):263-272	Original Article
6	Matsukawa Y, Yoshino Y, Ishida S, 他	泌尿器科	De novo overactive bladder after robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy.	Neurourol Urodyn. 2018 Aug;37(6):2008-2014	Original Article
7	Inoue S, Ide H, Mizushima T, 他	泌尿器科	Nuclear Factor-κB Promotes Urothelial Tumorigenesis and Cancer Progression via Cooperation with Androgen Receptor Signaling.	Mol Cancer Ther. 2018 Jun;17(6):1303-1314	Original Article
8	Majima T, Funahashi Y, Kawamorita N,他	泌尿器科	Role of microglia in the spinal cord in colon-to-bladder neural crosstalk in a rat model of colitis.	Neurourol Urodyn. 2018 Apr;37(4):1320-1328	Original Article
9	Kano M, Suga H, Kasai T, Ozone C,他	糖尿病・内分泌内科	Functional Pituitary Tissue Generation from Human Embryonic Stem Cells.	Curr Protoc Neurosci. 2018 Apr;83(1):e48	Review

10	Yasuda Y, Iwama S, Kiyota A, 他	糖尿病・内分泌内科	Critical role of rabphilin-3A in the pathophysiology of experimental lymphocytic neurohypophysitis.	J Pathol. 2018 Apr;244(4):469-478	Original Article
11	Tochiya M, Hagiwara D, Azuma Y, 他	糖尿病・内分泌内科	Chemical chaperone 4-phenylbutylate reduces mutant protein accumulation in the endoplasmic reticulum of arginine vasopressin neurons in a mouse model for familial neurohypophysial diabetes insipidus.	Neurosci Lett. 2018 Aug 24;682:50-55	Original Article
12	Yasuda Y, Iwama S, Arima H.	糖尿病・内分泌内科	Severe hypocalcemia following denosumab treatment in a patient with secondary osteoporosis associated with primary sclerosing cholangitis.	Endocr J. 2019 Mar 28;66(3):271-275	Case Report
13	Nakanishi K, Kikumori T, Miyajima N, 他	乳腺・内分泌外科	Impact of Patient Age and Histological Type on Radioactive Iodine Avidity of Recurrent Lesions of Differentiated Thyroid Carcinoma.	Clin Nucl Med. 2018 Jul;43(7):482-485	Original Article
14	Shibata M, Hoque MO.	乳腺・内分泌外科	Development of biomarkers for real precision medicine.	Transl Lung Cancer Res. 2018 Sep;7(Suppl 3):S228-S231	Original Article

15	Ando Y, Iwasa S, Takahashi S, 他	化学療法部	Phase I study of alpelisib (BYL719), an α-specific PI3K inhibitor, in Japanese patients with advanced solid tumors.	Cancer Sci. 2019 Mar;110(3):1021-1031	Original Article
16	Gyawali B, Shimokata T, Honda K, 他	化学療法部	Reporting harms more transparently in trials of cancer drugs.	BMJ. 2018 Nov 1;363:k4383	Original Article
17	Maeda O, Ando Y.	化学療法部	Cabozantinib in Hepatocellular Carcinoma.	N Engl J Med. 2018 Oct 4; 379(14):1384-1385	Letter
18	Hayashi K, Kako M, Suzuki K, 他	リハビリテーション部	Impact of variation in physical activity after total joint replacement	J Pain Res. 2018 Oct 17;11:2399-2406	Original Article
19	Hayashi K, Oshima H, Shimizu M, 他	リハビリテーション部	Preoperative 6-Minute Walk Distance Is Associated With Postoperative Cognitive Dysfunction	Ann Thorac Surg. 2018 Aug;106(2):505-512	Original Article

20	Nakajima H, Yokoyama Y, Inoue T, 他	リハビリテーション部	Clinical Benefit of Preoperative Exercise and Nutritional Therapy for Patients Undergoing Hepato-Pancreato-Biliary Surgeries for Malignancy	Ann Surg Oncol. 2019 Jan;26(1):264-272	Original Article
21	Hakiri S, Fukui T, Mori S, 他	呼吸器外科	Clinicopathologic Features of Thymoma With the Expression of Programmed Death Ligand 1.	Ann Thorac Surg. 2019 Feb;107(2):418-424	Original Article
22	Ozeki N, Fukui T, Kawaguchi K, 他	呼吸器外科	A survival analysis using physique-adjusted tumor size of non-small cell lung cancer.	Int J Clin Oncol. 2018 Apr;23(2):266-274	Original Article
23	Sugimoto M, Takahashi N, Niimi K, 他	血管外科	Long-term fate of renal function after open surgery for juxtarenal and pararenal aortic aneurysm.	J Vasc Surg. 2018 Apr;67(4):1042-1050	Original Article
24	Sugimoto M, Takahashi N, Niimi K, 他	血管外科	Anatomical Suitability of the GORE EXCLUDER Iliac Branch Endoprosthesis in Japanese Patients with Common Iliac Aneurysms Treated by Standard EXCLUDER Endografts.	Ann Vasc Surg. 2018 Jul;50:179-185	Original Article

25	Kodama A, Takahashi N, Sugimoto M, 他	血管外科	Three cases of dorsal metatarsal artery bypass in patients with Buerger disease.	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2018 Aug 17;4(3):185-188	Original Article
26	Fumiya K, Norihisa I, Yukiko W, 他	歯科口腔外科	Third molar pericoronitis in neutropenia	IDCases. 2018 Jul 4;13:e00419	Case Report
27	Sato K, Hayashi Y, Yamamoto N, 他	歯科口腔外科	A case of post transplant lymphoproliferative disorders that developed ten years after living renal transplantation in the parotid gland region	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2018 Sep;30(5):457-460	Case Report
28	Okabe K, Kaneko R, Kawai T, 他	歯科口腔外科	Ophthalmoplegia considered to be Tolosa-Hunt syndrome: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2018 Sep;30(5):461-465	Case Report
29	Fujio M, Osawa Y, Matsushita M, 他	歯科口腔外科	A mouse distraction osteogenesis model	Journal of Visualized Experiments. 2018 Nov 14;(141)	Others

30	Tsuruta T, Sakai K, Watanabe J, 他	歯科口腔外科	Dental pulp-derived stem cell conditioned medium to regenerate peripheral nerves in a novelanimal model of dysphagia	PLoS One. 2018 Dec 11;13(12):e0208938	Original Article
31	Hara K, Tsuchiya S, Hagiwara S, 他	歯科口腔外科	A dentigerous cyst associated with a supernumerary tooth (fourth molar) in the mandibular ramus: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2019 Mar;31(2):98-102	Case Report
32	Arioka Y, Kushima I, Kubo H,他	精神科・親と子どもの心療科	Induced pluripotent stem cells derived from a schizophrenia patient with ASTN2 deletion	Stem Cell Res. 2018 Jul;30:81-84	Original Article
33	Arioka Y, Kushima I, Mori D, 他	精神科・親と子どもの心療科	Three lines of induced pluripotent stem cells derived from a 15q11.2-q13.1 duplication syndrome patient	Stem Cell Res. 2018 Aug;31:240-243	Original Article
34	Arioka Y, Shishido E, Kubo H, 他	精神科・親と子どもの心療科	Single-cell trajectory analysis of human homogenous neurons carrying a rare RELN variant	Transl Psychiatry. 2018 Jul 19;8(1):129	Original Article

35	Iritani S, Torii Y, Habuchi C, 他	精神科・親と子どもの心療科	The neuropathological investigation of the brain in a monkey model of autism spectrum disorder with ABCA13 deletion	Int J Dev Neurosci. 2018 Dec;71:130-139	Original Article
36	Ishizuka K, Kimura H, Kushima I, 他	精神科・親と子どもの心療科	Assessment of a glyoxalase I frameshift variant, p.P122fs, in Japanese patients with schizophrenia	Psychiatr Genet. 2018 Oct;28(5):90-93	Original Article
37	Iwata M, Iwamoto K, Kawano N, 他	精神科・親と子どもの心療科	Evaluation method regarding the effect of psychotropic drugs on driving performance: A literature review	Psychiatry Clin Neurosci. 2018 Oct;72(10):747-773	Review
38	Kubota C, Inada T, Nakamura Y, 他	精神科・親と子どもの心療科	Stable factor structure of the Edinburgh Postnatal Depression Scale during the whole peripartum period: Results from a Japanese prospective cohort study	Sci Rep. 2018 Dec 5;8(1):17659	Original Article
39	Kubota C, Okada T, Morikawa M, 他	精神科・親と子どもの心療科	Postpartum depression among women in Nagoya indirectly exposed to the Great East Japan Earthquake	Sci Rep. 2018 Aug 2;8(1):11624	Original Article

40	Kushima I, Aleksic B, Nakatochi M, 他	精神科・親と子どもの心療科	Comparative Analyses of Copy-Number Variation in Autism Spectrum Disorder and Schizophrenia Reveal Etiological Overlap and Biological Insights	Cell Rep. 2018 Sep 11;24(11):2838-2856	Original Article
41	Ohara M, Nakatochi M, Okada T,他	精神科・親と子どもの心療科	Impact of perceived rearing and social support on bonding failure and depression among mothers: A longitudinal study of pregnant women	J Psychiatr Res. 2018 Oct;105:71-77	Original Article
42	Sobue A, Kushima I, Nagai T, 他	精神科・親と子どもの心療科	Genetic and animal model analyses reveal the pathogenic role of a novel deletion of RELN in schizophrenia	Sci Rep. 2018 Aug 29;8(1):13046	Original Article
43	Yamamoto M, Kushima I, Suzuki R, 他	精神科・親と子どもの心療科	Aberrant functional connectivity between the thalamus and visual cortex is related to attentional impairment in schizophrenia	Psychiatry Res Neuroimaging. 2018 Aug 30;278:35-41	Original Article
44	Yamauchi A, Okada T, Ando M,他	精神科・親と子どもの心療科	Validation and Factor Analysis of the Japanese Version of the Highs Scale in Perinatal Women	Front Psychiatry. 2018 Jun 28;9:269	Original Article

45	Iwata M, Iwamoto K, Omura T, 他	精神科・親と子どもの心療科	Protocol for the development and validation of a driving simulator for evaluating the influence of drugs on driving performance	Medicine (Baltimore). 2019 Feb;98(8):e14613	Original Article
46	Hayano S, Okuno Y, Tsutsumi M, 他	小児科	Frequent intragenic microdeletions of elastin in familial supravalvular aortic stenosis	Int J Cardiol. 2019 Jan 1;274:290-295	Original Article
47	Takeuchi S, Kawada JI, Okuno Y,他	小児科	Identification of potential pathogenic viruses in patients with acute myocarditis using next-generation sequencing.	J Med Virol. 2018 Dec;90(12):1814-1821	Original Article
48	Murakami N, Kawada JI, Watanabe A, 他	小児科	Ureteral dilatation detected in magnetic resonance imaging predicts vesicoureteral reflux in children with urinary tract infection.	PLoS One. 2018 Dec 21;13(12):e0209595	Original Article
49	Yoshida A, Kurimoto S, Iwatsuki K, 他	手の外科	Upper extremity disability is associated with pain intensity and grip strength in women with bilateral idiopathic carpal tunnel syndrome.	NeuroRehabilitation. 2019;44(2):199-205	Original Article

50	Iwatsuki K, Hoshiyama M, Oyama S, 他	手の外科	Magnetoencephalographic evaluation for the myoelectric hand prosthesis with tacit learning system.	NeuroRehabilitation. 2019;44(1):19-23	Original Article
51	Tokutake K, Iwatsuki K, Tatebe M, 他	手の外科	Usefulness of CT-based measurement of volar prominence for evaluation of risk of flexor tendon injury following fixation of a distal radius fracture.	J Orthop Sci. 2019 Mar;24(2):263-268	Original Article
52	Mitake T, Nishizuka T, Tatebe M, 他	手の外科	Adult distal humerus trauma with surgical intervention: CT analysis of fracture pattern, causes, and distribution.	Nagoya J Med Sci. 2018 May;80(2):199-205	Original Article
53	Saeki M, Tanaka K, Imatani J, 他	手の外科	Efficacy and safety of novel collagen conduits filled with collagen filaments to treat patients with peripheral nerve injury: A multicenter, controlled, open-label clinical trial.	Injury. 2018 Apr;49(4):766-774	Original Article
54	Sugiyama Y, Sato Y, Kitase Y, Suzuki T,他	病理部	Intravenous Administration of Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cell, but not Adipose Tissue-Derived Stem Cell, Ameliorated the Neonatal Hypoxic-Ischemic Brain Injury by Changing Cerebral Inflammatory State in Rat.	Front Neurol. 2018 Sep 11;9:757	Original Article

55	Sato M, Matsui A, Shimoyama Y, 他	病理部	An EGFR-mutated Lung Adenocarcinoma Undergoing Squamous Cell Carcinoma Transformation Exhibited a Durable Response to Afatinib.	Intern Med. 2018 Dec 1;57(23):3429-3432	Case Report
56	Suzuki Y, Ichihara S, Kawasaki T, 他	病理部	beta-catenin (CTNNB1) mutation and LEF1 expression in sinonasal glomangiopericytoma (sinonasal-type hemangiopericytoma).	Virchows Arch. 2018 Aug;473(2):235-239	Original Article
57	Suzuki A, Suzuki N, Kanematsu T, 他	医療技術部	Clot waveform analysis in Clauss fibrinogen assay contributes to classification of fibrinogen disorders	Thromb Res. 2019 Feb;174:98-103	Original Article
58	Kikuchi R, Stevens M, Harada K, 他	医療技術部	Anti-angiogenic isoform of vascular endothelial growth factor-A in cardiovascular and renal disease	Adv Clin Chem. 2019;88:1-33	Review
59	Watanabe K, Katsumi K, Ohashi M, 他	整形外科	Surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic thoracolumbar vertebral fractures in patients with Parkinson's disease: what is the impact of Parkinson's disease on surgical outcome?	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Mar 9;20(1):103	Original Article

60	Kobayashi K, Ando K, Tsushima M, 他	整形外科	Characteristics of multi-channel Br(E)-MsEP waveforms for the lower extremity muscles in thoracic spine surgery: comparison based on preoperative motor status.	Eur Spine J. 2019 Mar;28(3):484-491	Original Article
61	Kobayashi K, Ando K, Kato F, 他	整形外科	Trends of postoperative length of stay in spine surgery over 10 years in Japan based on a prospective multicenter database.	Clin Neurol Neurosurg. 2019 Feb;177:97-100	Original Article
62	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	MR T2 image classification in adult patients of cervical spinal cord injury without radiographic abnormality: A predictor of surgical outcome.	Clin Neurol Neurosurg. 2019 Feb;177:1-5	Original Article
63	Kobayashi K, Ando K, Kato F, 他	整形外科	Variety of preoperative MRI changes in spinal cord ependymoma of WHO grade II: a case series.	Eur Spine J. 2019 Feb;28(2):426-433	Original Article
64	Tanaka S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Utility of the Serum Cystatin C Level for Diagnosis of Osteoporosis among Middle-Aged and Elderly People.	Biomed Res Int. 2019 Jan 16;2019:5046852	Original Article

65	Kobayashi K, Ando K, Seki T, 他	整形外科	Carotid artery plaque screening using abdominal aortic calcification on lumbar radiographs.	PLoS One. 2019 Jan 7;14(1):e0209175	Original Article
66	Yoshii T, Hirai T, Iwanami A,他	整形外科	Co-existence of ossification of the nuchal ligament is associated with severity of ossification in the whole spine in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament -A multi-center CT study.	J Orthop Sci. 2019 Jan;24(1):35-41	Original Article
67	Machino M, Imagama S, Ito K, Ando K,他	整形外科	Thoracic spinal cord injury without major bone injury associated with ossification of the ligamentum flavum.	J Orthop Sci. 2019 Jan;24(1):174-177	Original Article
68	Ando K, Kobayashi K, Ito K, 他	整形外科	Wave Change of Intraoperative Transcranial Motor-Evoked Potentials During Corrective Fusion for Syndromic and Neuromuscular Scoliosis.	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2019 Jan 1;16(1):53-58	Original Article
69	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, 他	整形外科	Post-operative regression of retro-odontoid pseudotumors treated with and without fusion.	Eur Spine J. 2018 Dec;27(12):3105-3112	Original Article

70	Kobayashi K, Imagama S, Sato K, 他	整形外科	Postoperative Complications Associated With Spine Surgery in Patients Older Than 90 Years: A Multicenter Retrospective Study.	Global Spine J. 2018 Dec;8(8):887-891	Original Article
71	Ando K, Imagama S, Kobayashi K, 他	整形外科	Feasibility and effects of a self-assembling peptide as a scaffold in bone healing: An in vivo study in rabbit lumbar posterolateral fusion and tibial intramedullary models.	J Orthop Res. 2018 Dec;36(12):3285-3293	Original Article
72	Imagama S, Ando K, Takeuchi K, 他	整形外科	Perioperative Complications After Surgery for Thoracic Ossification of Posterior Longitudinal Ligament: A Nationwide Multicenter Prospective Study.	A.Spine (Phila Pa 1976). 2018 Dec 1;43(23):E1389-E1397	Original Article
73	Nakashima H, Kanemura T, Yagi H, 他	整形外科	Factors Affecting the Severity of Neurological Disorders in Thoracic Idiopathic Spinal Cord Herniation.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Nov 15;43(22):1552-1558	Original Article
74	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Alterations in Intramedullary T2-weighted Increased Signal Intensity following Laminoplasty in Cervical Spondylotic Myelopathy Patients: Comparison Between Pre- and Postoperative Magnetic Resonance Images.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Nov 15;43(22):1595-1601	Original Article

75	Nishimura S, Nagoshi N, Iwanami A, 他	整形外科	Prevalence and Distribution of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis on Whole-spine Computed Tomography in Patients With Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Multicenter Study.	Clin Spine Surg. 2018 Nov;31(9):E460-E465	Original Article
76	Ito K, Ando K, Kobayashi K, Tsushima M, 他	整形外科	Differentiation of spinal myxopapillary ependymomas from schwannomas by contrast-enhanced MRI.	J Orthop Sci. 2018 Nov;23(6):908-911	Original Article
77	Imagama S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Atypical vertebral column fracture at the middle of fused area after instrumented posterior decompression and fusion surgery for beak type thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Sci. 2018 Nov;23(6):1100-1104	Original Article
78	Tanaka S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Serum cystatin C level is associated with locomotive syndrome risk and can be an early predictor in community-living people: The Yakumo study.	Mod Rheumatol. 2018 Nov;28(6):1035-1040	Original Article
79	Kobayashi K, Ando K, Ito K, 他	整形外科	A case of delayed hydrocephalus from cerebrospinal fluid leak after resection of a cervical spinal schwannoma.	Nagoya J Med Sci. 2018 Nov;80(4):605-609	Original Article

80	Hida T, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	＜Editors' Choice＞ Ultrasound measurement of thigh muscle thickness for assessment of sarcopenia	Nagoya J Med Sci. 2018 Nov;80(4):519-527	Original Article
81	Kobayashi K, Ando K, Shinjo R,他	整形外科	A new criterion for the alarm point using a combination of waveform amplitude and onset latency in Br(E)-MsEP monitoring in spine surgery.	J Neurosurg Spine. 2018 Oct;29(4):435-441	Original Article
82	Kobayashi K, Ando K, Shinjo R, 他	整形外科	Evaluation of a Combination of Waveform Amplitude and Peak Latency in Intraoperative Spinal Cord Monitoring.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Sep 1;43(17):1231-1237	Original Article
83	Kobayashi K, Ando K, Yagi H,他	整形外科	Efficacy of Anal Needle Electrodes for Intraoperative Spinal Cord Monitoring with Transcranial Muscle Action Potentials.	Asian Spine J. 2018 Aug;12(4):662-668	Original Article
84	Kobayashi K, Ando K, Ito K, 他	整形外科	Prediction of surgical site infection in spine surgery from tests of nasal MRSA colonization and drain tip culture.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2018 Aug;28(6):1053-1057	Original Article

85	Kobayashi K, Ando K, Suzuki Y,他	整形外科	Characteristics of outpatient falls that occurred in hospital.	Nagoya J Med Sci. 2018 Aug;80(3):417-422	Original Article
86	Kobayashi K, Ando K, Inagaki Y, 他	整形外科	Characteristics of falls in orthopedic patients during hospitalization.	Nagoya J Med Sci. 2018 Aug;80(3):341-349	Original Article
87	Kobayashi K, Imagama S, Ando K,他	整形外科	Perioperative Management of Patients with Hemophilia during Spinal Surgery.	Asian Spine J. 2018 Jun;12(3):442-445	Original Article
88	Wakao N, Takeuchi M, Riew DK, 他	整形外科	Effect of an intensive conservative therapy with daily teriparatide administration and rehabilitation for osteoporotic delayed vertebral collapse and paralysis.	Medicine (Baltimore). 2018 Jun;97(23):e10906	Original Article
89	Kobayashi K, Ando K, Ito K,他	整形外科	Factors associated with extension of the scheduled time for spine surgery.	Clin Neurol Neurosurg. 2018 Jun;169:128-132	Original Article

90	Tanaka S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	A low phase angle measured with bioelectrical impedance analysis is associated with osteoporosis and is a risk factor for osteoporosis in community-dwelling people: the Yakumo study.	Arch Osteoporos. 2018 Apr 5;13(1):39	Original Article
91	Hirai T, Yoshii T, Nagoshi N,他	整形外科	Distribution of ossified spinal lesions in patients with severe ossification of the posterior longitudinal ligament and prediction of ossification at each segment based on the cervical OP index classification: a multicenter study (JOSL CT study).	BMC Musculoskelet Disord. 2018 Apr 5;19(1):107	Original Article
92	Kobayashi K, Ando K, Ito K,他	整形外科	Accuracy of intraoperative pathological diagnosis using frozen sections of spinal cord lesions.	Clin Neurol Neurosurg. 2018 Apr;167:117-121	Original Article
93	Kobayashi K, Ando K, Ito K, 他	整形外科	Intraoperative radiation exposure in spinal scoliosis surgery for pediatric patients using the O-arm® imaging system.	Eur J Orthop Surg Traumatol.2018 May;28(4):579-583	Original Article
94	Kobayashi K, Ando K, Kato F,他	整形外科	MRI Characteristics of Spinal Ependymoma in WHO Grade II: A Review of 59 Cases.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 May 1;43(9):E525-E530	Original Article

95	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, 他	整形外科	Efficacy of Conical Laminoplasty After Thoracic Laminectomy.	Clin Spine Surg. 2018 May;31(4):156-161	Original Article
96	Morita D, Seki T, Takegami Y, 他	整形外科	Acetabular fracture non-union with pelvic discontinuity treated with two-stage total hip arthroplasty after intra- and extra-articular plate fixation.	Nagoya J Med Sci. 2019 Feb;81(1):113-119	Original Article
97	Okura T, Ohkawara B, Takegami Y, 他	整形外科	Mianserin suppresses R-spondin 2-induced activation of Wnt/beta-catenin signaling in chondrocytes and prevents cartilage degradation in a rat model of osteoarthritis.	Sci Rep. 2019 Feb 26;9(1):2808	Original Article
98	Higuchi Y, Seki T, Takegami Y, 他	整形外科	Same survival but higher rate of osteolysis for metal-on-metal Ultamet versus ceramic-on-ceramic in patients undergoing primary total hip arthroplasty after 8 years of follow-up.	Orthop Traumatol Surg Res. 2018 Dec;104(8):1155-1161	Original Article
99	Morita D, Hasegawa Y, Seki T, 他	整形外科	A Possible New Radiographic Predictor of Progression of Osteoarthritis in Developmental Dysplasia of the Hip: The Center Gap.	Clin Orthop Relat Res. 2018 Nov;476(11):2157-2166	Original Article

100	Higuchi Y, Seki T, Hasegawa Y, 他	整形外科	Comparison of cementless total hip arthroplasty survivorship between metal-on-highly cross-linked polyethylene and ceramic on ceramic bearings: A case control study with a 5-9-year follow-up.	Orthop Traumatol Surg Res. 2018 Sep;104(5):663-669	Original Article
101	Osawa Y, Seki T, Takegami Y, 他	整形外科	Cementless total hip arthroplasty for osteonecrosis and osteoarthritis produce similar results at ten years follow-up when matched for age and gender.	Int Orthop. 2018 Jul;42(7):1683-1688	Original Article
102	Morita D, Seki T, Higuchi Y, 他	整形外科	The influence of early radiolucent lines appearing on femoral head penetration into HXLPE cemented sockets.	Hip Int. 2018 Jul;28(4):369-374	Original Article
103	Higuchi Y, Seki T, Hasegawa Y, 他	整形外科	32-mm ceramic-on-ceramic total hip arthroplasty versus 28-mm ceramic bearings: 5- to 15-year follow-up study.	Hip Int. 2019 Jan;29(1):65-71	Original Article
104	Osawa Y, Seki T, Takegami Y, 他	整形外科	Do femoral head collapse and the contralateral condition affect patient-reported quality of life and referral pain in patients with osteonecrosis of the femoral head?	Int Orthop. 2018 Jul;42(7):1463-1468	Original Article

105	Kusano T, Seki T, Higuchi Y, 他	整形外科	Preoperative Canal Bone Ratio is Related to High-Degree Stress Shielding: A Minimum 5-Year Follow-Up Study of a Proximally Hydroxyapatite-Coated Straight Tapered Titanium Femoral Component.	J Arthroplasty. 2018 Jun;33(6):1764-1769	Original Article
106	Okura T, Seki T, Suzuki K, 他	整形外科	Serum levels of carotenoids in patients with osteonecrosis of the femoral head are lower than in healthy, community-living people.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2018 May-Aug;26(2):2309499018770927	Original Article
107	Koike H, Nishida Y, Kohno K, 他	整形外科	Is immunohistochemical staining for β-catenin the definitive pathological diagnostic tool for desmoid-type fibromatosis? A multi-institutional study.	Hum Pathol. 2019 Feb;84:155-163	Original Article
108	Ikuta K, Nishida Y, Sugiura H, 他	整形外科	Predictors of complications in heat-treated autograft reconstruction after intercalary resection for malignant musculoskeletal tumors of the extremity.	J Surg Oncol. 2018 Jun;117(7):1469-1478	Original Article
109	Hamada S, Nishida Y, Zhuo L, 他	整形外科	Suppression of hyaluronan synthesis attenuates the tumorigenicity of low-grade chondrosarcoma.	J Orthop Res. 2018 Jun;36(6):1573-1580	Original Article

110	Urakawa H, Yonemoto T, Matsumoto S, 他	整形外科	Clinical outcome of primary giant cell tumor of bone after curettage with or without perioperative denosumab in Japan: from a questionnaire for JCOG 1610 study.	World J Surg Oncol. 2018 Aug 8;16(1):160	Original Article
111	Asai S, Sobue Y, Asai N, 他	整形外科	Computed tomography evaluation of the periacetabular gap of a porous tantalum acetabular component.	Nagoya J Med Sci. 2019 Feb;81(1):159-163	Original Article
112	Kojima T, Ishikawa H, Tanaka S,他	整形外科	Target setting for lower limb joint surgery using the Timed Up and Go test in patients with rheumatoid arthritis: A prospective cohort study.	Int J Rheum Dis. 2018 Oct;21(10):1801-1808	Original Article
113	Asai S, Nagai K, Takahashi N,他	整形外科	Influence of methotrexate on gastrointestinal symptoms in patients with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis. 2019 Feb;22(2):207-213	Original Article
114	Hirano D, Hayakawa F, Yasuda T, 他	血液内科	Chromosomal translocation-mediated evasion from miRNA induces strong MEF2D fusion protein expression, causing inhibition of PAX5 transcriptional activity.	Oncogene. 2019 Mar;38(13):2263-2274	Original Article

115	Koyama D, Murata M, Hanajiri R,他	血液内科	Quantitative Assessment of T Cell Clonotypes in Human Acute Graft-versus-Host Disease Tissues.	Biol Blood Marrow Transplant. 2019 Mar;25(3):417-423	Original Article
116	Kawashima N, Akashi A, Nagata Y, 他	血液内科	Clinical significance of ASXL2 and ZBTB7A mutations and C-terminally truncated RUNX1-RUNX1T1 expression in AML patients with t(8;21) enrolled in the JALSG AML201 study.	Ann Hematol. 2019 Jan;98(1):83-91	Original Article
117	Hattori H, Ishikawa Y, Kawashima N, 他	血液内科	Identification of the novel deletion-type PML-RARA mutation associated with the retinoic acid resistance in acute promyelocytic leukemia.	PLoS One. 2018 Oct 5;13(10):e0204850	Original Article
118	Shimada K, Hayakawa F, Kiyoi H	血液内科	Biology and management of primary effusion lymphoma.	Blood. 2018 Nov 1;132(18):1879-1888	Review
119	Miyao K, Terakura S, Okuno S, 他	血液内科	Introduction of Genetically Modified CD3ζ Improves Proliferation and Persistence of Antigen-Specific CTLs.	Cancer Immunol Res. 2018 Jun;6(6):733-744	Original Article

120	Nishiyama T, Ishikawa Y, Kawashima N, 他	血液内科	Mutation analysis of therapy-related myeloid neoplasms.	Cancer Genet. 2018 Apr;222-223:38-45	Original Article
121	Akahori T, Iwase T, Yamamoto K, 他	眼科	Macular displacement after vitrectomy in eyes with idiopathic macular hole determined by optical coherence tomography angiography.	Am J Ophthalmol.2018; May;189:111-121	Original Article
122	Takeuchi J, Kataoka K, Ito Y,他	眼科	Optical coherence tomography angiography to quantify choroidal neovascularization in response to aflibercept.	Ophthalmologica.2018;240 (2):90-98	Original Article
123	Sayo A, Ueno S, Kominami T, 他	眼科	Significant Relationship of Visual Field Sensitivity in Central 10° to Thickness of Retinal Layers in Retinitis Pigmentosa.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2018 Jul 2;59(8):3469-3475	Original Article
124	Ueno S, Inooka D, Nakanishi A, 他	眼科	Clinical course of paraneopliastic retinopathy with anti-TRPM1 autoantibody in Japanese cohort.	Retina.2018;Sep 26	Original Article

125	Iwase T, Ueno Y, Ra E, 他	眼科	Changes in choriocapillaris and retinal morphology after laser photocoagulation by OCT angiography:	A case report. Medicine (Baltimore). 2018 Nov;97(46)	Original Article
126	Iwase T, Akahori T, Yamamoto K, 他	眼科	Evaluation of optic nerve head blood flow in response to increase of intraocular pressure :	Sci Rep. 2018 Nov 22;8(1):17235	Original Article
127	Aiba T, Uehara K, Mukai T, 他	消化器外科一	Transanal extended rectal surgery with lateral pelvic lymph node dissection.	Tech Coloproctol. 2018 Nov;22(11):893-894	Original Article
128	Onoe S, Yokoyama Y, Ebata T, 他	消化器外科一	Comparison between autologous and homologous blood transfusions in liver resection for biliary tract cancer: a propensity score matching analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2018 Dec;25(12):550-559	Original Article
129	Ida H, Akiyama T, Ishiguro K,他	消化器外科一	Establishment of a rapid and footprint-free protocol for differentiation of human embryonic stem cells into pancreatic endocrine cells with synthetic mRNAs encoding transcription factors.	Stem Cell Res Ther. 2018 Oct 25;9(1):277	Original Article

130	Hayashi Y, Yamaguchi J, Kokuryo T,他	消化器外科一	Loss of trefoil factor 1 inhibits biliary regeneration but accelerates the hepatic differentiation of progenitor cells in mice.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Nov 17;506(1):12-19	Original Article
131	Takahashi D, Kojima M, Suzuki T, 他	消化器外科一	Profiling the Tumour Immune Microenvironment in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms with Multispectral Imaging Indicates Distinct Subpopulation Characteristics Concordant with WHO 2017 Classification.	Sci Rep. 2018 Sep 3;8(1):13166	Original Article
132	Akashi K, Ebata T, Mizuno T, 他	消化器外科一	Surgery for perihilar cholangiocarcinoma from a viewpoint of age: Is it beneficial to octogenarians in an aging society?	Surgery. 2018 Nov;164(5):1023-1029	Original Article
133	Takahashi D, Kojima M, Sugimoto M, 他	消化器外科一	Pathologic Evaluation of Surgical Margins in Pancreatic Cancer Specimens Using Color Coding With Tissue Marking Dyes.	Pancreas. 2018 Aug;47(7):830-836	Original Article
134	Yamaguchi J, Yokoyama Y, Kokuryo T,他	消化器外科一	Trefoil factor 1 inhibits epithelial-mesenchymal transition of pancreatic intraepithelial neoplasm.	J Clin Invest. 2018 Aug 1;128(8):3619-3629	Original Article

135	Aoyama H, Ebata T, Hattori M, 他	消化器外科一	Reappraisal of classification of distal cholangiocarcinoma based on tumour depth.	Br J Surg. 2018 Jun;105(7):867-875	Original Article
136	Ito A, Ebata T, Yokoyama Y,他	消化器外科一	Ethanol ablation for refractory bile leakage after complex hepatectomy.	Br J Surg. 2018 Jul;105(8):1036-1043	Original Article
137	shiro T, Uehara K, Aiba T, 他	消化器外科一	Impact of RAS/BRAF mutation status in locally advanced rectal cancer treated with preoperative chemotherapy.	Int J Clin Oncol. 2018 Aug;23(4):681-688	Original Article
138	Sugawara G, Yokoyama Y, Ebata T,他	消化器外科一	Preoperative biliary colonization/infection caused by multidrug-resistant (MDR) pathogens in patients undergoing major hepatectomy with extrahepatic bile duct resection.	Surgery. 2018 May;163(5):1106-1113	Original Article
139	Komaya K, Ebata T, Yokoyama Y, 他	消化器外科一	Recurrence after curative-intent resection of perihilar cholangiocarcinoma: analysis of a large cohort with a close postoperative follow-up approach.	Surgery. 2018 Apr;163(4):732-738	Original Article

140	Nojiri M, Yokoyama Y, Maeda T, 他	消化器外科一	Impact of the gastrojejunal anatomic position as the mechanism of delayed gastric emptying after pancreatoduodenectomy.	Surgery. 2018 May;163(5):1063-1070	Original Article
141	Yamada M, Sugiura T, Okamura Y, 他	消化器外科一	Microscopic Venous Invasion in Pancreatic Cancer.	Ann Surg Oncol. 2018 Apr;25(4):1043-1051	Original Article
142	Igami T, Nakamura Y, Oda M, 他	消化器外科一	Application of three-dimensional print in minor hepatectomy following liver partition between anterior and posterior sectors.	ANZ J Surg. 2018 Sep;88(9):882-885	Original Article
143	Nojiri M, Igami T, Toyoda Y,他	消化器外科一	Application of fluorescent cholangiography during single-incision laparoscopic cholecystectomy for cholecystitis with a right-sided round ligament: Preliminary experience.	J Minim Access Surg. 2018 Jul-Sep;14(3):244-246	Original Article
144	Nagino M.	消化器外科一	Surgical Treatment of Perihilar Cholangiocarcinoma: Resection or Transplant?	Ann Surg. 2018 May;267(5):806-807	Original Article

145	Toyoda Y, Igami T, Ochiai Y, 他	消化器外科一	Single-Incision Laparoscopic Splenectomy for an Unruptured Aneurysm of the Splenic Artery.	Med Princ Pract. 2018;27(1):95-98	Original Article
146	Ebata T, Mizuno T, Yokoyama Y, 他	消化器外科一	Surgical resection for Bismuth type IV perihilar cholangiocarcinoma.	Br J Surg. 2018 Jun;105(7):829-838	Original Article
147	Shan W, Nagai T, Tanaka M,他	薬剤部	Neuronal PAS domain protein 4 (Npas4) controls neuronal homeostasis in pentylenetetrazole-induced epilepsy through the induction of Homer1a.	J Neurochem. 2018 Apr;145(1):19-33	Original Article
148	Sobue A, Ito N, Nagai T, 他	薬剤部	Astroglial major histocompatibility complex class I following immune activation leads to behavioral and neuropathological changes.	Glia. 2018 May;66(5):1034-1052	Original Article
149	Wulaer B, Nagai T, Sobue A, 他	薬剤部	Repetitive and compulsive-like behaviors lead to cognitive dysfunction in Disc1 Δ2-3/ Δ2-3 mice.	Genes Brain Behav. 2018 Nov;17(8):e12478	Original Article

150	Yamada S, Itoh N, Nagai T, 他	薬剤部	Innate immune activation of astrocytes impairs neurodevelopment via upregulation of follistatin-like 1 and interferon-induced transmembrane protein 3.	J Neuroinflammation. 2018 Oct 22;15(1):295	Original Article
151	Bin Saifullah MA, Nagai T, Kuroda K, 他	薬剤部	Cell type-specific activation of mitogen-activated protein kinase in D1 receptor-expressing neurons of the nucleus accumbens potentiates stimulus-reward learning in mice.	Sci Rep. 2018 Sep 26;8(1):14413	Original Article
152	Yanagisawa S, Inden Y, Fujii A, 他	循環器内科	Uninterrupted Direct Oral Anticoagulant and Warfarin Administration in Elderly Patients Undergoing Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: A Comparison With Younger Patients.	JACC Clin Electrophysiol. 2018 May;4(5):592-600	Original Article
153	Sumi T, Tanaka A, Ishii H,他	循環器内科	Vasospastic angina in a 16-year-old female	Cardiovasc Interv Ther. 2018 Oct;33(4):393-394	Case Report
154	Sumi T, Ishii H, Tanaka A, 他	循環器内科	Impact of post-dilatation on longitudinal stent elongation: An in vitro study.	J Cardiol. 2018 May;71(5):464-470	Original Article

155	Harada K, Kikuchi R, Suzuki S, 他	循環器内科	Impact of high-density lipoprotein 3 cholesterol subfraction on periprocedural myocardial injury in patients who underwent elective percutaneous coronary intervention.	Lipids Health Dis. 2018 Feb 2;17(1):21	Original Article
156	Hirayama K, Ishii H, Kikuchi R, 他	循環器内科	Clinical impact of circulating irisin on classified coronary plaque characteristics.	The Journal of Applied Laboratory Medicine 2018 Jun:79-88	Original Article
157	Sumi T, Tanaka A, Ishii H, 他	循環器内科	Coronary air embolism following transbronchial lung biopsy.	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Jan;34(1):64-66	Case Report
158	Aoki T, Ishii H, Tanaka A, 他	循環器内科	Influence of chronic kidney disease and worsening renal function on clinical outcomes in patients undergoing primary percutaneous coronary intervention.	Clin Exp Nephrol. 2019 Feb;23(2):182-188	Original Article
159	Aoki T, Tanaka A, Tokuda Y,他	循環器内科	Temporary immobile leaflet following transcatheter aortic valve replacement of a SAPIEN-XT valve.	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Jul;34(3):277-278	Case Report

160	Negishi Y, Tanaka A, Ishii H, 他	循環器内科	Contrast-Induced Nephropathy and Long-Term Clinical Outcomes Following Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Advanced Renal Dysfunction (Estimated Glomerular Filtration Rate <30 ml/min/1.73 m(2)).	Am J Cardiol. 2019 Feb 1;123(3):361-367	Original Article
161	Harada K, Suzuki H, Matsunaga S, 他	循環器内科	Clinical Characteristics of Nonobese Patients with Acute Coronary Syndrome and Increased Epicardial Fat Volume.	J Atheroscler Thromb. 2018 Oct 1;25(10):1044-1052	Original Article
162	Shimizu Y, Polavarapu R, Eskla KL, 他	循環器内科	Impact of Lymphangiogenesis on Cardiac Remodeling Following Ischemia and Reperfusion Injury.	J Am Heart Assoc. 2018 Oct 2;7(19):e009565	Original Article
163	Hiraiwa H, Morimoto R, Okumura T, 他	循環器内科	A survival case of a young adult patient with ST-elevated myocardial infarction with high levels of lipoprotein(a).	Journal of cardiology cases 2019 Mar 8;19(6):207-210	Case Report
164	Kondo T, Morimoto R, Yokoi T, 他	循環器内科	Hemodynamics of cardiac tamponade during extracorporeal membrane oxygenation support in a patient with fulminant myocarditis.	J Cardiol Cases. 2018 Oct 25;19(1):22-24	Case Report

165	Yamaguchi S, Morimoto R, Okumura T, 他	循環器内科	Late-Onset Fulminant Myocarditis With Immune Checkpoint Inhibitor Nivolumab.	Can J Cardiol. 2018 Jun;34(6):812.e1-812.e3	Case Report
166	Kondo T, Sawamura A, Okumura T, 他	循環器内科	Promising method for management of venoarterial extracorporeal membrane oxygenation: A case of severe heart failure successfully stabilized by "high-flow/vasodilation method".	J Cardiol Cases. 2018 Jun 14;18(2):81-84	Case Report
167	Okumura T, Murohara T.	循環器内科	Are Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors Really Useful and Safe for Advanced Heart Failure?	Circ J. 2018 Jun 25;82(7):1752-1753	Others
168	Sawamura A, Okumura T, Ito M, 他	循環器内科	Prognostic Value of Electrocardiography in Patients With Fulminant Myocarditis Supported by Percutaneous Venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation - Analysis From the CHANGE PUMP Study.	Circ J. 2018 Jul 25;82(8):2089-2095	Original Article
169	Hiraiwa H, Okumura T, Sawamura A, 他	循環器内科	Corrigendum to "The Selvester QRS score as a predictor of cardiac events in nonischemic dilated cardiomyopathy"	J Cardiol. 2018 Aug;72(2):178	Original Article

170	Hiraiwa H, Okumura T, Sawamura A, 他	循環器内科	Author's reply.	J Cardiol. 2018 Sep;72(3):266	Others
171	Kano N, Okumura T, Isobe S, 他	循環器内科	Left ventricular phase entropy: Novel prognostic predictor in patients with dilated cardiomyopathy and narrow QRS.	J Nucl Cardiol. 2018 Oct;25(5):1677-1687	Original Article
172	Okumura T, Sawamura A, Murohara T.	循環器内科	Palliative and end-of-life care for heart failure patients in an aging society.	Korean J Intern Med. 2018 Nov;33(6):1039-1049	Review
173	Kondo T, Okumura T, Matsue Y, 他	循環器内科	Specialty-Related Differences in the Acute-Phase Treatment and Prognosis in Patients With Acute Heart Failure - Insights From REALITY-AHF.	Circ J. 2018 Dec 25;83(1):174-181	Original Article
174	Mori H, Isobe S, Suzuki S, 他	循環器内科	Prognostic value of left ventricular dyssynchrony evaluated by gated myocardial perfusion imaging in patients with chronic kidney disease and normal perfusion defect scores.	J Nucl Cardiol. 2019 Feb;26(1):288-297	Original Article

175	Kato K, Diéguez-Hurtado R, Park DY, 他	循環器内科	Pulmonary pericytes regulate lung morphogenesis	Nat Commun. 2018 Jun 22;9(1):2448	Original Article
176	Otaka N, Shibata R, Ohashi K, 他	循環器内科(分子循環器医学(興和)寄附講座)	Myonectin Is an Exercise-Induced Myokine That Protects the Heart From Ischemia-Reperfusion Injury.	Circ Res. 2018 Dec 7;123(12):1326-1338	Original Article
177	Naganawa S	放射線科	Clinical MR imaging of endolymphatic hydrops: Updates on scanning methods, image processing and interpretation.	Solutions in Contrast Imaging 2018 Aug;9(5): 1-5	Original Article
178	Naganawa S, Korogi Y	放射線科	Diagnostic Radiology Service in Japan.	Japanese Journal of Radiology. 2018 Aug;10: 575-578	Review
179	Naganawa S, Nakane T, Kawai H, 他	放射線科	Differences in Signal Intensity and Enhancement on MR Images of the Perivascular Spaces in the Basal Ganglia versus Those in White Matter.	Magn Reson Med Sci. 2018 Oct 10;17(4):301-307	Original Article

180	Naganawa S, Kawai H, Taoka T, 他	放射線科	Improved 3D-real Inversion Recovery: A Robust Imaging Technique for Endolymphatic Hydrops after Intravenous Administration of Gadolinium.	Magn Reson Med Sci. 2019 Jan 10;18(1):105-108	Review
181	Taoka T, Naganawa S	放射線科	Gadolinium-based Contrast Media, Cerebrospinal Fluid and the Glymphatic System: Possible Mechanisms for the Deposition of Gadolinium in the Brain.	Magn Reson Med Sci. 2018 Apr 10;17(2):111-119	Original Article
182	Taoka T, Jost G, Frenzel T, 他	放射線科	Impact of the Glymphatic System on the Kinetic and Distribution of Gadodiamide in the Rat Brain.	Invest Radiol. 2018 Sep;53(9):529-534	Original Article
183	Taoka T, Naganawa S, Kawai H, 他	放射線科	Can low b value difusion weighted imaging evaluate the character of cerebrospinal luid dynamics?	Jpn J Radiol. 2019 Feb;37(2):135-144	Original Article
184	Ito S, Iwano S, Kato K, 他	放射線科	Predictive factors for the outcomes of initial I-131 low-dose ablation therapy to Japanese patients with differentiated thyroid cancer.	Ann Nucl Med. 2018 Jul;32(6):418-424	Original Article

185	Komada T, Suzuki K, Mizuno T, 他	放射線科	Efficacy of percutaneous transhepatic portal vein embolization using gelatin sponge particles and metal coils.	Acta Radiol Open.; 7(4):2058460118769687	Original Article
186	Kamiya S, Iwano S, Umakoshi H, 他	放射線科	Computer-aided Volumetry of Part-Solid Lung Cancers by Using CT: Solid Component Size Predicts Prognosis.	Radiology. 2018 Jun;287(3):1030-1040	Original Article
187	Murase C, Akiyama M	皮膚科	Hand, foot, and mouth disease in an adult.	N Engl J Med. 2018 Apr 5;378(14):e20	Others
188	Akiyama M, Takeichi T, McGrath JA, 他	皮膚科	Autoinflammatory keratinization diseases: An emerging concept encompassing various inflammatory keratinization disorders of the skin.	J Dermatol Sci. 2018 May;90(2):105-111	Review
189	Oi R, Takeichi T, Okuno Y,他	皮膚科	An infant with generalized pustular psoriasis and geographic tongue had a heterozygous IL36RN mutation and IgG2 deficiency.	J Dermatol Sci. 2018 May;90(2):216-218	Case Report

190	Kobayashi T, Kono M, Suganuma M, 他	皮膚科	Analysis of genotype/phenotype correlations in Japanese patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria.	Nagoya J Med Sci. 2018 May;80(2):267-277	Original Article
191	Kono M, Suganuma M, Dutta A, 他	皮膚科	Bilateral striatal necrosis and dyschromatosis symmetrica hereditaria: A-I editing efficiency of ADAR1 mutants and phenotype expression.	Br J Dermatol. 2018 Aug;179(2):509-511	Case Report
192	Taki T, Takeichi T, Sugiura K, 他	皮膚科	Roles of aberrant hemichannel activities due to mutant connexin26 in the pathogenesis of KID syndrome.	Sci Rep. 2018 Aug 27;8(1):12824	Original Article
193	Adachi R, Kono M, Takeichi T, 他	皮膚科	Eosinophilia and systemic symptoms with transient ageusia: a drug reaction caused by zonisamide.	Eur J Dermatol. 2018 Aug 1;28(4):523-524	Case Report
194	Kono M, Suganuma M, Shimada T, 他	皮膚科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria with chilblains due to a novel two-amino-acid deletion in the double-stranded RNA-binding domain of ADAR1.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2018 Oct;32(10):e394-e396	Case Report

195	Maki Y, Takeichi T, Kono M, 他	皮膚科	Case of mild X-linked ichthyosis complicated with paroxysmal supraventricular tachycardia and anemia.	J Dermatol. 2018 Oct;45(10):e275-e276	Case Report
196	Takeichi T, Honda A, Okuno Y, 他	皮膚科	Sterol profiles are valuable biomarkers for phenotype expression of Conradi-Hünermann-Happle syndrome with EBP mutations.	Br J Dermatol. 2018 Nov;179(5):1186-1188	Letter
197	Takeichi T, Sugiura K, Tanahashi K, 他	皮膚科	Autosomal dominant progressive hyperpigmentation and lentigines in a Japanese pedigree due to a missense mutation near the C-terminus of KIT.	Br J Dermatol. 2018 Nov;179(5):1210-1211	Case Report
198	Kono M, Niizawa M, Takeichi T, 他	皮膚科	Mild Hailey-Hailey disease cases with aberrant splicing variants of ATP2C1 successfully controlled with excimer light.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2018 Nov;32(11):e413-e416	Case Report
199	Murase C, Takeichi T, Shibata A, 他	皮膚科	Cross-sectional survey on disease severity in Japanese patients with harlequin ichthyosis/ichthyosis: Syndromic forms and quality-of-life analysis in a subgroup.	J Dermatol Sci. 2018 Nov;92(2):127-133	Original Article

200	Murase C, Takeichi T, Sugiura K,他	皮膚科	Hearing impairment: A secondary symptom in a congenital ichthyosiform erythroderma patient with ABCA12 mutations.	J Dermatol. 2018 Nov;45(11):e303-e304	Case Report
201	Kono M, Okamoto T, Takeichi T, 他	皮膚科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria may be successfully controlled by topical sunscreen.	Eur J Dermatol. 2018 Dec 1;28(6):840-841	Case Report
202	Takeichi T, Okuno Y, Kawamoto A, 他	皮膚科	Reduction of stratum corneum ceramides in Neu-Laxova syndrome caused by phosphoglycerate dehydrogenase deficiency.	J Lipid Res. 2018 Dec;59(12):2413-2420	Original Article
203	Ito Y, Takeichi T, Koide T, 他	皮膚科	Case of adult-onset Still's disease with psoriasiform eruptions.	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e109-e110	Case Report
204	Hanamura T, Kono M, Yokota K, 他	皮膚科	Hyaline vascular-type unicentric Castleman disease presenting as a subcutaneous nodule in a child.	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e97-e99	Case Report

205	Uno Y, Kanda M, Miwa T, 他	消化器外科二	Increased Expression of DNAJC12 is Associated with Aggressive Phenotype of Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2019 Mar;26(3):836-844	Original Article
206	Niwa Y, Yamada S, Sonohara F, 他	消化器外科二	Identification of a serum-based miRNA signature for response of esophageal squamous cell carcinoma to neoadjuvant chemotherapy.	J Transl Med. 2019 Jan 3;17(1):1	Original Article
207	Shimizu D, Masuda T, Sato K, 他	消化器外科二	CRMP5-associated GTPase (CRAG) Is a Candidate Driver Gene for Colorectal Cancer Carcinogenesis.	Anticancer Res. 2019 Jan;39(1):99-106	Original Article
208	Tanaka C, Fujiwara M, Kanda M, 他	消化器外科二	Optical trocar access for initial trocar placement in laparoscopic gastrointestinal surgery: A propensity score-matching analysis.	Asian J Endosc Surg. 2019 Jan;12(1):37-42	Original Article
209	Kodera Y, Yoshida K, Kumamaru H, 他	消化器外科二	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan.	Gastric Cancer. 2019 Jan;22(1):202-213	Original Article

210	Nakagawa N, Kanda M, Ito S, 他	消化器外科二	Pathological tumor infiltrative pattern and sites of initial recurrence in stage II/III gastric cancer: Propensity score matching analysis of a multi-institutional dataset.	Cancer Med. 2018 Dec;7(12):6020-6029	Original Article
211	Shibata M, Kanda M, Shimizu D, 他	消化器外科二	RASEF expression correlates with hormone receptor status in breast cancer.	Oncol Lett. 2018 Dec;16(6):7223-7230	Original Article
212	Umeda S, Kanda M, Koike M, 他	消化器外科二	Copine 5 expression predicts prognosis following curative resection of esophageal squamous cell carcinoma.	Oncol Rep. 2018 Dec;40(6):3772-3780	Original Article
213	Morimoto D, Yamada S, Murotani K, 他	消化器外科二	Prognostic Impact of Portal System Invasion in Pancreatic Cancer Based on Image Classification.	Pancreas. 2018 Nov/Dec;47(10):1350-1356	Original Article
214	Tashiro M, Yamada S, Sonohara F, 他	消化器外科二	Clinical Impact of Neoadjuvant Therapy on Nutritional Status in Pancreatic Cancer.	Ann Surg Oncol. 2018 Oct;25(11):3365-3371	Original Article

215	Umeda S, Kanda M, Miwa T, 他	消化器外科二	Expression of sushi domain containing two reflects the malignant potential of gastric cancer.	Cancer Med. 2018 Oct;7(10):5194-5204	Original Article
216	Sato B, Kanda M, Tanaka C,他	消化器外科二	Significance of Preoperative Systemic Inflammation Score in Short-Term and Long-Term Outcomes of Patients with Pathological T2-4 Gastric Cancer After Radical Gastrectomy.	World J Surg. 2018 Oct;42(10):3277-3285	Original Article
217	Sonohara F, Yamada S, Tanaka N, 他	消化器外科二	Perioperative and prognostic implication of albumin-bilirubin-TNM score in Child-Pugh class A hepatocellular carcinoma.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Sep 27;3(1):65-74	Original Article
218	Kanda M, Shimizu D, Tanaka H, 他	消化器外科二	Synaptotagmin XIII expression and peritoneal metastasis in gastric cancer.	Br J Surg. 2018 Sep;105(10):1349-1358	Original Article
219	Tanaka H, Kanda M, Miwa T, 他	消化器外科二	Pattern-Specific Transcriptomics Identifies ASGR2 as a Predictor of Hematogenous Recurrence of Gastric Cancer.	Mol Cancer Res. 2018 Sep;16(9):1420-1429	Original Article

220	Kanda M, Tanaka H, Shimizu D,他	消化器外科二	SYT7 acts as a driver of hepatic metastasis formation of gastric cancer cells.	Oncogene. 2018 Sep;37(39):5355-5366	Original Article
221	Yamada S, Fujii T, Hirakawa A, 他	消化器外科二	Comparison of the Survival Outcomes of Pancreatic Cancer and Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms.	Pancreas. 2018 Sep;47(8):974-979	Original Article
222	Kanda M, Tanaka C, Murotani K, 他	消化器外科二	Editors' Choice Efficacy of enteral nutrients containing beta - hydroxy - beta methylbutyrate, glutamine, and arginine for the patients with anastomotic leakage after gastrectomy: study protocol of a multicenter phase II clinical trial.	Nagoya J Med Sci. 2018 Aug;80(3):351-355	Original Article
223	Nakayama G, Mitsuma A, Sunagawa Y, 他	消化器外科二	Randomized Phase II Trial of CapOX plus Bevacizumab and CapIRI plus Bevacizumab as First-Line Treatment for Japanese Patients with Metastatic Colorectal Cancer (CCOG-1201 Study).	Oncologist. 2018 Aug;23(8):919-927	Original Article
224	Kato Y, Yamada S, Suenaga M, 他	消化器外科二	Impact of the Controlling Nutritional Status Score on the Prognosis After Curative Resection of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Pancreas. 2018 Aug;47(7):823-829	Original Article

225	Yamada S, Fujii T, Kawai M, 他	消化器外科二	Splenic vein resection together with the pancreatic parenchyma versus separated resection after isolation of the parenchyma during distal pancreatectomy (COSMOS-DP trial): study protocol for a randomised controlled trial.	Trials. 2018 Jul 11;19(1):369	Original Article
226	Sawaki K, Kanda M, Miwa T, 他	消化器外科二	Troponin I2 as a Specific Biomarker for Prediction of Peritoneal Metastasis in Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2018 Jul;25(7):2083-2090	Original Article
227	Shimizu D, Saito T, Ito S, 他	消化器外科二	Overexpression of FGFR1 Promotes Peritoneal Dissemination Via Epithelial-to-Mesenchymal Transition in Gastric Cancer.	Cancer Genomics Proteomics. 2018 Jul-Aug;15(4):313-320	Original Article
228	Tanaka N, Yamada S, Sonohara F, 他	消化器外科二	Clinical Implications of Lysyl Oxidase-Like Protein 2 Expression in Pancreatic Cancer.	Sci Rep. 2018 Jun 29;8(1):9846	Original Article
229	Kanda M, Murotani K, Tanaka H,他	消化器外科二	A novel dual-marker expression panel for easy and accurate risk stratification of patients with gastric cancer.	Cancer Med. 2018 Jun;7(6):2463-2471	Original Article

230	Ninomiya G, Yamada S, Hayashi M, 他	消化器外科二	Significance of Lysyl oxidase-like 2 gene expression on the epithelial-mesenchymal status of hepatocellular carcinoma.	Oncol Rep. 2018 Jun;39(6):2664-2672	Original Article
231	Asada T, Nakayama G, Tanaka C, 他	消化器外科二	Postoperative adalimumab maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a single-center, single-arm phase II trial (CCOG-1107 study).	Surg Today. 2018 Jun;48(6):609-617	Original Article
232	Yamada S, Fujii T, Yokoyama Y, 他	消化器外科二	Phase I study of chemoradiotherapy using gemcitabine plus nab-paclitaxel for unresectable locally advanced pancreatic cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2018 May;81(5):815-821	Original Article
233	Kanda M, Murotani K, Tanaka H, 他	消化器外科二	Integrated multigene expression panel to prognosticate patients with gastric cancer.	Oncotarget. 2018 Apr 10;9(27):18775-18785	Original Article
234	Shimizu D, Kanda M, Kodera Y, 他	消化器外科二	Cutting-edge evidence of adjuvant treatments for gastric cancer.	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2018 Nov;12(11):1109-1122	Review

235	Sawaki K, Kanda M, Kodera Y.	消化器外科二	Review of recent efforts to discover biomarkers for early detection, monitoring, prognosis, and prediction of treatment responses of patients with gastric cancer.	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2018 Jul;12(7):657-670	Review
236	Shimizu D, Kanda M, Kodera Y.	消化器外科二	Emerging evidence of the molecular landscape specific for hematogenous metastasis from gastric cancer.	World J Gastrointest Oncol. 2018 Jun 15;10(6):124-136	Review
237	Umeda S, Kanda M, Kodera Y.	消化器外科二	Emerging evidence of molecular biomarkers in hepatocellular carcinoma.	Histol Histopathol. 2018 Apr;33(4):343-355	Review
238	Doke T, Ishimoto T, Hayasaki T, 他	腎臓内科	Lacking Ketohexokinase-A Exacerbates Renal Injury in Streptozotocin-induced Diabetic Mice.	Metabolism. 2018 Aug;85:161-170	Original Article
239	Ozeki T, Tsuji M, Yamamoto J, 他	腎臓内科	Thrombotic microangiopathy on kidney biopsy in a patient with TAFRO syndrome.	CEN Case Rep. 2018 Nov;7(2):243-247	Original Article

240	Kato S, Ando M, Kondo T, 他	腎臓内科	Lifestyle intervention using Internet of Things (IoT) for the elderly: A study protocol for a randomized control trial (the BEST-LIFE study).	Nagoya J Med Sci. 2018.May;80(2):175-182	Original Article
241	Wada T, Muso E, Maruyama S, 他	腎臓内科	Rationale and study design of a clinical trial to assess the effects of LDL apheresis on proteinuria in diabetic patients with severe proteinuria and dyslipidemia.	Clin Exp Nephrol. 2018.Jun;22(3):591-596	Original Article
242	Ito Y, Tawada M, Tine S, 他	腎臓内科	Current Status of Peritoneal Dialysis in Japan.	Contrib Nephrol. 2018.Jul;196:123-128	Original Article
243	Mizukoshi T, Kato S, Ando M,他	腎臓内科	Renoprotective effects of topiroxostat for hyperuremic patients with overt diabetic nephropathy study (ETUDE Study): A prospective, randomized, multicenter clinical trial.	Nephrology. 2018.Nov;23(11):1023-1030	Original Article
244	Ozeki T, Ando M, Yamaguchi M,他	腎臓内科	Treatment patterns and steroid dose for adult minimal change disease relapses: A retrospective cohort study.	PLoS One. 2018.Jun;13(6):e0199228	Original Article

245	Asano M, Ishii T, Hirayama A, 他	腎臓内科	Differences in peritoneal solute transport rates in peritoneal dialysis.	Clin Exp Nephrol. 2019 Jan;23(1):122-134	Original Article
246	Maeda K, Otomo K, Yoshida N,他	腎臓内科	CaMK4 compromises podocyte function in autoimmune and nonautoimmune kidney disease.	J Clin Invest. 2018.Aug;128(8):3445-3459	Original Article
247	Inagaki K, Kaihan AB, Hachiya A, 他	腎臓内科	Clinical impact of endocapillary proliferation according to the Oxford classification among adults with Henoch-Schönlein purpura nephritis: a multicenter retrospective cohort study.	BMC Nephrol. 2018 Aug 17;19(1):208	Original Article
248	Iguchi D, Mizuno M, Suzuki Y, 他	腎臓内科	Anti-C5a complementary peptide mitigates zymosan-induced severe peritonitis with fibrotic encapsulation in rat pretreated with methylglyoxal.	Am J Physiol Renal Physiol. 2018 Dec 1;315(6):F1732-F1746	Original Article
249	Ozeki T, Katsuno T, Hayashi H, 他	腎臓内科	Short-Term Steroid Regimen for Adult Steroid-Sensitive Minimal Change Disease.	Am J Nephrol. 2019.Jan;49(1):54-63	Original Article

250	Shigemoto E, Mizuno M, Suzuki Y, 他	腎臓内科	Increase of Eosinophil in Dialysate During Induction of Peritoneal Dialysis.	Perit Dial Int. 2019.Jan;39(1):90-92	Original Article
251	Funahashi Y, Kato N, Masuda T, 他	腎臓内科	miR-146a targeted to splenic macrophages prevents sepsis-induced multiple organ injury.	Am J Nephrol. 2019;49(1):54-63	Original Article
252	Kitagawa A, Tsuboi N, Yokoe Y, 他	腎臓内科	Urinary levels of the leukocyte surface molecule CD11b associate with glomerular inflammation in lupus nephritis.	Kidney Int. 2019 Mar;95(3):680-692	Original Article
253	Kaihan AB, Yasuda Y, Imaizumi T, 他	腎臓内科	Clinical impact of endocapillary proliferation with modified cutoff points in IgA nephropathy patients.	PLoS One. 2019.Mar;14(3):e0214414	Original Article
254	Takatani Y, Ono K, Suzuki H, 他	救急科	Inducible nitric oxide synthase during the late phase of sepsis is associated with hypothermia and immune cell migration.	Lab Invest. 2018 May;98(5):629-639	Original Article

255	Nishikimi M, Numaguchi A, Takahashi K,他	救急科	Effect of Administration of Ramelteon, a Melatonin Receptor Agonist, on the Duration of Stay in the ICU: A Single-Center Randomized Placebo-Controlled Trial.	Crit Care Med. 2018 Jul;46(7):1099-1105	Original Article
256	Sugimoto S, Yoshida T, Teranishi M, 他	耳鼻咽喉科	Significance of Endolymphatic Hydrops Herniation Into the Semicircular Canals Detected on MRI.	Otol Neurotol. 2018 Dec; 39(10): 1229-1234	Original Article
257	Sugimoto S, Yoshida T, Teranishi M, 他	耳鼻咽喉科	The relationship between endolymphatic hydrops in the vestibule and low-frequency air-bone gaps.	Laryngoscope. 2018 Jul; 128(7): 1658-1662	Original Article
258	Maruo T, Sakuraba M, Shinozaki T, 他	耳鼻咽喉科	Swallowing disorder following salvage total pharyngo-laryngo-esophagectomy with free jejunum reconstruction.	Oncol Lett. 2018 May;15(5):7355-7361	Original Article
259	Mukoyama N, Suzuki H, Hanai N,他	耳鼻咽喉科	Pathological tumor volume predicts survival outcomes in oral squamous cell carcinoma.	Oncology Letters. 2018 Aug; 16(2): 2471-2477	Original Article

260	Kawashima H, Hirooka Y, Ohno E, 他	消化器内科	Effectiveness of a modified 6-Fr endoscopic nasobiliary drainage catheter for patients with preoperative perihilar cholangiocarcinoma.	Endosc Int Open. 2018 Aug;6(8):E1020-E1030	Original Article
261	Ishikawa T, Hirooka Y, Kawashima H,他	消化器内科	Multiphase evaluation of contrast-enhanced endoscopic ultrasonography in the diagnosis of pancreatic solid lesions.	Pancreatology. 2018 Apr;18(3):291-297	Original Article
262	Yoshikawa M, Matsuzaki I, Hirose K,他	消化器内科	Endoscopic submucosal dissection with the use of liquid ceramic coating at endoscopic lens	VideoGIE. 2018 Jun 12;3(8):230-231	Case Report
263	Ishikawa T, Kawashima H, Ohno E, 他	消化器内科	Clinical Impact of EUS-Guided Fine Needle Biopsy Using a Novel Franseen Needle for Histological Assessment of Pancreatic Diseases.	Can J Gastroenterol Hepatol. 2019 Feb 3;2019:8581743	Original Article
264	Fujiyoshi T, Miyahara R, Funasaka K, 他	消化器内科	Utility of linked color imaging for endoscopic diagnosis of early gastric cancer.	World J Gastroenterol. 2019 Mar 14;25(10):1248-1258	Original Article

265	Liu N, Funasaka K, Obayashi T, 他	消化器内科	ATAD2 is associated with malignant characteristics of pancreatic cancer cells.	Oncol Lett. 2019 Mar;17(3):3489-3494	Original Article
266	Hirose T, Funasaka K, Furukawa K, 他	消化器内科	Plummer-Vinson Syndrome with Esophageal Web Formation in which Detailed Endoscopic Images Were Obtained.	Intern Med. 2019 Mar 15;58(6):785-789	Case Report
267	Ishigami M, Hayashi K, Honda T, 他	消化器内科	Daclatasvir and asunaprevir treatment in patients infected by genotype 1b of hepatitis C virus with no or subtle resistant associated substitutions (RAS) in NS5A-Y93.	J Med Virol. 2018 Apr;90(4):736-744	Original Article
268	Uchida G, Hirooka Y, Nakamura M, 他	消化器内科	Nomogram-based prediction of rebleeding in small bowel bleeding patients: the 'PRSBB' score.	Sci Rep. 2018 Apr 23;8(1):6378	Original Article
269	Matsuura R, Watanabe O, Nakamura M, 他	消化器内科	Fecal calprotectin reflects endoscopic activity in patients with small-bowel Crohn's disease according to double-balloon endoscopy findings.	Nagoya J Med Sci. 2018 May;80(2):257-266	Original Article

270	Ando Y, Ishigami M, Ishizu Y, 他	消化器内科	Utility of contrast-enhanced ultrasonography with perflubutane in evaluating indications for diagnostic percutaneous tumor biopsy in a case of hepatic sclerosed hemangioma.	Clin J Gastroenterol. 2018 Dec;11(6):514-520	Original Article
271	Kuzuya T, Ishigami M, Ishizu Y, 他	消化器内科	Complete response by vitamin K2 analog monotherapy in sorafenib-failure advanced hepatocellular carcinoma: A case report.	Hepatol Res. 2019 Mar;49(3):360-364	Original Article
272	Ito T, Ishigami M, Ishizu Y, Kuzuya T, 他	消化器内科	Utility and limitations of noninvasive fibrosis markers for predicting prognosis in biopsy-proven Japanese non-alcoholic fatty liver disease patients.	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jan;34(1):207-214	Original Article
273	Nakamura M, Yamamura T, Maeda K, 他	消化器内科	Validity of Capsule Endoscopy in Monitoring Therapeutic Interventions in Patients with Crohn's Disease.	J Clin Med. 2018 Sep 29;7(10)	Original Article
274	Ishikawa E, Kato S, Shimada K, 他	消化器内科	Clinicopathological analysis of primary intestinal diffuse large B-cell lymphoma: Prognostic evaluation of CD5, PD-L1, and Epstein-Barr virus on tumor cells.	Cancer Med. 2018 Dec;7(12):6051-6063	Original Article

275	Yamamoto K, Ishigami M, Honda T, 他	消化器内科	Influence of proton pump inhibitors on microbiota in chronic liver disease patients.	Hepatol Int. 2019 Mar;13(2):234-244	Original Article
276	Nishikawa T, Nakamura M, Yamamura T, 他	消化器内科	Lewis Score on Capsule Endoscopy as a Predictor of the Risk for Crohn's Disease-Related Emergency Hospitalization and Clinical Relapse in Patients with Small Bowel Crohn's Disease.	Gastroenterol Res Pract. 2019 Mar 3;2019:4274257	Original Article
277	Shirotsuki R, Uchida H, Tanaka Y, 他	小児外科	Novel thoracoscopic navigation surgery for neonatal chylothorax using indocyanine-green fluorescent lymphography.	J Pediatr Surg. 2018 Jun;53(6):1246-1249	Original Article
278	Tainaka T, Uchida H, Tanaka Y, 他	小児外科	Long-term outcomes and complications after laparoscopic-assisted anorectoplasty vs. posterior sagittal anorectoplasty for high- and intermediate-type anorectal malformation.	Pediatr Surg Int. 2018 Oct;34(10):1111-1115	Original Article
279	Shirota C, Suzuki K, Uchida H, 他	小児外科	Investigation of the feasibility and safety of single-stage anorectoplasty in neonates with anovestibular fistula.	Pediatr Surg Int. 2018 Oct;34(10):1117-1120	Original Article

280	Yokota K, Uchida H, Tainaka T, 他	小児外科	Single-stage laparoscopic transanal pull-through modified Swenson procedure without leaving a muscular cuff for short- and long-type Hirschsprung disease: a comparative study.	Pediatr Surg Int. 2018 Oct;34(10):1105-1110	Original Article
281	Tanaka Y, Tainaka T, Sumida W, 他	小児外科	Introduction of resection of intrahepatic bile duct stenosis-causing membrane or septum into laparoscopic choledochal cyst excision.	Pediatr Surg Int. 2018 Oct;34(10):1087-1092	Original Article
282	Sumida W, Uchida H, Tainaka T, 他	小児外科	Oral administration of eicosapentaenoic acid suppresses liver fibrosis in postoperative patients with biliary atresia.	Pediatr Surg Int. 2018 Oct;34(10):1059-1063	Original Article
283	Tanaka Y, Tainaka T, 他	小児外科	Indications for total esophagogastric dissociation in children with gastroesophageal reflux disease.	Surg Today. 2018 Nov;48(11):971-977	Review
284	Sumida W, Uchida H, Ono Y,他	小児外科	Air test as a simple method of screening for Hirschsprung's disease.	Clin Radiol. 2018 Dec;73(12):1041-1045	Original Article

285	Murase N, Hinoki A, Shirota C, 他	小児外科	Multicenter, retrospective, comparative study of laparoscopic and open Kasai portoenterostomy in children with biliary atresia from Japanese high-volume centers.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2019 Jan;26(1):43-50	Original Article
286	Shirota C, Tainaka T, Nakane T, 他	小児外科	Usefulness of fetal magnetic resonance imaging for postnatal management of congenital lung cysts: prediction of probability for emergency surgery	BMC Pediatr. 2018 Mar 8;18(1):105	Original Article
287	Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, 他	脳神経内科	Study protocol for the MEXiletine hydrochloride administration trial: a placebo-controlled, randomised, double-blind, multicentre, crossover study of its efficacy and safety in spinal and bulbar muscular atrophy (MEXPRESS).	BMJ Open. 2018 Sep 11;8(9):e023041.	Original Article
288	Hijikata Y, Hashizume A, Yamada S, 他	脳神経内科	Biomarker-based analysis of preclinical progression in spinal and bulbar muscular atrophy.	Neurology. 2018 Apr 24;90(17):e1501-e1509.	Original Article
289	Masuda M, Watanabe H, Tanaka Y, 他	脳神経内科	Age-related impairment in Addenbrooke's cognitive examination revised scores in patients with amyotrophic lateral sclerosis.	Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener. 2018 Nov;19(7-8):578-584.	Original Article

290	Yokoi T, Watanabe H, Yamaguchi H, 他	脳神経内科	Involvement of the Precuneus/Posterior Cingulate Cortex Is Significant for the Development of Alzheimer's Disease: A PET (THK5351, PiB) and Resting fMRI Study.	Front Aging Neurosci. 2018 Oct 5;10:304.	Original Article
291	Watanabe H, Riku Y, Hara K, 他	脳神経内科	Clinical and Imaging Features of Multiple System Atrophy: Challenges for an Early and Clinically Definitive Diagnosis.	J Mov Disord. 2018 Sep;11(3):107-120.	Original Article
292	Hara K, Watanabe H, Bagarinao E, 他	脳神経内科	Corpus callosal involvement is correlated with cognitive impairment in multiple system atrophy.	J Neurol. 2018 Sep;265(9):2079-2087.	Original Article
293	Koike H, Nishi R, Ikeda S, 他	脳神経内科	Restoration of a Conduction Block after the Long-term Treatment of CIDP with Anti-neurofascin 155 Antibodies: Follow-up of a Case over 23 Years.	Intern Med. 2018 Jul 15;57(14):2061-2066.	Original Article
294	Tamura T, Kitamura K, Yokota S, 他	麻酔科	Spread of Quadratus Lumborum Block to the Paravertebral Space Via Intramuscular Injection: A Volunteer Study.	Reg Anesth Pain Med. 2018 May;43(4):372-377.	Original Article

295	Tamura T, Yokota S, Ito S, 他	麻酔科	Local anesthetic spread into the paravertebral space with two types of quadratus lumborumblocks: a crossover volunteer study.	J Anesth. 2019 Feb;33(1):26-32.	Original Article	
296	Tamura T, Kitamura K, Yokota S,他	麻酔科	Reply to Drs El-Boghdadly and Elsharkawy.	Reg Anesth Pain Med. 2018 Jul;43(5):558-559.	Letter	
297	Taharabaru S, Satomoto M, Tamura T, 他	麻酔科	Smaller effect of propofol than sevoflurane anesthesia on dopamine turnover induced by methamphetamine and nomifensine in the rat striatum: an in vivo microdialysis study.	Exp Anim. 2018 May 10;67(2):147-153.	Original Article	
298	Ozeki K, Sugiyama M, Akter KA, 他	麻酔科	FAM98A is localized to stress granules and associates with multiple stress granule-localized proteins.	Mol Cell Biochem. 2019 Jan;451(1-2):107-115.	Original Article	計298件

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Sawada Y, Mabuchi M, Hiirata H	手の外科	肘関節周囲骨折に合併した異所性骨化の検討	日本手外科学会会誌 2018 Nov;35(2)195-198	Original Article
2	Mitake T, Iwatsuki K, Yamamoto M, 他	手の外科	症例対照研究による橈骨遠位端骨折における手術的治療と保存的治療の成績比較	日本手外科学会雑誌 2019 Jan;35(4),761-764	Original Article
3	Yamamoto M, Hirata H	手の外科	デュプイトラン拘縮患者を対象としたコラゲナーゼ注射治療と腱膜切除術後の上肢機能および費用効果の前向き観察研究	Bone Joint Nerve2019 Jan;9,59-64	Original Article
4	Toyama,M.Ozaki,N.	精神科・親と子どもの心療科	統合失調症と自閉スペクトラム症発症にかかわるrare variants探索から分子病態解明へ	日本生物学的精神医学会誌 2018 Apr;29,1 p12-17	Review
5	Kawano N, Aoki H, OzakiN.	精神科・親と子どもの心療科	高齢期の認知機能低下と安全運転：支援立案に向けた研究課題の整理	認知科学 2018 Sep 25,3 p243-258	Review
6	Iwata M, Iwamoto K, Kawano N, 他	精神科・親と子どもの心療科	統合失調症と自動車運転関連法規	診断と治療のABC 2018 Jun;136,p190-196	Review

7	Iwata M, Iwamoto K, Kawano N,他	精神科・親と子どもの心療科	医薬品の日常生活機能への影響	精神科治療学 2018 May;33,5 p535-540	Review
8	Kubota C, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	妊娠中における大うつ病薬物療法のマネジメント	妊婦の精神疾患と向精神薬 p69-86,2018	Review
9	Kubota C, OzakiN.	精神科・親と子どもの心療科	妊娠・授乳と向精神薬	最新精神医学 2018 May; 23,1 p21-30	Review
10	Miyata A, IwamotoK, Kawano N, 他	精神科・親と子どもの心療科	向精神薬と自動車運転:勤労者で注意すべきこと	臨床精神薬理 2018 Sep;21,10 p1371-1377	Review
11	Ogasawara K, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	うつ病治療ガイドライン作成と「治療計画の策定」	最新精神医学 2018 Nov;23,6 p475-482	Review
12	Ogawa S, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	発達障害で記憶力が良いのはなぜですか？	CLINICAL NEUROSCIENCE 2018 Jun 36,6 p752-753	Review
13	Mori D, Kushima I, Arioka Y, 他	精神科・親と子どもの心療科	精神疾患ゲノム解析に基づくシナプス病態研究の新知見	細胞 2018 Dec;50,14 p21-24	Review
14	Ishijima Y, Tokura T, Ozaki,N.	精神科・親と子どもの心療科	精神疾患と身体疾患を合併する患者に対する向精神薬使用時の留意点	医薬ジャーナル 2018 Apr 54,4 p999-1004	Review

15	Tokura T, Kimura H, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	頭頸部癌領域における精神医学的介入の実際	ENTONI 2018 Jul;221,p44-50	Review
16	Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	理事長就任のご挨拶ー病態を解明し、精神障害の理解・診断と治療へ活かされる証左獲得を目指して	日本生物学的精神医学会誌 2018 Oct;29,3 p91	Review
17	Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	産後うつ病の早期発見に繋がるスクリーニング法の確立と、それに基づく適切な介入方法の提案	日本精神神経科診療所協会誌 2018 Sep;44,5 p34-36	Review
18	Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	ゲノム医療の成果を精神障害の当事者・家族に還元するために	こころの健康 2018 Aug 59 p1-2	Review
19	Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	当事者・家族のニーズに応える研究成果をめざして-精神医学研究・教育と精神医療をつなぐ-	精神神経学雑誌 2018 Apr;120,4 p302-312	Review
20	Arioka Y, Kushima I, Mori D, 他	精神科・親と子どもの心療科	ゲノム解析を基盤とした自閉スペクトラム症・総合失調症のiPS細胞研究	日本生物学的精神医学会誌 2018 Oct;29,3 p114-117	Review
21	Kato H, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	自閉スペクトラム症―診断上の留意点と，発症メカニズムの最近の知見について―	臨床神経学 2019 Jan;59,13 p13-20	Review
22	Miyata S, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	精神疾患の先制医療	臨床検査 2019 Jan; 63,1 p37-41	Review

23	Ogawa S, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	自閉症を持つ子ども と大人のよりよい未来 のために-ASDを高率 に呈するゲノムバリア ントに起因する疾患を 中心に	医学のあゆみ 268,3 p175-179,2019	Review
24	Tujimura K, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	マイクロ RNA を介し た発達障害・精神障 害の分子病態	最新医学 2019 Mar;74,3 p119-125	Review
25	Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	精神医学的面接	今日の治療指針 2019 Jan;61,p1019	Review
26	Nawa Y, Kushima I, Ozaki N.	精神科・親と子どもの心療科	既知の遺伝子疾患と 関連する神経発達 症・統合失調症	臨床精神医学 2019 Jan;48,1 p53-61	Review
27	Taharabaru S, Satomoto M, Adachi H, 他	歯科口腔外科	若年健常者症例に対 する歯科処置中の浅 鎮静に用いるミダゾラ ム投与 と酸素飽和度の変化	臨床麻酔. 2018 Jul 42(7):1023-1026.	Original Article
28	Ichimura N, Yamamoto N, Nishikawa M, 他	歯科口腔外科	顎下腺に発生したび まん性大細胞型B細 胞リンパ腫を含む MALTリンパ腫 の1例	日本口腔外科学会雑誌. 2018 Aug 64(8):470-474.	Case Report
29	Hashimoto K, Kawaguchi K, Fukui T, 他	呼吸器外科	胸腺原発粘表皮癌の 1例	日本呼吸器外科学会雑誌 2018 Nov 32;(7) p.804-807	Case Report
30	Kawaguchi K, Yokoi K	呼吸器外科	胸壁浸潤肺癌に対す る集学的治療	胸部外科 2018 Apr;71(4)	Original Article

31	Hiramatsu C. Katori Y	看護部	胎児異常の告知を受け出産した母親のレジリエンスを支える要因　妊娠中から産後に焦点を当てて	母性衛生 2018.Apr;59(1):162-171.	Original Article
32	Takai N	看護部	腹膜透析患者の看護：導入期看護－「妻と二人でやっていく」と他者に支援を求められない患者の事例から	臨床透析 2019 Mar;Vol.35 No.3.55-59	Case Report
33	Tsuchikawa Y, Adachi T, Ashikawa H, 他	リハビリテーション部	慢性心不全患者の地域連携システム構築に向けた調査研究一訪問看護・介護，医療機関における在宅心不全管理の実態調査一	心臓リハビリテーション 2018 Nov;24 (2)：112～121	Original Article
34	Hara D, Fukunaga S	リハビリテーション部	ディサースリアのある発話者の自己の発話認識と認知機能に関する研究	ディサースリア臨床研究 2018 Dec;8（1）115-118	Original Article
35	Shimono M, Nakamura K, Fujimoto Y, 他	リハビリテーション部	眼咽頭筋ジストロフィーに伴う声帯萎縮に対して甲状軟骨形成術Ⅰ+Ⅲ型を施行した1例	耳鼻と臨床 2018;64（5）189-196	Case Report
36	Fujita N, Abe S, Sakuragi Y,他	医療技術部	ドパミントランスポータシンチグラフィにおけるSpecific Binding Ratioの空間分解能依存性に関する解析的検証	核医学技術 2018 Apr;38(2):191-198.	Original Article
37	Kumazawa T, Abe S, Fujita N, 他	医療技術部	123I-IMP ARG法における画像再構成法および減弱補正法の違いによる脳血流定量値の比較	核医学技術 2018 Dec;38(4):479-486.	Original Article
38	Yasumura S, Matsumoto M, Makino S, 他	輸血部	科学的根拠に基づいたアルブミン製剤の使用ガイドライン（第2版）	日本輸血細胞治療学会誌 2018 Dec;64(6) 700-717	Others

39	Yonemura Y, Matsumoto M, Inada E, 他	輸血部	科学的根拠に基づいた赤血球製剤の使用ガイドライン(改訂第2版)	日本輸血細胞治療学会誌 2018 Dec;64(6) 688-699	Others
40	Watarai R, Andou Y, Kikuchi R, 他	検査部	全自動化学発光免疫測定装置を用いたHBs抗原自動希釈の有用性	医学検査 2018 Oct;67(5)772-778	Original Article
41	Iseki A, Hata S, Hara T, 他	医療技術部	乳腺扁平上皮癌の1例	医学検査. 2018 Oct;67(5):809-816.	Case Report
42	Shindo Y, Hasegawa Y	呼吸器内科	院内肺炎、医療・介護関連肺炎の抗菌薬治療	Medical Practice.2018 May;35:4:617-622	Review
43	Wakahara K	呼吸器内科	重症喘息と気道炎症～好酸球性炎症を中心として～	日本職業・環境アレルギー学会雑誌.2018 May;25:2:37-45	Review
44	Sakamoto K, Hasegawa Y	呼吸器内科	器質化肺炎	呼吸器疾患　診断治療アプローチ.2018 Aug;4:198-203	Original Article
45	Shindo Y, Tanaka F	呼吸器内科	病棟管理栄養士のための臨床検査ファーストガイド―疾患別検査値の意味と読み方のポイント　肺炎	臨床栄養.2018 Sep;133:4:589-592	Review
46	Takahashi K, Tsuge A, Hayakawa M, 他	呼吸器内科	気管・気管支病変を合併した慢性リンパ性白血病の肺浸潤の1例	気管支学.2018 Dec;40:6:563-568	Others

47	Hasegawa Y, Sato M, Morise M, 他	呼吸器内科	大気・室内環境関連疾患　予防と対策の手引き　2019	一般社団法人　日本呼吸器学会.2019 Jan;	Others
48	Suzuki A	呼吸器内科	【安定期も増悪期も、ココがわかれば上手くいく COPDのパーフェクト呼吸管理】Part.2 治療 (4) 基本の吸入薬.	みんなの呼吸器 Respica/メディカ出版.2019 Feb;2019年2号	Review
49	Hasegawa Y	呼吸器内科	第46回内科学の展望 内科医, general physicianに必要な免疫・炎症学update	日本内科学会誌.2019 Mar;108:3:379−380	Others
50	Kanemura T, Satake K, Nakashima H, 他	整形外科	脳神経外科コントロバーシー2019 増え続ける高齢者の成人脊柱変形に整形外科医としてどのように対峙するか	Neurological Surgery 2019 Mar (0301−2603)47巻3号 Page271−285	Review
51	Nakashima H,Kanemura T,Satake K, 他	整形外科	【腰部脊柱管狭窄症私の治療戦略】腰部脊柱管狭窄症の再狭窄例に対する腰椎側方進入椎体間固定術(LIF)(間接除圧派)	Orthopaedics 2019 Feb (0914−8124)32巻2号 Page39−43	Review
52	Imagama S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	整形外科最新トピックス　PRP(Platelet Rich Plasma)の脊椎固定術における応用	整形外科Surgical Technique 2019 Feb (2185−7733)9巻1号 Page112−117	Review
53	Hishida A, Kadono I, Okada T, 他	整形外科	軟骨無形成症に起因する脊柱管狭窄症に対して手術とリハビリテーションを行った1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2018 Sep (0008−9443)61巻5号 Page963−964	Original Article
54	Imagama S, Nakashima H, Yagi H, 他	整形外科	整形外科　知ってるつもり 脊髄ヘルニアの画像診断と治療	臨床整形外科 2018 Dec (0557−0433)53巻12号 Page1110−1114	Original Article

55	Kanemura T, Satake K, Nakashima H, 他	整形外科	【ハイテク機器を利用した最新の脊椎脊髄手術】「O-arm」の最新の応用法	脊椎脊髄ジャーナル 2018 Nov (0914-4412)31巻11号 Page938-951	Review
56	Ando K, Imagama S, Ishiguro N	整形外科	【腰椎すべり症診療マニュアル】腰椎分離すべり症の手術治療 Gill法、PLIF、TLIFの歴史的背景より	Orthopaedics 2018 Aug (0914-8124)31巻8号 Page55-59	Review
57	Tanaka S, Imagama S, Ishiguro N, 他	整形外科	整形トピックス ゲノム編集を用いた神経変性疾患の病態解明と治療法開発	臨床雑誌整形外科 2018 Aug (0030-5901)69巻9号 Page922	Review
58	Hida T, Imagama S	整形外科	【整形外科疾患と慢性炎症】サルコペニアと慢性炎症	別冊Bio Clinica: 慢性炎症と疾患 2018 May 7巻2号 Page67-69	Review
59	Ando K, Imagama S, Kobayashi K, 他	整形外科	【脊柱靱帯骨化症研究の進歩】手術的治療の研究 胸椎黄色靱帯骨化症手術における多施設前向き研究　中間報告	臨床雑誌整形外科　2018 May (0030-5901)69巻6号 Page617-619	Review
60	Imagama S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	【脊柱靱帯骨化症研究の進歩】手術的治療の研究 胸椎後縦靱帯骨化症手術における全国多施設前向き研究　中間報告	整形外科 2018 May (0030-5901)69巻6号 Page595-597	Review
61	Hida T, Imagama S	整形外科	【整形外科疾患と慢性炎症】サルコペニアと慢性炎症	別冊Bio Clinica: 慢性炎症と疾患 2018 May 7巻2号 Page67-69	Review
62	Nakashima H, Imagama S, Satake K,他	整形外科	骨粗鬆症性脊椎骨折の治療　Cutting Edge 骨粗鬆性椎体骨折後偽関節に対する手術療法　術式間の手術成績の比較と治療法の選択	臨床整形外科 2018 Apr (0557-0433)53巻4号 Page299-305	Review

63	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, 他	整形外科	【脊椎脊髄手術の安全性を高める予防と対策】(第2章)術後術後C5麻痺に対する予防と対策	脊椎脊髄ジャーナル 2018 Apr (0914-4412)31巻4号 Page377-381	Review
64	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, 他	整形外科	冠名診察法 ルーツもあわせて紹介します(第2回) 頸椎・脊髄編	Loco Cure 2018 May (2189-4221)4巻2号 Page178-182	Review
65	Iwase T	眼科	【糖尿病網膜症の最新情報を読み解く】硝子体手術 最新の治療成績,同時手術の適応,眼血流への影響(解説/特集)	眼科60巻9号 2018 Sep;Page905-911	Original Article
66	Hatano T, Iwase T, Goto K	眼科	内科的治療により網膜動脈塞栓因子の消失を認めたコレステロール結晶塞栓症の一例	眼科臨床紀要 2018 Aug;11巻8号 Page593-595	Case Report
67	Terasaki H	眼科	寺崎浩子;わかりやすい感覚器疾患(別冊)視覚と視覚障害のメカニズム(総説).	日本医師会雑誌 2018 Jun;147(1)特別号	Review
68	Terasaki H	眼科	カレント・トピックス 緑内障診療の進歩.	日本医師会雑誌 2018 May;147(2) 302	Review
69	Sugimoto T, Kondo Y, Ichiki M, 他	薬剤部	非ホジキンリンパ腫患者に対するCHOP療法に伴う発熱性好中球減少症の1次予防におけるペグフィルグラスチムの費用対効果	医療薬学 2018 Sep;44(9): 441-448	Original Article
70	Katayama H, Mishima E, Sasaki T, 他	薬剤部	CapeOX療法の完遂率に影響を与える要因の調査および適切な介入方法を目指した多施設共同研究.	日本病院薬剤師会雑誌 2019 Jan;55(1): 47-52	Original Article

71	Kondo Y, Ejiri M, Masse H, 他	薬剤部	悪性リンパ腫患者に対するCHOP療法に伴う悪心・嘔吐におけるアプレピタントの有用性に関する検討.	日本病院薬剤師会雑誌 2019 Mar;55(3): 279-285, 2019	Original Article
72	Naganawa S	放射線科	2019年　最新医療機器の動向を探る　CTおよびMRIなどの画像診断機器の最新潮流ならびに今後のあり方	医療機器システム白書 2018 Nov: 14-17.	Review
73	Nagano K, Kaneko S, Koyama C, 他	皮膚科	ネフローゼ症候群を伴った先天性魚鱗癬様紅皮症	皮膚病診療　2019 Jan; 41(1): 41-44	Case Report
74	Takeichi T	皮膚科	【最近のトピックス2018】皮膚疾患の病態　遺伝性角化症における復帰変異	臨床皮膚科　2018 Apr; 72巻5号　Page51-54	Original Article
75	Adachi L, Takeichi T, Akiyama M	皮膚科	多彩な皮疹を呈し抗BP180抗体陽性であった落葉状天疱瘡の1例	臨床皮膚科 2019 Mar; (0021-4973)73巻3号 Page233-238	Case Report
76	Nagao Y	医療の質・安全管理部	「遅延型アレルギー」への処方箋	医療の質・安全学会誌 2019 Jan;14(1);39-57	Case Report
77	Tanei T, Yasuda A, Nagao Y	医療の質・安全管理部	医師が医療安全へ非協力的な要因とその対策:医師の"6R"に対する行動からの考察	日本医療安全学会機関誌 2018 Oct;(9)12-16	Case Report
78	Goto Y, Ando H, Yamauchi Y, 他	救急科	2個のpress-through package誤飲により小腸穿孔と胃内異物を同時に生じた1例	日本臨床救急医学会雑誌. 2018 Dec;21(6):772-775	Case Report

79	Hiramatsu M, Sone M	耳鼻咽喉科	【脳・頭頸部・感覚器における手技】内視鏡的咽喉頭手術(ELPS)の現状と応用(解説/特集)	Medical Photonics. 2019 Jan; 27号:38-42.	Original Article
80	Hiramatsu M	耳鼻咽喉科	【頸部腫瘤を熟知する】疾患の概要と治療法　頸部腫瘤の治療に取り組む　転移性リンパ節(解説/特集)	JOHNS. 2018 Dec; (0910-6820)34巻12号: 1729-1731.	Original Article
81	Hiramatsu M	耳鼻咽喉科	咽喉頭・食道の経口手術・ロボット支援手術 経口的内視鏡下下咽頭切除術　始める前に知っておきたいこと(解説)	日本気管食道科学会会報. 2018 Apr; (0029-0645)69巻2号: 104-106.	Case Report
82	Kobayashi M, Tsuge U, Miyake A,他	耳鼻咽喉科	補聴器両耳装用により語音弁別能が著明改善した症例の検討	日本耳鼻咽喉科学会会報. 2018 Nov; 121(10): 1273-1278.	Case Report
83	Yokoi S, Nishio N, Mukoyama N, 他	耳鼻咽喉科	頸部に発生した巨大異所性胸腺腫例	日本耳鼻臨床学会.2018 Sep; 111(9): 645-649.	Case Report
84	Simono M, Nakamura K, Fuzimoto Y, 他	耳鼻咽喉科	眼咽頭筋ジストロフィーに伴う声帯萎縮に対して甲状軟骨形成術Ⅰ+Ⅲ型を施行した1例	耳鼻と臨床.2018 Sep; 64(5): 189-196.	Case Report
85	Sumida W, Uchida H, Tanaka Y,他	小児外科	【臍ヘルニア:手術と圧迫】臍圧迫療法直後に臍動脈索からの大量出血を認めた1例	小児外科 2018 Apr;50(4):411-413	Case Report
86	Yokota K, Uchida H, Tanaka Y, 他	小児外科	保存的治療で軽快した特発性大網捻転症の1例	日本小児外科学会雑誌 2018 Apr;54(2):302-306	Case Report

87	Uchida H, Tanaka Y, Tainaka T,他	小児外科	【小児外科における消化器内視鏡外科手術】胆道閉鎖症に対する腹腔鏡下肝門部空腸吻合術	手術 2018 May;72(6):861-870	Original Article
88	Tanaka Y	小児外科	【最近の先天性食道閉鎖症関連の手術】特殊型に対する胸腔鏡手術	小児外科 2018 May;50(5):453-456	Original Article
89	Yokota K, Uchida H, Ono Y, 他	小児外科	【新生児外科-最近の話題】先天性心疾患症例における壊死性腸炎の発症	小児外科 2018 Jun;50(6):619-622	Original Article
90	Hinoki A, Shirota C, Uchida H	小児外科	【新生児外科-最近の話題】病態別先天性食道閉鎖症における胸腔鏡下多期的根治術の経験とその治療戦略	小児外科 2018 Jun;50(6):565-568	Original Article
91	Fujiogi K, Tanaka Y, Kawasima K, 他	小児外科	小腸閉鎖症とHirschsprung病が合併した1例	日本小児外科学会雑誌 2018 Jun;54(4):966-972	Case Report
92	Nishio K, Oda H, Chiba K, 他	小児外科	Fast Marching Algorithmに基づく小児CT像からの腸管閉塞部位検出手法	日本医用画像工学会大会予稿集 2018 Jul;37:90-93	Original Article
93	Oshima K, Uchida H, Ono Y, Watanabe Y	小児外科	【ここが危ない小児診療のピットフォール:日常診療編】鼠径ヘルニア類手術　内視鏡手術	小児外科 2018 Aug;50(8):827-831	Original Article
94	Sumida W, Uchida H, Tanaka Y,他	小児外科	【私の施設の術前・術後管理(ICから退院指導まで)】腹腔鏡下鎖肛根治術の術前・術後管理	小児外科 2018 Oct;50(10):1039-1042	Original Article

95	Tanaka Y	小児外科	【技術認定取得医が解説する基礎的内視鏡外科手術】精索静脈瘤手術	小児外科 2018 Dec;50(12):1263-1266	Original Article
96	Uchida H	小児外科	【技術認定取得医が解説する基礎的内視鏡外科手術】乳び胸手術	小児外科 2018 Dec;50(12):1195-1198	Original Article
97	Chiba K, Tanaka Y, Shirota C, 他	小児外科	【新生児外科疾患の精神・身体発育】先天性横隔膜ヘルニアにおける中・長期的な精神運動発達	小児外科 2019 Jan;51(1):25-30	Original Article
98	Yokoyama Y, Nagino M	消化器外科一	高度侵襲外科手術における術後感染性合併症と腸内細菌叢の関係	腸内細菌叢を標的にした医薬品と保険機能食品の開発. 2018 Sep;17-178	Original Article
99	Miyata K	消化器外科一	手術操作まるわかり辞典	消化器外科NURSING. 2018 Aug; 23(8); 59-62	Original Article
100	Miyata K	消化器外科一	消化器外科12術式の図解ノート: 幽門側胃切除術、噴門側胃切除術、胃全摘術	消化器外科NURSING. 2018 Nov; 23(11); 6-21	Original Article
101	Aiba T	消化器外科一	【病棟ケアのポイントねらいうち 見て即わかる! 消化器外科12術式の図解ノート】直腸切除・切断術	消化器外科Nursing. 2018 Nov; 23(11): 996-1000	Original Article
102	Aiba T	消化器外科一	【病棟ケアのポイントねらいうち 見て即わかる! 消化器外科12術式の図解ノート】結腸切除術	消化器外科Nursing., 2018 Nov; 23(11): 991-995	Original Article

103	Aiba T, Uehara , Tanaka M, 他	消化器外科一	【ここが知りたい!腹腔鏡下大腸手術】腹腔鏡下側方郭清術	消化器外科. 2018 Jun; 41:1053-1059	Original Article
104	Onoe S, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	IPNBは胆管癌の前癌病変か ②前癌病変ではないとする立場から	膵・胆道癌FRONTIER. 2018 Aug; 7: 18-20	Original Article
105	Onoe S, Shimoyama Y, Ebata T, 他	消化器外科一	IPNBは独立した疾患か？	胆と膵. 2018 Aug; 39: 699-701	Original Article
106	Ebata T, Mizuno T, Yokoyama Y, 他	消化器外科一	左肝・尾状葉切除に必要な局所解剖ー右肝動脈後枝のバリエーションを中心に	臨床外科. 2018 Oct; 73: 166-170	Original Article
107	Ebata T, Mizuno T, Yokoyama Y, 他	消化器外科一	胆道癌の集学的治療戦略	外科. 2018 Jul; 80: 851-858	Original Article
108	Ebata T	消化器外科一	肝門部胆管癌の術前評価法と治療戦略の決定	日本医事新報. 2018 May; 4908: 56	Original Article
109	Mizuno T, Ebata T, Nagino M	消化器外科一	【癌手術エキスパートになるための道】領域別 胆道癌手術エキスパートへの道	臨床外科. 2018 Sep; 73: 1122-1126	Original Article
110	Nagino M	消化器外科一	高齢化社会における高難度外科手術	肝胆膵治療研究会誌. 2018 Aug; 15: 91-92	Original Article

111	Uehara K, Aiba T, Mukai T, 他	消化器外科一	【Marginally resectable局所進行大腸癌への治療戦略】前方隣接臓器へ浸潤する局所進行直腸癌に対する外科的治療戦略	日本外科学会雑誌. 2018 Sep; 119: 488-495	Original Article	
112	Aiba T, Uehara K, Tanaka M,他	消化器外科一	【ここが知りたい!腹腔鏡下大腸手術】腹腔鏡下側方郭清術	消化器外科. 2018 Jun; 41: 1053-1059	Original Article	
113	Mukai T, Uehara K, Aiba T, 他	消化器外科一	【ビギナーズ特集"みるみるわかる"マジカル図解　消化器外科の解剖・疾患・手術・ケア】(3章)手術編　直腸切除・切断術(低位前方切除術・マイルズ手術・ハルトマン手術)	消化器外科Nursing. 2018 Apr; 23: 332-333	Original Article	
114	Mukai T, Uehara K, Aiba T, 他	消化器外科一	【ビギナーズ特集"みるみるわかる"マジカル図解　消化器外科の解剖・疾患・手術・ケア】(3章)手術編　結腸切除術	消化器外科Nursing. 2018 Apr; 23: 330-331	Original Article	計114件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・　手順書の主な内容 倫理審査委員会業務（利益相反マネジメント、試料等の保管、対応表の管理、有害事象、審査受託、教育等）及び　研究者の申請についての手順・方法等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年43回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・　規定の主な内容 利益相反の定義、教職員等の責務、委員会の組織等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年7回
・研修の主な内容 臨床研究法について、倫理委員会の歩みとこれから、臨床研究法への対応を踏まえた臨床介入研究の倫理審査について、研究活動における不正行為の防止について、観察研究の倫理審査について、人を対象とする医学系研究の基本的事項について、フルゲノム解析研究の実施に関しての倫理的問題点について	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乗せされる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。

また、新しい専門医制度の平成30年4月開始に伴い、全19領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医師資格の取得を目指す後期研修を実施している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	190人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
佐藤　寿一	総合診療科	講師	33年	
葛谷　雅文	老年内科	教授	36年	
清井　仁	血液内科	教授	33年	
室原　豊明	循環器内科	教授	34年	
藤城　光弘	消化器内科	教授	24年	
橋本　直純	呼吸器内科	准教授	25年	
有馬　寛	糖尿病・内分泌内科	教授	31年	
丸山　彰一	腎臓内科	教授	30年	
勝野　雅央	脳神経内科	教授	24年	
榔野　正人	消化器外科一	教授	40年	
小池　聖彦	消化器外科二	講師	31年	
古森　公浩	血管外科	教授	37年	
小倉　靖弘	移植外科	教授	28年	
菊森　豊根	乳腺・内分泌外科	講師	30年	
碓氷　章彦	心臓外科	教授	38年	
芳川　豊史	呼吸器外科	教授	22年	
亀井　譲	形成外科	教授	34年	
内田　広夫	小児外科	教授	30年	
西脇　公俊	麻酔科	教授	35年	
高橋　義行	小児科	教授	27年	
吉川　史隆	産科婦人科	教授	38年	
尾崎　紀夫	精神科	教授	37年	
石黒　直樹	整形外科	教授	39年	
寺﨑　浩子	眼科	教授	39年	
秋山　真志	皮膚科	教授	33年	
後藤　百万	泌尿器科	教授	39年	

曾根　三千彦	耳鼻いんこう科	教授	32年	
長縄　慎二	放射線科	教授	32年	
若林　俊彦	脳神経外科	教授	38年	
松田　直之	救急科	教授	26年	
西田　佳弘	リハビリテーション科	教授	31年	
日比　英晴	歯科口腔外科	教授	32年	
中村　栄男	病理部	教授	40年	
八木　哲也	中央感染制御部	教授	31年	
安藤　雄一	化学療法部	教授	29年	
錦織　宏	卒後臨床研修・ｷｬﾘｱ形成支援ｾﾝﾀｰ	教授	21年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【看護部】

看護部では、論理的思考過程を養い、専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指し研修、教育を実施している。
新人には卒後臨床研修制度を実施し、外科系、内科系の2部署をローテーションすることで、確実な知識と技術を習得し、実践できる看護師の育成を目指している。
特に、フィジカルアセスメントを中心としたsaving lifeナース育成研修を実施し、患者の変化に早期に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師の育成を目指している。
高度急性期病院として、一次救命、二次救命講習会の受講を2年ごとの更新計画で実施している。

【医療技術部】
「信念対立解明アプローチ」～ 医療関係者のためのトラブル対応術 ～に関する研修

・研修の期間・実施回数

【看護部】

平成30年4月～平成31年3月
・44のプログラム、延べ398時間
・一次救命、二次救命講習会、32回開催

【医療技術部】

平成31年3月29日（金）17：30～19：30・１回

・研修の参加人数

【看護部】

延べ3424人

【医療技術部】

５８名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 【臨床研究セミナー】 臨床研究を担う人材の育成を目的とし、先端医療・臨床研究支援センターが毎月1,2回程度開催している。臨床研究に従事する職員（医師及び歯科医師も含む）、研究者、大学院生等を対象としている。講習内容は毎回異なり、法規、知財、モニタリング等、多岐に渡るテーマでセミナーを実施している。 ・研修の期間・実施回数 １セミナーにつき1時間半。 平成30年度はのべ18回開催した。（DVD上映でのセミナー4回を含む） ・研修の参加人数 平成30年度はのべ3,770名が受講した。（DVDでの受講者437名を含む）
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　　(2) 現状
管理責任者氏名	病院長　小寺　泰弘
管理担当者氏名	副病院長、医療の質・安全管理部長　長尾　能雅 病院長補佐、メディカルITセンター長　白鳥　義宗 病院長補佐、薬剤部長　山田　清文 総務課長　壬生　篤志 医事課長　古川　一広

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	・疾病分類 ICD-10 ・管理形態 外来カルテ・入院カルテ 1患者1電子カルテで中央管理(一部紙媒　体にて保存) ・持ち出しに関する取扱い 診療録の持ち出しは原則禁止としている。エックス線写真の持ち出しは,名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項第12及び第13のとおりの取扱とする。(別添参照)
		各科診療日誌	中央管理	
		処方せん	中央管理	
		手術記録	中央管理	
		看護記録	中央管理	
		検査所見記録	中央管理	
		エックス線写真	中央管理	
		紹介状	中央管理	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央管理	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課，医事課	
		高度の医療の研修の実績	人事労務課	
		閲覧実績	総務課，医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課，薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療の質・安全管理部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質・安全管理部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療の質・安全管理部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質・安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	メディカルITセンター	
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室	
		職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項

（趣旨）

第１　名古屋大学医学部附属病院（以下「病院」という。）における病歴等の管理については，この要項の定めるところによる。

（目的）

第２　病歴等の管理は，医学部，大学院医学系研究科及び本院（以下「病院等」という。）における診療・教育及び研究に資することを目的とする。

（定義）

第３　この要項において病歴等とは，本院の患者に係る診療録，X 線フイルム及びそれらの付属書類（以下「診療録等」という。）をいう。

（退院時要約の作成）

第４　全診療科において医師は，全退院患者についての退院時要約を作成する。

２　退院時要約の作成は，退院後 14 日以内とする。

（プライバシーの確保）

第５　病院等の職員及び診療録等の閲覧又は貸出（以下「閲覧等」という。）を希望する者は，次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一　診療情報の秘密保護に関する事項

二　患者情報等の秘密保護に関する事項

三　複写の禁止に関する事項

四　データの保護に関する事項

五　その他診療録等の情報管理に関する事項

（診療録等の管理区分）

第６　診療録等の管理は，メディカル IT センター病歴管理部門（以下「病歴管理部門」という。）が行う。ただし，通院中の外来患者に係る電子媒体に記録された診療録以外の診療録等（以下「外来診療録等」という。）は病歴管理部門が管理し，入院中の患者に係る電子媒体に記録された診療録以外の診療録等は，各病棟が管理する。

２　電子媒体上に記録されていない，他院で記載された診療情報提供書等の診療情報及び本院において指定用紙等に記載された，証明書等（診断書，証明書，同意書等）については，電子媒体上に取込み後，原本を保管する。

（診療録等の管理責任者）

第７　診療録等を適正に管理するため，診療録等管理責任者（以下「管理責任者」という。）を置き，メディカル IT センター長をもって充てる。

（診療録等の保存）

第８　診療録等の保存期間は，次のとおりとする。

一　外来診療録，入院診療録等　受診した診療科の最終受診日から５年間

二　診療録等をマイクロフイルム化及び電子化したもの　永久

２　診療録等の保管方法及び保存期間を経過した診療録の取扱いについては別に定める。

（診療録等の閲覧及び貸出）

第９　診療録等は，原則として診療，教育・研究，公法上の規定及び医事調査等による目的以外は

閲覧等を許可しないものとする。

2　診療録等の閲覧等及び検索に係る遵守事項については，別に定める。

3　診療に必要な外来診療録，入院診療録等は各診療科の依頼に応じ，病歴管理部門が迅速に提供する。

（診療録等の閲覧等の資格）

第10　診療録等の閲覧等ができる者は，次の者とする。

一　病院等に所属し，診療に従事している医師及び歯科医師

二　診療従事者として病院長の承認を得た医師及び歯科医師

三　前各号に掲げる者のほか，病院長又は管理責任者が許可した者

2　法令等の定めにより，診療録等の提出を必要とする場合の閲覧等については，別に定める。

（診療録等の閲覧等の申請及び許可）

第11　病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を希望する者は，病歴管理部門が管理する「診療録等閲覧・貸出申込書」（以下「申込書」という。）を病歴管理部門に提出し，許可を得るものとする。

2　病歴管理部門は，前項の申込書を受理した場合は，閲覧等の資格及び利用目的を確認し，適当であると判断した場合に閲覧等を許可するものとする。

3　閲覧は病歴管理部門閲覧室で行うこととし，貸出は病院等の範囲内とする。

（X線フイルムの院外貸出）

第12　前条第3項の規定にかかわらずX線フイルムの院外貸出については，次に掲げる要件を満たす場合に許可することができるものとする。

一　都道府県及び市町村の条例等により，公費負担医療受給申請書等にX線フイルムの添付が求められている場合の患者（患者が未成年の場合の保護者を含む。以下「患者等」という。）への貸出

二　労災認定等の資料としてX線フイルムの提出が求められている場合の労働基準監督署への貸出

三　診療上の必要事由による他の医療機関への貸出

2　X線フイルムの患者等への貸出の判断は，当該患者が受診している診療科の主治医が行うものとし，主治医が退職している場合にあっては，当該診療科長が判断する。

（診療録等の閲覧等の期間）

第13　診療録等の閲覧等の期間は14日間とする。ただし，再入院患者の前回入院診療録等は退院日までとする。

2　X線フイルムの院外貸出期間は，前項の規定にかかわらず原則として次のとおりとする。

一　公費負担医療受給申請及び労災に係るもの　1月以内

二　その他のもの　2週間以内

3　閲覧等の期間終了後もなお閲覧等の必要がある場合は，病歴管理部門の許可を得るものとし，継続できる閲覧等の期間は，前回の閲覧等期間満了日から14日以内とする。

4　閲覧等の期間内であっても，診療上，当該診療録等が緊急に必要となった場合は，直ちに返却するものとする。

5　病歴管理部門が管理する診療録等は，病歴管理部門内の所定の場所に返却するものとする。

（時間外及び休日等の閲覧等）

第 14　土曜日，日曜日，祝祭日及び 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日における病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等については，あらかじめ許可を得ているものを除き，診療上，当該患者の診療録等が緊急に必要な場合にのみ許可する。

2　前項により病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を行う者は，当該診療録等の所在確認のため，申込書に必要事項を記載して所定の整理箱に投函しておくものとする。

3　前項により病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を行う場合は，閲覧等を行う者が警務員室から病歴管理部門の鍵の貸出を受けて入室し，退出時は消灯，施錠等の確認を行い，貸出を受けた鍵は退出後速やかに警務員室に返却するものとする。

（雑則）

第 15　この要項の実施に関し必要な事項は，名古屋大学医学部附属病院病歴管理委員会の議を経て病院長が定める。

附　則

この要項は，平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附　則

この要項は，平成 22 年 3 月 10 日から実施する。

附　則

この要項は，平成 24 年 4 月 11 日から実施し，平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この要項は，平成 28 年 9 月 14 日から実施する。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	１．計画　　(２．)現状	
閲覧責任者氏名	総務課長　壬生　篤志	
閲覧担当者氏名	総務課病院事務係長　水野克彦	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 病院の管理及び運営に関する諸記録は、公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、保有する法人文書ファイルとして、名称、保存期間、文書管理者、保存場所、その他の事項を記載した法人文書ファイル管理簿を作成し、一般の閲覧に供するとともに、公表しています。		

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　　０件
閲覧者別	医師	延　　件
	歯科医師	延　　件
	国	延　　件
	地方公共団体	延　　件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・　指針の主な内容： ・安全管理に関する基本的な考え方 ・組織に関する基本的事項 ・医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・医療システムの質改善 ・医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・患者との間の情報の共有に関する基本方針 ・患者からの相談等への対応に関する基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（(有)・無　） ・　開催状況：年　17回 ・　活動の主な内容： ・医療事故発生の防止に努め、かつ、発生した医療事故への適切な対応 病院全体の医療の質向上を積極的に図る。 及びこれらの活動のために次の事項を審議する。 ・医療事故の防止及び医療安全推進に関する事項 ・医療上の紛争処理に関する事項 ・医療の質向上に関する事項	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　31　回
・　研修の内容（すべて）： ・全職員、外注業者を対象として、「国際患者安全目標４：安全に手術・侵襲的処置を行う　マーキング、サインイン・タイムアウト・サインアウト」「医療安全の現状報告について」「インフォームドコンセントについて」「JCI受審に向けて」「疼痛の評価と対応・記録」「ポケットガイド(Ver2)概要説明について」「～これだけは押さえておきたい！～IPSGについて」「JCI受審直前対策研修」「ポケットガイドから」等をテーマとした研修を実施 ・TeamSTEPPS研修を計９回実施し、867名が受講した ・新規・中途採用職員を対象として、採用時に医療安全ポケットガイドの内容について研修を実施 ・平成28年度からは、各種会議で医療の質・安全管理部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機関内における事故報告等の整備　（(有)・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・各部門とのインシデント検討会にて報告事例を審議し、改善に結びつける。（38回開催） ・重大事故に関しては外部委員主導の事故調査委員会などを開催し、そこで得られた分析結果や提言を踏まえ、再発防止に結びつける。（3回開催） ・多職種が関連した事例等については、カンファレンス形式による検討会を開催し、改善に活かしている。（3回開催） ・方針・手順書，教育実践，事例抽出，Measure等のグループから成る病院質	

向上推進本部を設置し、業務の質改善に取り組む。（12回開催） ・インシデント報告総件数（11099件）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・　指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的な考え方 ・院内感染対策のための委員会と組織 ・院内感染対策のための従業者に対する研修に関する事項 ・感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・病院感染リスクアセスメントに基づいた感染対策の立案 ・抗菌薬適正使用の推進	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・　活動の主な内容： 院内感染の防止に努めるとともに、発生した感染事例について適切な対応を図る。 これらの活動のため、次の事項を審議する。 ・院内感染の予防及び対策等に関する事項 ・患者の取扱に関する事項 ・医療従事者への感染予防に関する事項 ・その他院内感染、難治感染症対策及び抗菌薬適正使用に関する事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　24　回
・　研修の内容（すべて）： ・全職員、外注業者を対象として、「院内感染対策と抗菌薬適正使用について」「多剤耐性菌が発生しにくい病院へ変えるためには～順天堂医院の経験～」「院内感染対策と抗菌薬適正使用　ＪＣＩに備えて」等をテーマとした研修を実施 ・清掃業者を対象として、「清掃のプロフェッショナル」をテーマとした研修を実施 ・新規・中途採用職員を対象として、採用時に「針刺し・血液体液曝露」などをテーマとした研修を実施	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・全病棟と外来、部門を対象に感染対策の知識、手指衛生などの感染対策の実施状況、環境整備のチェックを中心としたICTラウンドの実施 ・MRSAなどの薬剤耐性菌等の新規検出症例数の独自介入基準を設け、基準に合致した部署に対して手指衛生観察巡回などを実施し、手指衛生や感染経路別対策感染対策の強化を図っている ・NICUとの定期的なミーティングの実施、SICU/EMICUのミーティングへの参加 ・抗菌薬適正使用の推進を目的とした薬剤部とのミーティング ・診療科横断的な感染症症例コンサルテーションと血液培養陽性例への介入 ・4職種の実務的メンバーによるICTコアミーティングを週1回行い、全病院的に感染対策が漏れなく実施されるよう検討・管理している	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　5　回

・　研修の主な内容：
・医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床工学士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用について：国際患者安全目標、薬剤保管の方針、患者が自己投与用として病院に持ち込んだ薬剤の管理、処方または指示の適切性の確認)を実施した。
・医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床工学士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用：JCI受審に備えて)を実施した。
・入職時職員を対象とした研修（入職時オリエンテーション：医薬品）を実施した。
・新任看護師を対象とした研修（薬剤管理①、薬剤管理②）を実施した。
・研修医を対象とした研修（薬剤安全プログラム・医薬品の取り扱いについて）を実施した。

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　　（(有)・無　）
・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：
医薬品安全管理責任者の業務に関する事項、医薬品の採用・購入に関する事項、医薬品の管理に関する事項、患者に対する投薬指示から調剤に関する事項、患者に対する与薬や服薬指導に関する事項、医薬品の安全使用に係わる情報の取り扱いに関する事項、ハイアラート薬の取り扱い、名称類似および外観類似薬の取り扱い、他施設との連携に関する事項、適応外の使用、禁忌等の処方に係わる確認および指導に関する事項、医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の遂行に関する事項

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（(有)・無　）
・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
採血で血清セレンの血中濃度が低値で、爪の色素異常の存在よりセレン欠乏症が疑われた完全静脈栄養を実施していた患者が当院を紹介された。長期に完全静脈栄養の実施既往もあり、血清セレンの低値さらに上記臨床症状より、セレンの経静脈的な補充が必要と考えられた。以上より、セレン欠乏症の診療指針2016（日本臨床栄養学会）に従い、静脈栄養施行時のセレン欠乏症またはセレン欠乏の予防を目的として、院内製剤である亜セレン酸注射液を投与することを検討された。院内製剤「亜セレン酸注射液(セレン25μg/mL)4mL」（クラスⅠ)の特殊製剤依頼書が薬剤部製剤室に提出され、当該院内製剤の調製について薬剤部で承認された。当該患者への亜セレン酸注射液の使用について未承認薬使用申請が特殊製剤依頼書とともに未承認新規医薬品等管理室へ提出された。未承認薬使用申請を受理し、申請書類、引用文献等確認し、疑問点等を申請医師に確認した。その後、未承認新規医薬品等評価委員会に審査を依頼した。評価委員より挙がった指摘事項を申請医師に連絡し、対応いただいた。未承認新規医薬品等評価委員会より申請について意見をいただき、医薬品安全管理責任者により適当と判断された。その後、亜セレン酸注射液は投与され、近医にて測定された血中セレン濃度は上昇を認め、有効と判断された。副作用は報告されなかった。

・　その他の改善のための方策の主な内容：
・院内で収集されたインシデント報告等から業務を見直し、方針・手順書やマニュアルを改訂している。
・薬剤部のクオリティー＆セーフティマネジャーおよび病棟担当薬剤師が、診療科（部）、病棟、中央診療施設などにおいて、医療の質・安全管理部と連携して、各部署内における医薬品の安全管理に関する指導を行っている。
・医薬品に係わる適正使用に関する情報や副作用情報を薬事委員会や医療の質向上と安全推進委員会等で報告している。
・必要に応じて薬品情報室から安全使用のための情報を文書にて各病棟、外来診療科、その他の部署に配布するとともにメールにて配信している。さらに、電子カルテのDI参照のお知らせ画面、薬剤部ウェブサイトにも安全使用のための情報を掲載し職員への周知徹底に努めている。

・重要度の高い情報については、電子カルテのトップページや院内広報：薬剤部ページにも掲載している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	随時

・　研修の主な内容：
・人工呼吸器・除細動器など特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる機器に関して、・医療機器・材料安全管理室が年2回実施。
・放射線部門にて直線加速器と放射線照射装置に関する年2回の定期研修を実施。
・その他の医療機器についても各部署にて適宜勉強会を実施。
（随時実施）
・新卒者のオリエンテーションにて、医療機器の安全使用のための研修を実施。
・研修医や看護師を対象に臨床工学技士・メーカーによる研修の実施。

③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

・　医療機器に係る計画の策定　（(有)・無　）
・　機器ごとの保守点検の主な内容：
・医療機器の管理を医療機器管理ソフトにて行っており、購入日・使用場所・保守点検状況等の管理を行っている。
・臨床工学技士が生命維持管理装置（人工心肺・血液浄化・不整脈・心臓カテーテル・OPE・ICU関連）の操作・保守点検・管理を行っている。
・院内で中央管理する機器の定期点検は電気安全解析装置などのシミュレーターを用いて実施している。また交換パーツについてはメーカー講習会を受講し、供給を受けて院内で行っている。
・ダヴィンチやX線撮影装置など保守契約を結んでいるものについては、機器の空き状況を確認し実施している。
・手術室に委託業者が常駐して医療機器の日常点検や不具合発生時の対応などを行う、医療機器保守管理業務契約を締結している。
・その他医療機器についても、必要に応じ定期点検等の保守契約を結んでいる。

④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無　）
・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：
・未承認については、H30年度の実績ない。
・適用外については、Nブチル-2-シアノアクリレート（NBCA）を適用外使用した事例。
腫瘍病変、血管瘤、血管奇形、血流改変等の治療で動脈塞栓術や静脈塞栓術を行う際に、NBCAは血管内で瞬時に固まり十分な塞栓効果が得られ、液状塞栓物質であることからカテーテルの通過性も良好で、血管塞栓術の塞栓材として優れている。しかしNBCAの血管内使用は、保険適応がなく薬剤添付文書では使用禁忌となっている。しかし、NBCA以外に有用な液状塞栓物質はないため、NBCAを用いて血管塞栓術を行った。

・　その他の改善のための方策の主な内容：
PMDAやメーカー、納入業者からの報告を受理し、MLCEニュースやMDI通知メール、電子カルテに掲載するなど電子媒体を利用して関連部署での情報共有を実施している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

①　医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 　医療安全管理責任者を配置しており、医療の質・安全管理部長、医療の質向上と安全推進委員会委員長を務め、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
②　専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（15名）・無
③　医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報は、整理した上で薬事委員会月例報告として院内へ周知している。周知状況の確認は、各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行っている。また、各診療科の周知状況は薬事委員会にて報告している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 （適応外） 　適応外については、薬品情報室が未承認新規医薬品等評価委員会で承認した適応外使用医薬品を「適応外投与（承認）一覧」として部内に配信し情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、未承認新規医薬品等評価委員会への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。 （禁忌） 禁忌処方をチェックするシステムは電子カルテ上にあり、医師が処方確定時にアラートが表示される。また、薬剤部で印字された処方せんの下部にもアラートが印字される。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。 （未承認薬） 　未承認薬は未承認新規医薬品等評価委員会へ申請し承認を得た上で使用されている。必要に応じて副作用報告や個別の経過報告を行っている。 　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品取扱要項」および「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品等評価委員会に関する要項」を制定した。	

・担当者の指名の有無 （有・無）	
・担当者の所属・職種：	
（所属：薬剤部 ，職種 薬剤師 ） （所属： ，職種 ）	
（所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ）	
（所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ）	
（所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	（有・無）
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有・無 ）	
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：	
目的、方針、適応範囲、定義、役割と責任、遵守と監視、手順、説明と同意の種類、説明と同意の確認のプロセス、説明・同意書の文書様式、説明及び同意に関し問題が起こった場合、等	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	（有・無）
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：	
「診療録等内部監査要項」に基づいて、記載内容の確認を行い、その結果を毎月病歴管理委員会で報告をしている。該当診療科の病歴管理委員へカルテ監査チェックシートをフィードバックし診療録等の精度向上に努めている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	（有・無）
・所属職員：専従（8）名、専任（ ）名、兼任（7）名	
うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（4）名	
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名	
うち看護師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（ ）名	
（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること	
・活動の主な内容：	
・JCI 基準に準拠した方針・手順書の作成と遵守状況のモニタリング	
・品質管理手法を用いた改善効果の測定	
・全部門からのインシデント・アクシデント情報の集積と分析	

・院内の伝達会議、安全研修、学生教育等による周知、啓発

・重大アクシデントに対し，病院全体で対応できる治療連携体制の起動

・医療事故に対する第三者による事例検証（医療事故調査）

・適切なインフォームド・コンセント体制の整備

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（11 件）、及び許可件数（11 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

・申請内容を確認するとともに、委員会に対し提供の適否等について意見を求める

　・部門の長は、委員会の意見を踏まえ提供の適否等について決定し診療科長へ通知

　・部門の長は、適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、定期的、又は患者が死亡した場合には、手術記録、診療録等の記載内容を確認

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・医薬品における前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（０件）、及び許可件数（０件）

・医療機器における前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（２件）、及び許可件数（２件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

（医薬品の場合）

診療科の申請医師は申請書類を薬剤部未承認新規医薬品等管理室に提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は申請書類（申請書、説明同意文書、確認表）と引用文献等の内容を確認し、疑義等について申請者に回答の依頼をする。その後、未承認新規医薬品等評価委員会にて評価委員が申請内容を審査する。事前に評価委員から指摘事項等を挙げ、その内容を申請医師に連絡する。申請医師は書類の修正等委員会前にできるだけ対応していただき、未承認新規医薬品等評価委員会で申請内容の説明、指摘事項等の回答等をする。

申請が適当と判断され、患者に使用された後、申請医師は定期的に経過報告書を提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は、同意の取得、副作用がモニタリングされているか等遵守状況ついて確認を行う。

（医療機器の場合）

未承認新規医療機器等の使用の適否及び使用条件について、医療機器選定委員会にて審議した。使用医療機器の必要性や安全性、患者への同意書の内容について重点的に審議した。また、過去に承認し、継続的に使用している未承認新規医療機器についても、使用状況、不具合事例がなかったかを審議した。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 400 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 304 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡状況の確認及び審議

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：福島県立医科大学附属病院） ・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：大阪市立大学医学部附属病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

・インシデントやアクシデントの報告等の状況，医療安全管理委員会の業務の状況，医薬品等の安全使用体制の状況，高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の適否等を決定する部門の運用状況，監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況についての助言があった。助言を受け、以下の対応を図っている。

・インシデント・アクシデント報告体制、そのスクリーニングから医療安全管理委員会を経て重要事項のフィードバック等の体制については、高い評価を得ており、引き続きその実効性を維持するように努めている。

・未承認新規医薬品等の実施報告の期間について、医薬品に応じて検討し、定期的に使用状況を報告している。

・放射線未読レポートについて、基準を定めて、緊急対応を要する症例の場合に報告する体制を整えた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

地域連携・患者相談センター：相談窓口にて一次対応を行なっている。

安全管理に関連する事案については、医療の質・安全管理部と連携しながら適切に応じる体制を整えている。

各種相談については、担当者が対応。

地域連携・患者相談センター：相談員３名、ＭＳＷ１２名、看護師９名

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

・全職員、外注業者を対象とした研修で、インフォームドコンセント、公益通報窓口の設置等について説明を行った。
・TeamSTEPPS研修を計９回実施し、867名が受講した。
・新規・中途採用職員を対象として、採用時に医療安全ポケットガイドの内容について研修を実施。
・平成28年度からは、各種会議で医療の質・安全管理部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。
・e-learning研修を導入し、研修実施後の学習効果の測定を行っている。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1

日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成３０年度特定機能病院管理者研修」を受講した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
基準の主な内容 １．人格が高潔で，学識が優れ，医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。 ２．医学部附属病院等における学生への教育，学術研究及び社会貢献に関して，調和のとれた運営を行うことができる者であること。 ３．医学部附属病院の運営にあたり，構成員の意見に耳を傾けつつ，迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。 ４．診療，臨床教育，臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し，医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち，多職種からなる構成員に対して，優れたリーダーシップを発揮できる者であること。 ５．医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え，医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。 ６．医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。 ７．国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。 ８．医学部附属病院の現状を正確に分析するとともに，中長期的な目標に向かって将来ビジョンを具体的かつ明確に示し，全学及び医学部附属病院の課題について，総長と連携して取り組むことができる者であること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法　　ホームページにて公表	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	選定理由	特別の関係
和田　肇	名古屋大学	○	理事又は副総長のうち総長が指名した者	有・無
長谷川　好規	名古屋大学		医学部教授会において構成員の専任教授のうちから選出された者	有・無
石黒　直樹	名古屋大学		医学部教授会において構成員の専任教授のうちから選出された者	有・無
後藤　百万	名古屋大学		医学部教授会において構成員の専任教授のうちから選出された者	有・無
柵木　充明	愛知県医師会		総長が委嘱した学外の有識者 名古屋大学医療安全管理業務監査委員会委員長として、本院の医療安全管理体制等について深い見識を有している。	有・無
鳥羽　研二	国立長寿医療研究センター		総長が委嘱した学外の有識者 名古屋大学特定臨床研究監査委員会委員長として、本院の臨床研究業務等について深い見識を有している。	有・無
平田　雅也	愛知県健康福祉部		総長が委嘱した学外の有識者 愛知県の医療に係る行政の担当責任者として、愛知県の医療行政について深い見識を有している。	有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
病院の経営，管理及び人事に関する企画，立案及び方針を決定する。

・審議の概要の従業者への周知状況
病院部長会において各診療科長に報告するとともに、病院連絡会において各医局長に決定事項を周知している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無）

合議体の委員名簿

氏名	委員長 （○を付す）	職種	役職
小寺　泰弘	○	医師	病院長
西脇　公俊		医師	副病院長
曾根　三千彦		医師	副病院長
丸山　彰一		医師	副病院長
長尾　能雅		医師	副病院長
藤井　晃子		看護師	副病院長
永家　清考		事務	副病院長
安藤　雄一		医師	病院長補佐
松下　正		医師	病院長補佐
白鳥　義宗		医師	病院長補佐
山田　清文		薬剤師	病院長補佐
安藤　善孝		臨床検査技師	医療技術部長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・　公表の方法
名古屋大学ホームページに掲載

・　規程の主な内容

病院長の権限に関する内容は下記のとおり

・病院長は，病院の管理，運営をつかさどり，所属職員を統督する。
・病院長は，病院で行われる診療について，その実施状況の報告を求め，又は自ら調査し，必要に応じて是正又は停止を命ずることができる
・部長，科長，センター長，部門長等（以下「部長等」という。）の任命は，病院長が行う。
・病院長は，部長等が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは，これを免ずることができる。
　一　勤務実績がよくない場合
　二　心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合
　三　その他必要な適性を欠く場合
・部長等は，別に定める手続きを経ることなく，その意に反して免ぜられることはない。
・病院長は，第4項の規定により部長等を免じたときは，その理由を明らかにしなければならない。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副病院長は，病院長から指示された具体的な事項を担当し，及び病院長が海外渡航等で不在の場合は，あらかじめ病院長が指名した副病院長が，病院長の職務を代行する。
副病院長は，病院長の職務を円滑に遂行させるため，病院の管理・運営等に関する企画・立案にかかわるとともに，広報の職務又は病院の教育・研究・診療にかかわる職務を分担する。
病院長補佐は，病院全体の立場に立ち，病院の管理・運営等に関し提案された企画立案等を検討し，病院長に提言する。

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成３０年度特定機能病院管理者研修」を受講。
新任部課長が、国立大学病院長会議が開催する「国立大学病院新任部課長研修」を受講。

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年　２　回

・活動の主な内容：

以下に掲げる事項を監査する。

・医療安全管理に係る体制

・医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況

・医療の質・安全管理部の業務の状況

・医療の質向上と安全推進委員会の業務の状況

・その他医療安全管理に関して必要な事項

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

名古屋大学医学部附属病院ホームページにおいて公開

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
柵木　充明	愛知県医師会	○	愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
三島　信彦	AOI 名古屋病院		AOI 名古屋病院病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
長谷川　ふき子	成田・長谷川法律相談所		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているた	有・無	1

			め。		
芦田　豊	全国健康保険協会愛知支部		全国健康保険協会愛知支部長を務めており，医療を受ける者として，医療に係る高い見識を有しているため。	有・無	2
中東 正文	名古屋大学		総長が指名する理事・副総長	有・無	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 名古屋大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規程、内規等の整備状況及び実施状況、年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況、人事管理状況などについて監査を行っている。 また、「名古屋大学における内部統制システムの整備及び運用に関する規程」を整備し、病院も含めた全学の業務状況を確認するため、内部統制委員会を年一回開催することとした。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 名古屋大学ホームページに掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 名古屋大学役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長、又は副病院長が出席し審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（　年４８回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（　年３回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 名古屋大学ホームページで公表
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 名古屋大学ホームページに掲載するとともに、職員に配付している「医療安全ポケットガイド」においても掲載し、案内している。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	(有) 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 JCI（Joint Commission International） 平成３１年２月２３日から令和４年２月２２日まで	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有) 無
・情報発信の方法、内容等の概要 １．附属病院における臨床研究成果を①名古屋教育記者会会員１５社へFax、記者会見を通じてプレスリリースを行い、②医学系研究科ホームページに研究トピックスとして掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。 ２．診療内容・医療サービスや診療実績等の医療情報について、附属病院ホームページにおいて公開している。 ３．患者や地域向けに広報誌を作成し、広く頒布している。また、一般市民を対象とした公開講座を毎年度開催し、地域市民に向けた教育・啓発活動にも取り組んでいる。	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有) 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ア．補助人工心臓を用いた重症心不全治療…心臓移植治療、心臓外科、循環器内科、ICU、麻酔科、精神科の診療科の他に、看護師、　臨床工学技士、理学療法士（心臓リハビリ）、臨床心理士、栄養管理部、薬剤部が合同して患者管理を行っています。植込型補助人工心臓治療は心臓移植	

適応患者を対象とするため、多職種カンファレンスで適応を審査し、補助人工心臓移植から在宅管理、将来的な心臓移植までのシームレスな重症心不全治療を多職種で行っています。

イ.肝臓移植はチーム医療で行っている。（図１）

ウ．神経線維腫症1型患者に対して、１５歳までと１５歳以降に分け、それぞれ基本的に診療を担当する科を決め、他は症状に合わせて診療科を決めるシステムを構築した。１５歳までの診療システムを示す。（図2）

エ．肉腫患者に対するサルコーマボード：整形外科、化学療法部、放射線科、緩和ケア科、外科、泌尿器科などが参加して、肉腫患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している

オ．大動脈疾患における人工血管治療とステント治療の同時ハイブリッド手術…心臓外科と血管外科が合同して手術を行っている。

カ．閉塞性動脈硬化症、血管炎、バージャー病による四肢虚血に対する血管新生療法…循環器内科と血管外科が合同で適応検討、諸検査、治療を行っている。

キ．NST、褥瘡対策チーム、RSTなど、複数診療科の医師と看護師、およびコメディカルからなる専門チームを整備し、定期回診や職員に対する教育活動を行っている

図１

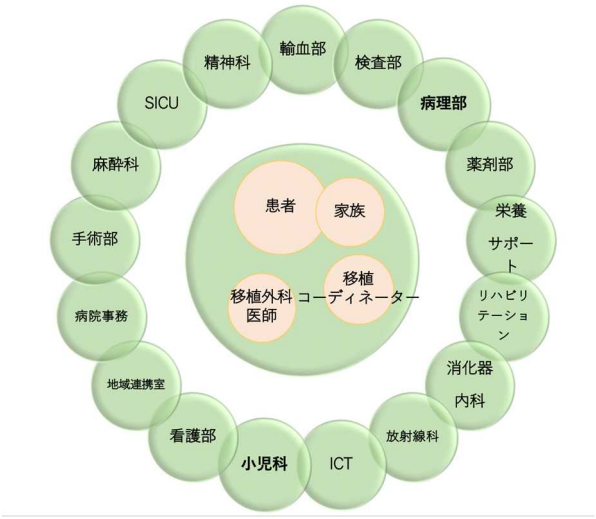
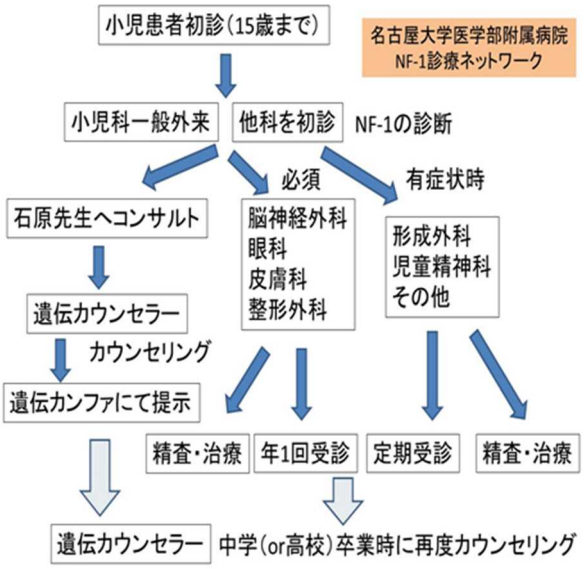
図２